

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (79)

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XII

# 大坪遺跡

(鹿児島県出水市)

上 巻

2005年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

## 序 文

この報告書は、九州新幹線鹿児島ルート建設工事に伴って、平成10年度から平成12年度にかけて実施した出水市美原町に所在する大坪遺跡の発掘調査の記録です。

平成16年3月13日に待望の九州新幹線鹿児島ルートが部分開業（鹿児島中央駅～新八代駅間）し、多くの人びとや情報が行き交って、21世紀に飛躍する鹿児島を象徴しています。新幹線開通に至るまでには30年余を要してさまざまな分野での関わりがありましたが、埋蔵文化財との調整もその中の一つでした。発掘調査は、平成5年4月に西鹿児島駅緊急整備事業の一環として鹿児島市武遺跡の調査を開始し、平成13年5月末、川内市京田遺跡を最後に21か所の発掘調査全てを終了しました。

本遺跡では縄文時代の終わり頃を中心に、古代・中世など多彩な遺構や遺物が発見され、出水地方の歴史の一端を垣間見ることができました。縄文時代後期終末から晩期にかけては、37基の埋設土器をはじめ勾玉・管玉などの玉類、各種土器や石器が多く出土しました。奈良時代から平安時代初期の竅穴住居に伴うつくり付けの竈の発見例は、他県では一般的にみられるものの県内では初めての検出となりました。また、平安時代末から鎌倉時代初期には、東西南北に合わせた大規模な土地区画である条里型地割が行われていたことがわかりました。

この調査の成果が地域の歴史研究や埋蔵文化財の啓発普及の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査に当たり御協力いただいた日本鉄道建設公団九州新幹線建設局及び出水市の関係部局並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター  
所長 木原 俊 孝

# 報 告 書 抄 録

書 名	大坪遺跡							
副 書 名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次	Ⅻ							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	79							
編 著 者 名	東 和幸 野間口 勇 関 明恵 森 雄二 長崎 慎人郎 宮田 栄二 八木澤 一郎 川口 雅之 山元 真美子 上床 真							
編 集 機 関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒899-4461 鹿児島県四分市上之段1175番地1 Tel. 0995-48-5811							
発 行 年 月 日	西暦2005年3月							
所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	連絡番号					
大坪遺跡	鹿児島県	46208	051	32°	130°	1999.5.6～	27,247㎡	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
	山水市			05'	21'	2000.3.31.		
	美原町			51"	23"	2000.5.1～ 2001.3.27.		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大坪遺跡	敷布地	縄文後期終末～晩期	棚段土器、凹地、土坑、焼土、石溜り、ドングリピット		土加世田式土器、人佐式土器、黒川式土器、石器各種、玉類各種		埋設土器の検出数は県内で最も多い。 玉類の製作地である。	
		古代初期	竪穴住居跡、焼成土坑、土坑、溝状遺構		須恵器、土師器、甗、土師、鉄製品、櫛の羽口、鉄鎌車、馬の歯、刻書土器、ガラス玉、円面硯?		竪穴の竪穴住居跡及び焼成土坑の検出例は県内で最初である。	
		古代末～中世	竪立柱建物跡、溝状遺構、波板状凹凸面、桑里型地割		青磁、白磁、土師器、滑石製石剣、磁石		県内で桑里型地割が発掘調査されたのは初めてである。	
		近世～近代	波板状凹凸面、道跡		陶摩庵、輸入陶磁器、肥前系陶磁器、キセル、金属製かんざし、鉛筆		各時代の波板状凹凸面のさまざまな距離は共通する。	

八代海



大坪遺跡の位置 (1/50,000)



# 例 言

- 1 本報告書は、平成11年度・平成12年度に、鹿児島県立埋蔵文化財センターが日本鉄道建設公団九州新幹線建設局の受託事業として実施した「九州新幹線鹿児島ルート建設」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査の時点では小字名により、大坪遺跡・見人來遺跡・榎木田遺跡に分けていたが、遺跡自体が時期的にも空間的にも連続していることから、本報告書では全体を大坪遺跡として報告することとする。
- 3 調査の組織は、「第1章 発掘調査の経緯」の中に記した。
- 4 本書に用いたレベル数値は、海抜絶対高である。
- 5 遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・表・写真図版の番号は一致する。
- 6 本報告書に掲載した遺構・遺物の縮尺はそれぞれの挿図内に提示してある。
- 7 遺構・遺物の実測や製図は主として担当職員のもと臨時職員及び委託業者が行った。  
遺構の実測及び玉類の実測製図については、埋蔵文化財サポートシステム（以下、埋文サポート）に委託した。また、石器類の実測製図については、九州文化財研究所に委託した。
- 8 本報告書に使用した写真図版のうち、遺構撮影を高岡和也が主に行い、遺物撮影については当センターの西園勝彦が主に行った。
- 9 玉製の石材産地分析を京都大学原子力実験所の藤科哲男氏に、また、各種科学分析については国立環境研究所に依頼し、その分析結果を掲載した。
- 10 遺物で山上地点が不明なものもあるが、平成11年9月23日の台風でプレハブが飛ばされ、遺物カードが分離してしまったものである。また、担当者の不注意でわからなくなってしまったものもある。
- 11 石器の分類は東が行ったものを、宮田栄二が確認した。
- 12 石器の石材鑑定については東が行ったものを、宮田栄二が確認した。
- 13 土師器及び須恵器の分類については東が行ったもの

- のを、当センターの中村和美が確認した。
- 14 鉄製品の保存処理及び赤色顔料の分析については、当センターの水濱功治が行った。
  - 15 遺構及び遺物の該当時期は、目次の各時期に合わせてあるが、レイアウト等の都合上必ずしもそうでない場合もある。記述及び表等で確認していただきたい。
  - 16 出土した遺物は、報告書作成後、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、活用する予定である。
  - 17 本報告書の執筆・編集は、東和幸・関明恵・八木澤一郎・宮田栄二・川口雅之・野間口勇・山元真美子・森雄一・長崎慎一郎・上床真が行った。
  - 18 各項目の執筆は、次のとおり分担して実施し、それ以外の文責は東である。

第Ⅱ章 第1節 遺跡の位置と立地	森・長崎
第Ⅱ章 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	野間口
第Ⅲ章 第3節 各グリッドの状況	野間口・東
第Ⅳ章 第1節 2. (2) ⑤ ビエスエスキュー	宮田・東
⑦ 石核	宮田・東
⑨ 石製土掘具	川口
⑩ 磨石・敲石・世石	八木澤・東
⑬ 石鏝	山元・東
⑭ 異形石器	宮田・東
第Ⅳ章 第3節 1. (4) 十坑	野間口・東
第Ⅳ章 第3節 1. (6) ⑬×⑭の土坑等	野間口・東
第Ⅳ章 第3節 2. (1) 惣穴柱建物跡	八木澤・東
第Ⅳ章 第3節 2. (2) 十坑	野間口・東
第Ⅳ章 第3節 3. (1) 十坑	野間口・東
第Ⅳ章 第3節 4. (5) ① 紡錘車	山元・東
第Ⅳ章 第3節 4. (5) ② 十鎌	山元・東
第Ⅳ章 第3節 4. (10) 陶磁器	関
第Ⅳ章 第3節 4. (13) 鉄製品	野間口
第Ⅳ章 第4節 2. 近世接納・現存出土遺物	野間口
第Ⅵ章 調査のまとめ	東・上床・野間口

- 19 本報告書は上巻と下巻に分かれているが、遺物番号・図番号・表番号及びページは通し番号となっている。下巻は第Ⅳ章第2節以降を掲載している。

# 凡 例

1 例言に記したが、発掘調査時点で分けていた見入来遺跡及び榎木田遺跡を含めて大坪遺跡と総称する。03区～01区が榎木田遺跡の範囲であり、1区～8区が見入来遺跡の範囲である。これより以南を大坪遺跡の範囲として調査時には進めてきた。したがって、記述の上では遺跡名で呼んだり、区名で呼んだりする部分が出てくるので、予めご了承いただきたい。

2 調査時点での遺構名と本報告書での遺構名の対応は、表5～表9に示してある。

3 調査時点での遺物取上番号と本報告書での遺物番号の対応は、各遺物観察表に示してある。

4 調査日誌抄は、調査時点で認識していたことをそのまま書いているので、本文の内容と異なる部分もある。

5 溝状遺構及び道路遺構については、それぞれ検出した長さが異なるので、1ページに収まるように調整してある。したがって、各遺構の縮尺率は異なり、それぞれスケールを添えてある。なお、断面図は1/50に統一した。

6 各遺構については、方位、スケール、公共座標を表示し、断面図には絶対高を記す。

7 断面を切った部分は、▶、◀で示し、断面が複数ある断面図の場合は、アルファベットを添えた。

8 断面を切った線がない場合は、見通し断面である。ただし、見通して見えるはずの上バ線、下バ線は省略した。

9 波板状凹凸面及び溝状遺構の縦断面については、直線の部分でおさえることができないので、見通し断面で表現しており、床面の部分だけを表した。スケールは平面図と同じである。

10 遺構内で出土した遺物については、遺構図に図示しているものもあるが、図のスケールは不統一である。出土遺物の頁で、時代順あるいは種

類ごとに載せてあるので、参照されたい。遺物番号と同じである。

11 遺跡では縄文時代から現代までの遺構や遺物が重複して出てくるので、各グリッド状況図では色を変えて提示してある。縄文時代の遺構と遺物及び公共座標・方位・スケールを赤色で示し、弥生時代以降の遺構と遺物及びグリッド調査範囲・土層断面を黒色で示してある。壁面で位置を示す場合、北側壁面では西側から、西側壁面では南側からの数値である。

12 各グリッド状況図での遺物ドットの種類は下記のとおりである。

## <縄文時代>

縄文土器	●
玉	★
石鏃	△
磨石・砥石・凹石・石重	□
石製土槌具	■
石錘	☆
スクレイパー	◎
磨製石斧	○
石匙・ナゲド・スレイパー・刃痕し	▽
異形石器	◆
円盤状石製品	◇
ピエス・エスキュー	*
石鏃	▼
石核	X

## <弥生時代以降>

土師器	△
須恵器	▲
竊羽口	★
把手	X
弥生・古墳時代の遺物	□
鉄製品・瓦石	▼
焼塩壺	●
滑石製品	■
土錘	◇
陶磁器	☆
刻書土器	*
葉灰・古銭・馬の鞍・鉛弾	○
その他	▽

13 遺物ドットに番号が入っていないものは、図化はしていないけれども器種が明らかな遺物である。

14 遺物及び遺構の中には、掲載した名称として確証の得られていないものもあるが、注意を喚起する意味で載せているものもある。その際は「？」を付けている。

15 本文中で参考とした文献については、斜体文字で示してある。

#### 16 条里型地割の説明

条里型地割の説明に当たって、それぞれの場所の呼び方が雑になるので、起点を設定する事にする。遺構として検出された部分と昭和40年代の地籍図で条里型地割が合致する場所をその起点としたい。そうするとU-24区の溝状遺構16(SD55)と溝状遺構20(SD57)が直角に交差する地点が最もふさわしく、ここを起点として本報告書内の説明を行うこととする。公共座標では、おおよそ $X = -99994$ ,  $Y = -60748$ の地点である。

#### 17 時代・時期の把握について

鹿兒島県内の通常の遺跡では、年代の分かる火山灰が堆積しており、検出遺構や遺物の上下関係がはっきりすることから層位を利用して時代を区分することが可能である。しかし、大坪遺跡は低地に立地しており、層位による時代及び時期区分は不可能であった。したがって時代及び時期区分の把握は出土遺物に頼らざるを得ず、通常の報告書では遺構の説明の中で埴土内出土遺物の説明を行うのであるが、今回は遺物を後でまとめ、土器・土師器・須恵器・陶磁器等を指標として時代及び時期区分を行い、それを該当する遺構に戻してある。この作について、埋設土器は遺構でありながらもその単体は遺物であることから、遺構・遺物のどちらの項目で詳しく扱ったほうが良いのかは悩んだ点である。それで先に遺物として分類し、時期を特定した後遺構に戻すことによって、遺構の使用時期や存続した年代を考えていくことにしたい。遺構内遺物については、縮小はしているものの再敬して利用の便を図ることとする。

#### 18 遺構の性格等について

本来、未だ統一された見解がない遺構や遺物

については、まずその遺構や遺物の客観的な記述を行った後、考察もしくはまとめて見解を示すべきである。しかし、そうすると記述の仕方で混乱を起こすことになりかねないので(例えば、溝状遺構は「掘られた」のか「ほげた」のか)、本報告書ではそのような場合結論を先に述べて混乱を避けることとしたい。ただし、発掘調査の過程で考えが次第に変わってきたものがあるので、以前の考えに基づいて書いている場合もある。今回の報告書で提示する結論は次の点である。

「波板状凹凸面の成因は、牛馬が長年歩いたことによるものである。」

「溝状遺構の中には、長年道として使われた結果、窪んだものもある。」

#### 19 遺物及び遺構の説明について

遺物及び遺構の説明について、客観的な報告部分のみを本文に書いて、調査担当者の主観的な考え及び考察的な内容については後の章でまとめるのが一般的なのかもしれない。しかし、客観的な内容については図面及び表等で表現されていることもあり、考察するには短い内容であるものについて、本文中に主観的な記述をしてある。

20 公共座標の教値は、北緯33度・東経131度を基準にしてある。

# 目 次

## 〔上巻〕

序文

報告書抄録

例言

凡例

### 第I章 調査の経緯

第1節 調査に至るまでの経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の概要と調査経過	3

### 第II章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と立地	10
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	10

### 第III章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査の方法	23
第2節 遺跡の層位	31
第3節 各グリッドの状況	31

### 第IV章 発掘調査の成果

第1節 縄文時代の成果	
1. 縄文時代の検出遺構	125
(1) 埋設土器 (2) 供獻土器 (3) 土坑 (4) 大型凹地 (5) 凹地 (6) 不明遺構 (7) 焼土 (8) 石溜り (9) ピット	
2. 縄文時代の出土遺物	154
(1) 縄文土器	
① 深鉢形土器 ② 組織痕土器 ③ 浅鉢形土器 ④ 小型浅鉢形土器 ⑤ 鉢 形土器 ⑥ 壺形土器 ⑦ 深鉢形土器底部 ⑧ 縄文土製品	
(2) 縄文石器	
① 石鏃 ② 石匙 ③ スクレイパー ④ 石錐 ⑤ ピース・エスキュー ⑥ 刃漬しのある石器 ⑦ 石核 ⑧ 磨製石斧 ⑨ 石製土掘具 ⑩ 円盤状石製 品 ⑪ 磨石・敲石・凹石 ⑫ 石皿 ⑬ 石錘 ⑭ 異形石器 ⑮ 石刀? ⑯ 玉類	

## 〔下巻〕

第2節 弥生時代～古墳時代の成果	359
第3節 古代前半期～近世前半期の成果	
1. 古代前半期の検出遺構	362
(1) 竈付竅穴住居跡 (2) 焼成土坑 (3) 不明遺構 (4) 上坑 (5) 焼土 (6) 03区～01区の上坑等 (7) 溝状遺構	
2. 古代後半期～中世前半期の検出遺構	387
(1) 掘立柱建物跡 (2) 土坑 (3) 焼土 (4) 不明遺構 (5) 溝状遺構 (6) 波板状凹凸面	
3. 古代前半期～近世前半期の出土遺物	428
(1) 須恵器	
① 坏・皿 ② 壺 ③ 蓋 ④ 甕 ⑤ 壺 ⑥ その他 ⑦ 硯	
(2) 土師器	
① 坏 ② 皿 ③ 壺 ④ 蓋 ⑤ 高坏 ⑥ 甕 ⑦ その他	
(3) 焼塩壺	

(4) 刻書土器	
(5) 甌	
(6) 把手	
(7) 支脚	
(8) 輪羽口	
(9) 土製品	
① 紡錘車 ② 土錘	
(10) 陶磁器	
① 中世陶磁器 ② 近世陶磁器	
(11) 滑石製品	
(12) 砥石	
(13) 鉄製品	
4. 中世後半期～近世前半期の検出遺構	472
(1) 上坑 (2) 溝状遺構 (3) 波板状凹凸面	
第4節 近世後半期～現代の成果	
1. 近世後半期～現代の検出遺構	492
溝状遺構	
2. 近世後半期～現代の出土遺物	498
(1) 占銭 (2) 鉛弾 (3) キセル (4) 銃弾・薬莢 (5) 歯ブラシ	
(6) 馬具 (7) 追加遺物	
第V章 分析研究	
大坪遺跡出土の玉類、玉材片の産地分析	503
大坪遺跡における自然科学分析(平成11年度)	533
大坪遺跡における自然科学分析(平成12年度)	538
第VI章 調査のまとめ	544

## 挿図目次

[上巻]				
第1図	大坪遺跡の位置	第19図	遺構検出及び遺物出土状況(1)	41
第2図	グリッド設定図(現況図)		D・C-03区	
第3図	グリッド設定図(昭和40年代の地形図)	第20図	遺構検出及び遺物出土状況(2)	42
第4図	グリッド設定図(昭和40年代の地形図)		D・C-02区	
第5図	周辺遺跡図(1)	第21図	遺構検出及び遺物出土状況(3)	43
第6図	周辺遺跡図(2)		D・C-01区	
第7図	確認調査の範囲	第22図	遺構検出及び遺物出土状況(4)	44
第8図	年度ごとの調査範囲		D・C-1区	
第9図	大坪遺跡土層模式図	第23図	遺構検出及び遺物出土状況(5)	45
第10図	遺構配置図(1) 03区～2区		D-2区	
第11図	遺構配置図(2) 2区～6区	第24図	遺構検出及び遺物出土状況(6)	46
第12図	遺構配置図(3) 11区～15区		C-2区	
第13図	遺構配置図(4) 14区～18区	第25図	遺構検出及び遺物出土状況(7)	47
第14図	遺構配置図(5) 19区～22区		B-2区	
第15図	遺構配置図(6) 23区～26区	第26図	遺構検出及び遺物出土状況(8)	48
第16図	遺構配置図(7) 27区～30区		A-2・3区	
第17図	遺構配置図(8) 31区～34区	第27図	遺構検出及び遺物出土状況(9)	49
第18図	遺構配置図(9) 35区～38区		D-3区	
		第28図	遺構検出及び遺物出土状況(10)	50

	C-3区		D-16区
第29回	遺構検出及び遺物出土状況 (11) …… 51	第53回	遺構検出及び遺物出土状況 (35) …… 75
	B-3区		C-16区
第30回	遺構検出及び遺物出土状況 (12) …… 52	第54回	遺構検出及び遺物出土状況 (36) …… 76
	D-4区		B-16区
第31回	遺構検出及び遺物出土状況 (13) …… 53	第55回	遺構検出及び遺物出土状況 (37) …… 77
	C-4区		D-17区
第32回	遺構検出及び遺物出土状況 (14) …… 54	第56回	遺構検出及び遺物出土状況 (38) …… 78
	B-4区		C-17区
第33回	遺構検出及び遺物出土状況 (15) …… 55	第57回	遺構検出及び遺物出土状況 (39) …… 79
	A-4・5区		B-17区
第34回	遺構検出及び遺物出土状況 (16) …… 56	第58回	遺構検出及び遺物出土状況 (40) …… 80
	D-5区		D-18区
第35回	遺構検出及び遺物出土状況 (17) …… 57	第59回	遺構検出及び遺物出土状況 (41) …… 81
	C-5区		C-18区
第36回	遺構検出及び遺物出土状況 (18) …… 58	第60回	遺構検出及び遺物出土状況 (42) …… 82
	B-5区		B-18区
第37回	遺構検出及び遺物出土状況 (19) …… 59	第61回	遺構検出及び遺物出土状況 (43) …… 83
	D-6区		D-19区
第38回	遺構検出及び遺物出土状況 (20) …… 60	第62回	遺構検出及び遺物出土状況 (44) …… 84
	C-6区		C-19区
第39回	遺構検出及び遺物出土状況 (21) …… 61	第63回	遺構検出及び遺物出土状況 (45) …… 85
	B-6区		B-19区
第40回	遺構検出及び遺物出土状況 (22) …… 62	第64回	遺構検出及び遺物出土状況 (46) …… 86
	C-7区		D-20区
第41回	遺構検出及び遺物出土状況 (23) …… 63	第65回	遺構検出及び遺物出土状況 (47) …… 87
	B-7区		C-20区
第42回	遺構検出及び遺物出土状況 (24) …… 64	第66回	遺構検出及び遺物出土状況 (48) …… 88
	D-8区		B-20区
第43回	遺構検出及び遺物出土状況 (25) …… 65	第67回	遺構検出及び遺物出土状況 (49) …… 89
	D・C・B-11区、C・B-12区		D-21区
第44回	遺構検出及び遺物出土状況 (26) …… 66	第68回	遺構検出及び遺物出土状況 (50) …… 90
	D・C-12区		C-21区
第45回	遺構検出及び遺物出土状況 (27) …… 67	第69回	遺構検出及び遺物出土状況 (51) …… 91
	D-13区		B-21区
第46回	遺構検出及び遺物出土状況 (28) …… 68	第70回	遺構検出及び遺物出土状況 (52) …… 92
	C-13区		A-21・22区
第47回	遺構検出及び遺物出土状況 (29) …… 69	第71回	遺構検出及び遺物出土状況 (53) …… 93
	D-14区		D-22区
第48回	遺構検出及び遺物出土状況 (30) …… 70	第72回	遺構検出及び遺物出土状況 (54) …… 94
	C・B-14区		C-22区
第49回	遺構検出及び遺物出土状況 (31) …… 71	第73回	遺構検出及び遺物出土状況 (55) …… 95
	D-15区		B-22区
第50回	遺構検出及び遺物出土状況 (32) …… 72	第74回	遺構検出及び遺物出土状況 (56) …… 96
	C-15区		D-23区
第51回	遺構検出及び遺物出土状況 (33) …… 73	第75回	遺構検出及び遺物出土状況 (57) …… 97
	B-15区		C-23区
第52回	遺構検出及び遺物出土状況 (34) …… 74	第76回	遺構検出及び遺物出土状況 (58) …… 98

	B-23 区		B-36 区
第 7 7 回	遺構検出及び遺物出土状況 (59) …… 99	第 101 回	遺構検出及び遺物出土状況 (83) …… 123
	A-23・24 区		A-36 区
第 7 8 回	遺構検出及び遺物出土状況 (60) …… 100	第 102 回	遺構検出及び遺物出土状況 (84) …… 124
	D-24 区		A・B-37-38 区
第 7 9 回	遺構検出及び遺物出土状況 (61) …… 101	第 103 回	埋設土器検出状況 (1) …… 125
	C-24 区		埋設土器 1 (SJ124)・2 (SJ119)
第 8 0 回	遺構検出及び遺物出土状況 (62) …… 102	第 104 回	埋設土器検出状況 (2) …… 126
	B-24 区		埋設土器 3 (SJ79)
第 8 1 回	遺構検出及び遺物出土状況 (63) …… 103	第 105 回	埋設土器検出状況 (3) …… 127
	D-25 区		埋設土器 4 (SJ38)
第 8 2 回	遺構検出及び遺物出土状況 (64) …… 104	第 106 回	埋設土器検出状況 (4) …… 128
	C-25 区		埋設土器 5 (SJ115)・6 (SJ8)
第 8 3 回	遺構検出及び遺物出土状況 (65) …… 105	第 107 回	埋設土器検出状況 (5) …… 129
	B-25 区		埋設土器 7 (SJ33)
第 8 4 回	遺構検出及び遺物出土状況 (66) …… 106	第 108 回	埋設土器検出状況 (6) …… 130
	A-25・26 区		埋設土器 8 (SJ6)
第 8 5 回	遺構検出及び遺物出土状況 (67) …… 107	第 109 回	埋設土器検出状況 (7) …… 131
	D-26 区		埋設土器 9 (SJ80)・10 (SJ39)
第 8 6 回	遺構検出及び遺物出土状況 (68) …… 108	第 110 回	埋設土器検出状況 (8) …… 132
	C-26 区		埋設土器 11 (SJ40)・12 (SJ4)
第 8 7 回	遺構検出及び遺物出土状況 (69) …… 109	第 111 回	埋設土器検出状況 (9) …… 134
	B-26 区		埋設土器 13 (SJ5)・14 (SJ31)
第 8 8 回	遺構検出及び遺物出土状況 (70) …… 110	第 112 回	埋設土器検出状況 (10) …… 135
	B-27 区		埋設土器 15 (SJ12)・16 (SJ9)
第 8 9 回	遺構検出及び遺物出土状況 (71) …… 111	第 113 回	埋設土器検出状況 (11) …… 136
	B-28・29 区		埋設土器 17 (SJ3)・18 (SJ7)
第 9 0 回	遺構検出及び遺物出土状況 (72) …… 112	第 114 回	埋設土器検出状況 (12) …… 137
	B-30 区		埋設土器 19 (SJ78)
第 9 1 回	遺構検出及び遺物出土状況 (73) …… 113	第 115 回	埋設土器検出状況 (13) …… 138
	B-32 区		埋設土器 20 (SJ41)・21 (SJ130)
第 9 2 回	遺構検出及び遺物出土状況 (74) …… 114	第 116 回	埋設土器検出状況 (14) …… 139
	A-31・32 区		埋設土器 22 (SJ30)・23 (SJ48)・24 (SJ42)・ 25 (SJ50)・26 (SJ10)
第 9 3 回	遺構検出及び遺物出土状況 (75) …… 115	第 117 回	埋設土器検出状況 (15) …… 141
	C-33・34 区		埋設土器 27 (SJ175)・28 (SJ46)
第 9 4 回	遺構検出及び遺物出土状況 (76) …… 116	第 118 回	埋設土器検出状況 (16) …… 142
	B-33 区		埋設土器 29 (見 SJ5)・30 (見 SJ84)
第 9 5 回	遺構検出及び遺物出土状況 (77) …… 117	第 119 回	埋設土器検出状況 (17) …… 143
	A-33 区		埋設土器 31 (SJ131)・32 (SJ11)
第 9 6 回	遺構検出及び遺物出土状況 (78) …… 118	第 120 回	埋設土器検出状況 (18) …… 144
	B-34 区		埋設土器 33 (SJ47)・34 (SJ51)・供献土器 1 (SJ48)
第 9 7 回	遺構検出及び遺物出土状況 (79) …… 119	第 121 回	埋設土器検出状況 (19) …… 145
	A-34 区		埋設土器 35 (SJ128)・36 (SJ126)・37 (SJ125)
第 9 8 回	遺構検出及び遺物出土状況 (80) …… 120		供献土器 2 (SJ123)
	C・B-35 区		
第 9 9 回	遺構検出及び遺物出土状況 (81) …… 121	第 122 回	土坑検出状況 (1) …… 146
	B・A-35 区		土坑 1 (SK71)・2 (SK118)
第 100 回	遺構検出及び遺物出土状況 (82) …… 122	第 123 回	土坑検出状況 (2) …… 147

	土坑3 (SK169)・4 (見SK1)	
第124 図	大型凹地検出状況 (SX60) .....	148
第125 図	凹地検出状況 (SF193) .....	149
第126 図	不明遺構検出状況 (1) .....	150
	不明遺構1 (SX97)	
第127 図	不明遺構検出状況 (2) .....	151
	不明遺構2 (SF117)	
第128 図	焼土検出状況 (1) .....	152
	焼土1 (SF32)・2 (SF173)・3 (SF127)・4 (SF120)・5 (見SF4)	
第129 図	石溜り及びビット検出状況 .....	153
	石溜り1 (見SS2)・ビット1 (SK28)・2 (SP121)	
第130 図	出土遺物 縄文土器 (1) .....	155
第131 図	出土遺物 縄文土器 (2) .....	156
第132 図	出土遺物 縄文土器 (3) .....	157
第133 図	出土遺物 縄文土器 (4) .....	158
第134 図	出土遺物 縄文土器 (5) .....	159
第135 図	出土遺物 縄文土器 (6) .....	160
第136 図	出土遺物 縄文土器 (7) .....	161
第137 図	出土遺物 縄文土器 (8) .....	162
第138 図	出土遺物 縄文土器 (9) .....	163
第139 図	出土遺物 縄文土器 (10) .....	164
第140 図	出土遺物 縄文土器 (11) .....	165
第141 図	出土遺物 縄文土器 (12) .....	166
第142 図	出土遺物 縄文土器 (13) .....	167
第143 図	出土遺物 縄文土器 (14) .....	168
第144 図	出土遺物 縄文土器 (15) .....	169
第145 図	出土遺物 縄文土器 (16) .....	170
第146 図	出土遺物 縄文土器 (17) .....	171
第147 図	出土遺物 縄文土器 (18) .....	172
第148 図	出土遺物 縄文土器 (19) .....	173
第149 図	出土遺物 縄文土器 (20) .....	174
第150 図	出土遺物 縄文土器 (21) .....	175
第151 図	出土遺物 縄文土器 (22) .....	177
第152 図	出土遺物 縄文土器 (23) .....	178
第153 図	出土遺物 縄文土器 (24) .....	179
第154 図	出土遺物 縄文土器 (25) .....	180
第155 図	出土遺物 縄文土器 (26) .....	181
第156 図	出土遺物 縄文土器 (27) .....	182
第157 図	出土遺物 縄文土器 (28) .....	183
第158 図	出土遺物 縄文土器 (29) .....	184
第159 図	出土遺物 縄文土器 (30) .....	185
第160 図	出土遺物 縄文土器 (31) .....	186
第161 図	出土遺物 縄文土器 (32) .....	187
第162 図	出土遺物 縄文土器 (33) .....	188
第163 図	出土遺物 縄文土器 (34) .....	189
第164 図	出土遺物 縄文土器 (35) .....	190
第165 図	出土遺物 縄文土器 (36) .....	191

第166 図	出土遺物 縄文土器 (37) .....	192
第167 図	出土遺物 縄文土器 (38) .....	193
第168 図	出土遺物 縄文土器 (39) .....	194
第169 図	出土遺物 縄文土器 (40) .....	195
第170 図	出土遺物 縄文土器 (41) .....	196
第171 図	出土遺物 縄文土器 (42) .....	198
第172 図	出土遺物 縄文土器 (43) .....	199
第173 図	出土遺物 縄文土器 (44) .....	201
第174 図	出土遺物 縄文土器 (45) .....	202
第175 図	出土遺物 縄文土器 (46) .....	203
第176 図	出土遺物 縄文土器 (47) .....	204
第177 図	出土遺物 縄文土器 (48) .....	206
第178 図	出土遺物 縄文土器 (49) .....	207
第179 図	出土遺物 縄文土器 (50) .....	208
第180 図	出土遺物 縄文土器 (51) .....	209
第181 図	出土遺物 縄文土器 (52) .....	210
第182 図	出土遺物 縄文土器 (53) .....	211
第183 図	出土遺物 縄文土器 (54) .....	214
第184 図	出土遺物 縄文土器 (55) .....	215
第185 図	出土遺物 縄文土器 (56) .....	216
第186 図	出土遺物 縄文土器 (57) .....	217
第187 図	出土遺物 縄文土器 (58) .....	218
第188 図	出土遺物 縄文土器 (59) .....	219
第189 図	出土遺物 縄文土器 (60) .....	220
第190 図	出土遺物 石器 (1) 石鏃 .....	223
第191 図	出土遺物 石器 (2) 石鏃 .....	224
第192 図	出土遺物 石器 (3) 石鏃 .....	225
第193 図	出土遺物 石器 (4) 石鏃 .....	226
第194 図	出土遺物 石器 (5) 石鏃 .....	227
第195 図	出土遺物 石器 (6) 石鏃 .....	228
第196 図	出土遺物 石器 (7) 石鏃 .....	229
第197 図	出土遺物 石器 (8) 石鏃 .....	230
第198 図	出土遺物 石器 (9) 石鏃 .....	231
第199 図	出土遺物 石器 (10) 石鏃 .....	232
第200 図	出土遺物 石器 (11) 石鏃 .....	233
第201 図	出土遺物 石器 (12) 石鏃 .....	234
第202 図	出土遺物 石器 (13) 石鏃 .....	235
第203 図	出土遺物 石器 (14) 石鏃 .....	236
第204 図	出土遺物 石器 (15) 石鏃 .....	237
第205 図	出土遺物 石器 (16) 石鏃 .....	242
第206 図	出土遺物 石器 (17) 石鏃 .....	243
第207 図	出土遺物 石器 (18) 石鏃 .....	244
第208 図	出土遺物 石器 (19) 石鏃 .....	245
第209 図	出土遺物 石器 (20) 石鏃 .....	247
第210 図	出土遺物 石器 (21) 石鏃 .....	248
第211 図	出土遺物 石器 (22) 石鏃 .....	249
第212 図	出土遺物 石器 (23) 石鏃 .....	250
第213 図	出土遺物 石器 (24) 石鏃 .....	251



第214図	出土遺物	石器 (25)	スクレイパー	252
第215図	出土遺物	石器 (26)	スクレイパー	253
第216図	出土遺物	石器 (27)	スクレイパー	254
第217図	出土遺物	石器 (28)	スクレイパー	256
第218図	出土遺物	石器 (29)	スクレイパー	257
第219図	出土遺物	石器 (30)	スクレイパー	258
第220図	出土遺物	石器 (31)	石鏃	260
第221図	出土遺物	石器 (32)	石鏃	261
第222図	出土遺物	石器 (33)	ピエス・エスキュー	262
第223図	出土遺物	石器 (33)	ピエス・エスキュー	263
第224図	出土遺物	石器 (35)	刃渡しのある石器	264
第225図	出土遺物	石器 (36)	石核	265
第226図	出土遺物	石器 (37)	石核	266
第227図	出土遺物	石器 (38)	石核	267
第228図	出土遺物	石器 (39)	磨製石斧	270
第229図	出土遺物	石器 (40)	磨製石斧	271
第230図	出土遺物	石器 (41)	磨製石斧	272
第231図	出土遺物	石器 (42)	磨製石斧	273
第232図	出土遺物	石器 (43)	磨製石斧	274
第233図	出土遺物	石器 (44)	磨製石斧	275
第234図	出土遺物	石器 (45)	磨製石斧	276
第235図	出土遺物	石器 (46)	石製土器具	281
第236図	出土遺物	石器 (47)	石製土器具	282
第237図	出土遺物	石器 (48)	石製土器具	283
第238図	出土遺物	石器 (49)	石製土器具	284
第239図	出土遺物	石器 (50)	石製土器具	285
第240図	出土遺物	石器 (51)	石製土器具	286
第241図	出土遺物	石器 (52)	石製土器具	287
第242図	出土遺物	石器 (53)	石製土器具	288
第243図	出土遺物	石器 (54)	石製土器具	289
第244図	出土遺物	石器 (55)	石製土器具	290
第245図	出土遺物	石器 (56)	石製土器具	291
第246図	出土遺物	石器 (57)	石製土器具	292
第247図	出土遺物	石器 (58)	石製土器具	293
第248図	出土遺物	石器 (59)	石製土器具	294
第249図	出土遺物	石器 (60)	石製土器具	295
第250図	出土遺物	石器 (61)	石製土器具	296
第251図	出土遺物	石器 (62)	石製土器具	297
第252図	出土遺物	石器 (63)	石製土器具	298
第253図	出土遺物	石器 (64)	石製土器具	299
第254図	出土遺物	石器 (65)	石製土器具	300
第255図	出土遺物	石器 (66)	石製土器具	301
第256図	出土遺物	石器 (67)	石製土器具	302
第257図	出土遺物	石器 (68)	石製土器具	303
第258図	出土遺物	石器 (69)	石製土器具	304
第259図	出土遺物	石器 (70)	石製土器具	305
第260図	出土遺物	石器 (71)	石製土器具	306
第261図	出土遺物	石器 (72)	石製土器具	307
第262図	出土遺物	石器 (73)	石製土器具	308
第263図	出土遺物	石器 (74)	石製土器具	309
第264図	出土遺物	石器 (75)	石製土器具	310
第265図	出土遺物	石器 (76)	石製土器具	311
第266図	出土遺物	石器 (77)	円盤状石製品	315
第267図	出土遺物	石器 (78)	円盤状石製品	316
第268図	出土遺物	石器 (79)	円盤状石製品	317
第269図	出土遺物	石器 (80)	円盤状石製品	318
第270図	出土遺物	石器 (81)	磨石・磨石・凹石	319
第271図	出土遺物	石器 (82)	磨石・磨石・凹石	320
第272図	出土遺物	石器 (83)	磨石・磨石・凹石	321
第273図	出土遺物	石器 (84)	磨石・磨石・凹石	322
第274図	出土遺物	石器 (85)	磨石・磨石・凹石	323
第275図	出土遺物	石器 (86)	磨石・磨石・凹石	324
第276図	出土遺物	石器 (87)	磨石・磨石・凹石	325
第277図	出土遺物	石器 (88)	磨石・磨石・凹石	326
第278図	出土遺物	石器 (89)	磨石・磨石・凹石	327
第279図	出土遺物	石器 (90)	磨石・磨石・凹石	328
第280図	出土遺物	石器 (91)	磨石・磨石・凹石	329
第281図	出土遺物	石器 (92)	磨石・磨石・凹石	332
第282図	出土遺物	石器 (93)	磨石・磨石・凹石	333
第283図	出土遺物	石器 (94)	磨石・磨石・凹石	334
第284図	出土遺物	石器 (95)	磨石・磨石・凹石	335
第285図	出土遺物	石器 (96)	磨石・磨石・凹石	336
第286図	出土遺物	石器 (97)	石皿	338
第287図	出土遺物	石器 (98)	石皿	339
第288図	出土遺物	石器 (99)	石皿	340
第289図	出土遺物	石器 (100)	石皿	341
第290図	出土遺物	石器 (101)	石皿	342
第291図	出土遺物	石器 (102)	石鏟	343
第292図	出土遺物	石器 (103)	石鏟	344
第293図	出土遺物	石器 (104)	石鏟	345
第294図	出土遺物	石器 (105)	石鏟	346
第295図	出土遺物	石器 (106)	石鏟	347
第296図	出土遺物	石器 (107)	石鏟	348
第297図	出土遺物	石器 (108)	石鏟	349
第298図	出土遺物	石器 (109)	磨石・磨石・凹石	350
第299図	出土遺物	石器 (110)	玉類	353
第300図	出土遺物	石器 (111)	玉類	354
第301図	出土遺物	石器 (112)	玉類	355
第302図	出土遺物	石器 (113)	玉類	356
〔下巻〕				
第303図	出土遺物	弥生時代及び古墳時代の土器 (1)		360
第304図	出土遺物	弥生時代及び古墳時代の土器 (2)		361
第305図	竪穴住居出土状況 (SH29)			362
第306図	竪穴住居出土状況 (SH29)			363

第307回	焼成土坑検出状況(1) …………… 364 焼成土坑1 (SK82)	第325回	土坑検出状況(13) …………… 382 土坑50 (概SK20)・51 (概SK22)・52 (概SK1)・ ビット15 (概SP21)・焼土11 (概SP27)
第308回	焼成土坑検出状況(2) …………… 365 焼成土坑2 (SK133)・3 (SK145)	第326回	溝状遺構検出状況(1) …………… 384 溝状遺構1 (SD43)・4 (SD70)
第309回	不明遺構検出状況(3) …………… 366 不明遺構3 (SK75)	第327回	溝状遺構検出状況(2) …………… 385 溝状遺構2 (見SD81)
第310回	不明遺構遺物出土状況(1) …………… 367 不明遺構3 (SK75)	第328回	溝状遺構検出状況(3) …………… 386 溝状遺構3 (見SD6)
第311回	不明遺構遺物出土状況(2) …………… 368 不明遺構4 (SK81)	第329回	竪立柱建物跡検出状況(1) …………… 387 竪立柱建物跡1 (SB166)
第312回	不明遺構・土坑検出状況 …………… 369 不明遺構5 (SK85)・土坑6 (SK84)・7 (SK83) ビット3 (SP86)	第330回	竪立柱建物跡検出状況(2) …………… 388 竪立柱建物跡2 (SB187)
第313回	土坑検出状況(3) …………… 370 土坑8 (SK134)・9 (SK135)	第331回	竪立柱建物跡検出状況(3) …………… 389 竪立柱建物跡3 (SB137)
第314回	土坑検出状況(4) …………… 371 土坑10 (SK76)	第332回	竪立柱建物跡検出状況(4) …………… 390 竪立柱建物跡4 (SB190)
第315回	土坑検出状況(5) …………… 372 土坑11 (SK113)・12 (SK112)・13 (SK111)・ 14 (SK110)	第333回	竪立柱建物跡検出状況(5) …………… 391 竪立柱建物跡5 (SB199)
第316回	土坑検出状況(6) …………… 373 土坑15 (SK106)・16 (SK105)・17 (SK104) ビット5 (SP123)・6 (SP122)	第334回	竪立柱建物跡検出状況(6) …………… 394 竪立柱建物跡6 (SB189)
第317回	土坑検出状況(7) …………… 374 土坑18 (SK77)・19 (SK102)・20 (SK101)・ 21 (SK100)・22 (SK99)・23 (SK98)	第335回	竪立柱建物跡検出状況(7) …………… 396 竪立柱建物跡7 (SB188)
第318回	土坑遺物出土状況 …………… 375 土坑18 (SK77)・24 (SK103)	第336回	竪立柱建物跡検出状況(8) …………… 397 竪立柱建物跡8 (SB198)
第319回	土坑検出状況(8) …………… 376 土坑24 (SK103)・25 (SK97)	第337回	竪立柱建物跡検出状況(9) …………… 398 竪立柱建物跡9 (SB200)
第320回	土坑検出状況(9) …………… 377 土坑26 (SK96)・27 (SK87)・28 (SK92)・29 (SK93)・ 30 (SK90)・31 (SK89) ビット7 (SP95)・8 (SP94)・9 (SP91)	第338回	土坑検出状況(14) …………… 399 土坑57 (SK34)・58 (SK35)・59 (SK36)・60 (SK37)
第321回	土坑検出状況(10) …………… 378 土坑32 (SK114)・ビット4 (SP116)・10 (SP109)・ 11 (SP108)・12 (SP107)	第339回	土坑検出状況(15) …………… 400 土坑61 (SK148)・62 (SK151)
第322回	焼土検出状況(2) …………… 379 焼土6 (SP19)・7 (SF18)・8 (SF171)・ 9 (SF170)・10 (SP66)	第340回	土坑検出状況(16) …………… 401 土坑63 (SK139)・64 (SK140)・65 (SK187)・ 66 (SK152)・67 (SK147)
第323回	土坑検出状況(11) …………… 380 土坑34 (概SK4)・35 (概SP7)・ 36 (概SK8)・37 (概SK5)・38 (概SK6)	第341回	土坑検出状況(17) …………… 402 土坑68 (SK153)・69 (SK154)・70 (SK183)・71 (SK192)
第324回	土坑検出状況(12) …………… 381 土坑39 (概SK16)・40 (概SK17)・41 (概SK18)・ 42 (概SK15)・43 (概SK9)・44 (概SK19)・ 45 (概SK3)・46 (概SK2)・47 (概SK10)・ 48 (概SK11)・49 (概SK12)	第342回	土坑検出状況(18) …………… 403 土坑72 (SK183)・73 (SK194)・74 (SK185)・75 (SK186)
		第343回	焼土検出状況(3) …………… 404 焼土12 (SP68)・13 (SF174)・15 (SP73)・16 (SF172)
		第344回	焼土検出状況(4) …………… 405 焼土17 (SP204)・18 (SF194)
		第345回	不明遺構検出状況(4) …………… 406 不明遺構6 (SK69)
		第346回	不明遺構及びビット検出状況 …………… 407 不明遺構7 (SK149)・8 (SK150)・ビット16 (SP59)
		第347回	溝状遺構検出状況(4) …………… 409 溝状遺構6 (SD68)・7 (SD138)

第 348 回	溝状遺構検出状況 (5) …………… 410	第 376 回	出土遺物 土師器 (2) 坏・甕 …… 440
	溝状遺構 8 (SD65) ・ 9 (SD62) ・ 10 (SD61)	第 377 回	出土遺物 土師器 (3) 埴 …… 441
第 349 回	溝状遺構検出状況 (6) …………… 411	第 378 回	出土遺物 土師器 (4) 埴 …… 442
	溝状遺構 11 (SD22)	第 379 回	出土遺物 土師器 (5) 埴 …… 443
第 350 回	溝状遺構検出状況 (7) …………… 412	第 380 回	出土遺物 土師器 (6) 蓋・高坏 …… 444
	溝状遺構 12 (SD23)	第 381 回	出土遺物 土師器 (7) 甕 …… 445
第 351 回	溝状遺構検出状況 (8) …………… 413	第 382 回	出土遺物 土師器 (8) 甕 …… 446
	溝状遺構 14 (SD1)	第 383 回	出土遺物 土師器 (9) 甕 …… 447
第 352 回	溝状遺構検出状況 (9) …………… 414	第 384 回	出土遺物 土師器 (10) 甕 …… 448
	溝状遺構 15 (SD64) ・ 16 (SD63)	第 385 回	出土遺物 土師器 (11) その他 …… 449
第 353 回	溝状遺構検出状況 (10) …………… 415	第 386 回	出土遺物 埴塼器 …… 451
	溝状遺構 17 (SD65)	第 387 回	出土遺物 刻番土器 …… 452
第 354 回	溝状遺構検出状況 (11) …………… 416	第 388 回	出土遺物 瓶・支脚・輪郭口 …… 454
	溝状遺構 20 (SD62)	第 389 回	出土遺物 紡錘車 …… 455
第 355 回	溝状遺構検出状況 (12) …………… 417	第 390 回	出土遺物 土師 (1) …… 456
	溝状遺構 22 (SD46) ・ 24 (SD45)	第 391 回	出土遺物 土師 (2) …… 457
第 356 回	溝状遺構検出状況 (13) …………… 419	第 392 回	出土遺物 陶磁器 (1) …… 459
	溝状遺構 25 (SD203) ・ 26 (SD202) ・ 27 (SD205) ・ 28 (SD201)	第 393 回	出土遺物 陶磁器 (2) …… 460
第 357 回	溝状遺構検出状況 (14) …………… 420	第 394 回	出土遺物 陶磁器 (3) …… 462
	溝状遺構 23 (SD186) ・ 29 (SD143) ・ 30 (SD141) ・ 31 (SD142) ・ 32 (SD24)	第 395 回	出土遺物 陶磁器 (4) …… 463
第 358 回	溝状遺構検出状況 (15) …………… 421	第 396 回	出土遺物 滑石製品 (1) …… 465
	溝状遺構 33 (SD411)	第 397 回	出土遺物 滑石製品 (2) …… 466
第 359 回	波板状凹凸面検出状況 (1) …………… 422	第 398 回	出土遺物 砥石 (1) …… 467
	波板状凹凸面 1 (SR26)	第 399 回	出土遺物 砥石 (2) …… 469
第 360 回	波板状凹凸面検出状況 (2) …………… 423	第 400 回	出土遺物 砥石 (3) …… 470
	波板状凹凸面 2 (SR25)	第 401 回	出土遺物 鉄器 …… 471
第 361 回	波板状凹凸面検出状況 (3) …………… 424	第 402 回	土坑検出状況 (19) …… 473
	波板状凹凸面 3 (SR182) ・ 溝状遺構 13 (SD181)		土坑 76 (見 SK 9) ・ 77 (見 SK10) ・ 78 (見 SK11) ・ 79 (見 SK16)
第 362 回	波板状凹凸面検出状況 (4) …………… 425	第 403 回	土坑検出状況 (20) …… 474
	波板状凹凸面 4 (SR72)		七坑 90 (見 SK82) ・ 81 (見 SK50)
第 363 回	波板状凹凸面検出状況 (5) …………… 426	第 404 回	土坑検出状況 (21) …… 475
	波板状凹凸面 5 (SR176) ・ 6 (SR191) ・ 7 (SR27) ・ 8 (SR54)		土坑 82 (見 SK77) ・ 83 (見 SR63) ・ 84 (見 SK64) ・ 85 (見 SK66) ・ 86 (見 SK65) ・ 87 (見 SK67)
第 364 回	波板状凹凸面検出状況 (6) …………… 427	第 405 回	土坑検出状況 (22) …… 476
	波板状凹凸面 9 (SR197) ・ 10 (SR196) ・ 11 (SR195)		土坑 88 (見 SK83) ・ 89 (見 SK12)
第 365 回	出土遺物 須恵器 (1) 坏及び皿 …… 428	第 406 回	土坑検出状況 (23) …… 477
第 366 回	出土遺物 須恵器 (2) 埴 …… 429		土坑 90 (見 SK14) ・ 91 (見 SK13)
第 367 回	出土遺物 須恵器 (3) 蓋 …… 430	第 407 回	土坑検出状況 (24) …… 478
第 368 回	出土遺物 須恵器 (4) 甕 …… 431		土坑 92 (見 SK15) ・ 93 (見 SK17) ・ 94 (見 SK18) ・ 95 (見 SK19) ・ 96 (見 SK20)
第 369 回	出土遺物 須恵器 (5) 甕 …… 432	第 408 回	土坑検出状況 (25) …… 479
第 370 回	出土遺物 須恵器 (6) 甕 …… 433		土坑 97 (見 SK21) ・ 98 (見 SK22) ・ 99 (見 SK23) ・ 100 (見 SK24) ・ 101 (見 SK25) ・ 102 (見 SK26)
第 371 回	出土遺物 須恵器 (7) 甕 …… 434	第 409 回	土坑検出状況 (26) …… 480
第 372 回	出土遺物 須恵器 (8) 壺 …… 435		土坑 103 (見 SK28) ・ 104 (見 SK27) ・ 105 (見 SK29) ・ 106 (見 SK30) ・ 107 (見 SK31) ・ 108 (見 SK32)
第 373 回	出土遺物 須恵器 (9) 耳環・針等 …… 436	第 410 回	土坑検出状況 (27) …… 481
第 374 回	出土遺物 須恵器 (10) 甕 …… 437		
第 375 回	出土遺物 土師器 (1) 坏 …… 439		

	上坑 109 (見 SK33)・110 (見 SK34)・111 (見 SK35)・ 112 (見 SK36)・113 (見 SK37)		十坑 140 (見 SK71)・141 (見 SK72)・142 (見 SK73)
第 411 図	土坑検出状況 (28) …………… 482	第 419 図	土坑検出状況 (36) …………… 491
	十坑 114 (見 SK40)・115 (見 SK41)・116 (見 SK42)・ 117 (見 SK38)・118 (見 SK39)		土坑 147 (見 SK79)・148 (見 SK80)・149 (見 SK78)・ 150 (SK21)
第 412 図	土坑検出状況 (29) …………… 483	第 420 図	波板状凹凸面・溝状遺構検出状況 …… 492
	土坑 119 (見 SK51)・120 (見 SK52)・121 (見 SK53)・ 122 (見 SK48)・123 (見 SK49)・124 (見 SK46)・ 125 (見 SK47)		波板状凹凸面 12 (SR177)
第 413 図	土坑検出状況 (30) …………… 484		溝状遺構 35 (SD178)・36 (SD179)
	土坑 126 (見 SK54)・127 (見 SK55)・128 (見 SK56)	第 421 図	波板状凹凸面検出状況 (7) …………… 494
第 414 図	土坑検出状況 (31) …………… 485		波板状凹凸面 13 (SR156)・14 (SR137)・15 (SR158)・ 16 (SR169)
	土坑 129 (見 SK43)・130 (見 SK44)・131 (見 SK45)	第 422 図	波板状凹凸面検出状況 (8) …………… 495
第 415 図	土坑検出状況 (32) …………… 486		波板状凹凸面 17 (SR160)・18 (SR165)・19 (SR161)・ 20 (SR162)・21 (SR163)・22 (SR164)
	土坑 132 (見 SK59)・133 (見 SK60)・134 (見 SK61)・ 135 (見 SK62)・136 (見 SK58)・137 (見 SK68)	第 423 図	溝状遺構検出状況 (16) …………… 496
第 416 図	土坑検出状況 (33) …………… 487		溝状遺構 39 (SD44)・40 (SD13)
	上坑 138 (見 SK69)・139 (見 SK70)	第 424 図	溝状遺構検出状況 (17) …………… 497
第 417 図	土坑検出状況 (34) …………… 489		溝状遺構 43 (SD14)・44 (SD15)
	十坑 143 (見 SK74)・144 (見 SK75)・145 (見 SK76)・ 146 (見 SK77)	第 425 図	出土遺物 古銭 …………… 498
第 418 図	土坑検出状況 (35) …………… 490	第 426 図	出土遺物 …………… 500
			鉛弾・キセル・銃弾・薬莖・宙ブラシの柄・馬の鞍
		第 427 図	追加遺物 …………… 502

## 表 目 次

### 〔上巻〕

表 1	周辺遺跡地名表 1 …………… 19	表 22	縄文土器観察表 13 …………… 222
表 2	周辺遺跡地名表 2 …………… 20	表 23	石器観察表 1 …………… 227
表 3	周辺遺跡地名表 3 …………… 21	表 24	石器観察表 2 …………… 232
表 4	周辺遺跡地名表 4 …………… 22	表 25	石器観察表 3 …………… 237
表 5	遺構一覧表 (埴田番号順) 1 …………… 26	表 26	石器観察表 4 …………… 238
表 6	遺構一覧表 (埴田番号順) 2 …………… 27	表 27	石器観察表 5 …………… 239
表 7	遺構一覧表 (埴田番号順) 3 …………… 28	表 28	石器観察表 6 …………… 240
表 8	遺構一覧表 (埴田番号順) 4 …………… 29	表 29	石器観察表 7 …………… 241
表 9	遺構一覧表 (発掘調査時の遺構名順) …… 30	表 30	石器観察表 8 …………… 245
表 10	縄文土器観察表 1 …………… 161	表 31	石器観察表 9 …………… 246
表 11	縄文土器観察表 2 …………… 163	表 32	石器観察表 10 …………… 253
表 12	縄文土器観察表 3 …………… 170	表 33	石器観察表 11 …………… 254
表 13	縄文土器観察表 4 …………… 175	表 34	石器観察表 12 …………… 255
表 14	縄文土器観察表 5 …………… 176	表 35	石器観察表 13 …………… 259
表 15	縄文土器観察表 6 …………… 182	表 36	石器観察表 14 …………… 261
表 16	縄文土器観察表 7 …………… 184	表 37	石器観察表 15 …………… 268
表 17	縄文土器観察表 8 …………… 199	表 38	石器観察表 16 …………… 269
表 18	縄文土器観察表 9 …………… 200	表 39	石器観察表 17 …………… 276
表 19	縄文土器観察表 10 …………… 205	表 40	石器観察表 18 …………… 311
表 20	縄文土器観察表 11 …………… 212	表 41	石器観察表 19 …………… 312
表 21	縄文土器観察表 12 …………… 221	表 42	石器観察表 20 …………… 313
		表 43	石器観察表 21 …………… 314

表 44 石器觀察表 22	314	表 55 須志器觀察表 2	438
表 45 石器觀察表 23	329	表 56 土師器觀察表 1	442
表 46 石器觀察表 24	330	表 57 土師器觀察表 2	448
表 47 石器觀察表 25	331	表 58 土師器觀察表 3	449
表 48 石器觀察表 26	337	表 59 土師器觀察表 4	450
表 49 石器觀察表 27	337	表 60 土師器觀察表 5	455
表 50 石器觀察表 28	349	表 61 土師器觀察表 6	457
表 51 石器觀察表 29	351	表 62 陶磁器觀察表 1	461
表 52 石器觀察表 30	357	表 63 陶磁器觀察表 2	464
[下卷]		表 64 石製品觀察表	468
表 53 弥生時代・古墳時代遺物觀察表	369	表 65 鉄器觀察表	471
表 54 須志器觀察表 1	437	表 66 キセム他觀察表	501

## 写真図版目次

[下巻]		写真図版 31	589
写真図版 1	559	写真図版 32	590
写真図版 2	560	写真図版 33	591
写真図版 3	561	写真図版 34	592
写真図版 4	562	写真図版 35	593
写真図版 5	563	写真図版 36	594
写真図版 6	564	写真図版 37	595
写真図版 7	566	写真図版 38	596
写真図版 8	566	写真図版 39	597
写真図版 9	567	写真図版 40	598
写真図版 10	568	写真図版 41	599
写真図版 11	569	写真図版 42	600
写真図版 12	570	写真図版 43	601
写真図版 13	571	写真図版 44	602
写真図版 14	572	写真図版 45	603
写真図版 15	573	写真図版 46	604
写真図版 16	574	写真図版 47	605
写真図版 17	575	写真図版 48	606
写真図版 18	576	写真図版 49	607
写真図版 19	577	写真図版 50	608
写真図版 20	578	写真図版 51	609
写真図版 21	579	写真図版 52	610
写真図版 22	580	写真図版 53	611
写真図版 23	581	写真図版 54	612
写真図版 24	582	写真図版 55	613
写真図版 25	583	写真図版 56	614
写真図版 26	584	写真図版 57	615
写真図版 27	585	写真図版 58	616
写真図版 28	586	写真図版 59	617
写真図版 29	587	写真図版 60	618
写真図版 30	588		

## 第 I 章 調査の経緯

### 第 1 節 調査に至るまでの経緯

日本鉄道建設公団九州新幹線建設局は、九州新幹線鹿児島ルート建設を計画し、事業予定区内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課（当時、平成8年4月以降文化財課）に照会した。それを受けて文化課は、平成4年12月に予定地内の分布調査を実施し、21か所の遺跡を確認した。

その後、分布調査に基づいて、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局、県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センターの三者で新幹線ルート内の各遺跡の取り扱いについて協議し、平成8年度から用地取得等条件の整った遺跡から確認調査、緊急発掘調査を実施した。

大塚遺跡ほかの確認調査は、平成11年1月5日から同年3月19日にかけて実施した。確認調査の結果、縄文時代晩期から中世・近世にわたる複合遺跡であることが判明した（第7図）。大坪・榎木田・見入米遺跡の本調査は2年間にわたって行われ、平成11年度は平成11年5月6日から平成12年3月31日まで、平成12年度は平成12年5月1日から平成13年3月27日まで実施し、予定地内すべての調査を終了した（第8図）。なお、整理作業は他の新幹線関係遺跡と併行しながら、平成13年4月から平成16年3月まで行い、平成16年度に印刷・製本した。

### 第 2 節 調査の組織

事業主体者 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局  
 独立行政法人 鉄道建設運輸施設整備機構  
 （平成15年度～）

調査主体者 鹿児島県教育委員会  
 企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

#### 平成10年度（確認調査）

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 吉永 和人  
 調査企画者

次長 尾崎 進  
 主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋  
 調査課長補佐兼第 一 調査係長 新東 晃一  
 主任文化財主事兼第 二 調査係長 立神 次郎

調査担当者  
 主任文化財主事 堀榮 久志  
 文化財主事 前田 誠

調査事務担当

総務課長 尾崎 進  
 主 査 前原敦 裕徳  
 主 査 政倉 孝弘  
 主 事 瀧池 佳子

#### 平成11年度（本調査）

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 吉永 和人  
 調査企画者

次 長 黒木 友幸  
 主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋  
 調査課長補佐兼第 一 調査係長 新東 晃一  
 主任文化財主事兼第 二 調査係長 立神 次郎

調査担当者  
 主任文化財主事 堀榮 久志  
 文化財主事 東 和幸  
 文化財主事 高岡 和也  
 文化財研究員 上床 真

#### 調査事務担当

総務課長 黒木 友幸  
 総務係長 有村 貢  
 主 査 政倉 孝弘  
 主 査 今村 孝一郎  
 主 事 瀧池 佳子

現地指導者 鹿児島大学教授 森脇 広  
 （平成11年8月26日）

島根大学助教授 山田 康弘  
 （平成11年12月9～10日）

熊本県文化課課長補佐 島津 義昭  
 （平成11年12月15～16日）

鹿児島大学助教授 木田 道輝  
 （平成12年2月8日）

鹿児島大学教授 西中川 毅  
 （平成12年3月8日）

#### 平成12年度（本調査）

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 井上 明文  
 調査企画者

次 長 黒木 友幸  
 主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一  
 調査課長補佐 立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志

調査担当者  
文化財主事 渡崎 一富  
文化財主事 東 和幸  
文化財主事 高岡 和也  
文化財調査員 森田 裕之

調査事務担当  
総務課長 黒木 友幸  
総務係長 有村 賢  
主 査 今村 孝一郎  
主 査 栗山 和己  
主 事 池 珠美

現地指導者  
ラ・サール学園教諭 永山 修一

(平成12年9月25日)

熊本市文化財課文化財保護主事 網田 龍生  
(平成12年10月5日)

熊本大学教授 甲元 眞之  
(平成13年1月16日)

鹿児島大学教授 新田 栄治  
(平成13年2月13日)

平成13年度 (整理・報告書作成作業)

調査責任者  
鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 井上 明文

調査企画者  
次 長 黒木 友幸  
主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一  
調査課長補佐 立神 次郎  
主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志

調査担当者  
文化財主事 東 和幸  
文化財主事 関 明恵

調査事務担当  
総務課長 黒木 友幸  
総務係長 前田 昭信  
主 査 今村 孝一郎  
主 査 栗山 和己  
主 事 池 珠美

平成14年度 (整理・報告書作成作業)

調査責任者  
鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 井上 明文

調査企画者

次 長 田中 文雄  
調査課長 新東 晃一  
調査課長補佐 立神 次郎  
主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志

調査担当者  
文化財主事 東 和幸  
文化財主事 森 雄二  
文化財研究員 長崎 慎太郎

調査事務担当  
総務課長 田中 文雄  
総務係長 前田 昭信  
主 査 栗山 和己  
主 査 脇田 清幸  
主 事 池 珠美

平成15年度 (整理・報告書作成作業)

調査責任者  
鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 木原 俊孝

調査企画者  
次 長 田中 文雄

調査課長 新東 晃一  
調査課長補佐 立神 次郎  
主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志

調査担当者  
文化財主事 東 和幸  
文化財主事 野間口 勇

調査事務担当  
総務課長 田中 文雄  
総務係長 平野 浩二  
主 査 脇田 清幸  
主 事 池 珠美  
主 事 福山 恵 郎

平成16年度 (報告書刊行事業)

調査責任者  
鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 木原 俊孝

調査企画者  
次 長 賞雅 彰

調査課長 新東 晃一  
調査課長補佐 立神 次郎

調査事務担当  
総務課長 賞雅 彰  
総務係長 平野 浩二  
主 査 脇田 清幸

### 第3節 調査の概要と調査経過

#### 1 調査の概要

##### (1) 平成10年度の調査(確認調査)

保守基地および本線が通る大坪遺跡と見入来遺跡から確認調査を開始した。グリッドは、市道六月田朝熊線上の本線センターと市道沖田2号線上の本線センターを通したラインを基準に10mピッチで設定した。トレンチは、65区の市道沖田2号線より南に4本(2×40, 2×10, 2×10, 2×10m)、市道六月田朝熊線と市道沖田2号線の間は、基本線の東側0列と基準線より20m東に平行したD列に幅2mで約500mを2本、合計6本設定した。また、榎木田遺跡は市道六月田朝熊線の本線センターと遺跡の北側端の本線センターを通したラインに6か所のトレンチ(2×80, 2×18, 2×4, 2×10, 2×6, 2×5m)を設定した(第7図)。調査の結果、大坪遺跡では縄文時代晩期の入土式土器・黒曜石と奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土した。また、見入来遺跡では縄文時代晩期の入土式土器と奈良・平安時代の土師器が、榎木田遺跡では縄文時代のものと思われる土器片が出土した。本調査対象範囲は、榎木田遺跡の60m分、1~12区、21~52区、62~72区とした。

##### (2) 平成11年度の調査(本調査)

前年度実施した確認調査の結果に基づき、5月から9月末まで見入来遺跡の本調査を実施し、その後10月から大坪遺跡の新たなグリッド20区以北の調査に入った。なお、耕作の関係で、本調査部分のD-1~3区を11月に、工事進捗の関係でB・C-33~36区の調査を1・2月に実施した。また、途中で安原遺跡と宮野原遺跡の確認調査を併行して行った。平成11年度の調査面積は12,024㎡であるが、当初予定していなかったB・C-33~36区の調査を実施した代わりに、B-14~16区は次年度にまわすことになった(第8図)。

##### (3) 平成12年度の調査(本調査)

平成12年度の調査は大坪遺跡を5月から翌年3月にかけて実施し、10月から12月初旬まで榎木田遺跡の調査を併行して行った。なお、確認調査の時点で発掘調査対象外とされた27区・28区、36区~38区にも遺構がつながって続いていたため、協議の上調査を行った。平成13年3月27日までに調査の全てを終了した。平成12年度の調査面積は15,223㎡である(第8図)。

##### (4) 平成13年度の調査(整理・報告書作成作業)

四分布上野原遺跡地内の仮設事務所において、4月より整理・報告書作成作業を実施した。

途中、寿国寺遺跡・計志加屋遺跡の整理作業を併行して実施した。

##### (5) 平成14年度の調査(整理・報告書作成作業)

県立埋蔵文化財センター内において、4月より整理・報告書作成作業を実施した。途中、山ノ脇遺跡・橋元遺跡の整理作業を併行して実施した。

##### (6) 平成15年度の調査(整理・報告書作成作業)

県立埋蔵文化財センター内において、4月より整理・報告書作成作業を実施した。途中、上ノ平遺跡の整理作業を併行して実施した。

##### (7) 平成16年度

平成17年3月に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

#### 2 発掘調査の経過

発掘調査の経過は、日誌抄より略述する。

##### (1) 平成10年度の調査(確認調査)

###### (ア) 大坪遺跡

平成11年1月5日~1月29日の15日間実施。調査面積は1,300㎡。2か所にトレンチを設定。(部分的には3か所設定。)遺跡の範囲は、約13,000㎡と約4,000㎡で、沖田岩戸遺跡の範囲もしくは、隣接地に入る地域。縄文時代晩期の入土式土器と、奈良・平安時代該当の土師器・須恵器等が出土。

###### (イ) 見入来遺跡

平成11年2月1日~2月12日の10日間実施。調査面積は1,000㎡。2か所にトレンチを設定。遺跡の範囲は、約6,500㎡が推定され、遺物は、縄文時代晩期の入土式土器と奈良・平安時代該当の土師器と須恵器が出土。

###### (ロ) 榎木田遺跡

平成11年2月15日~3月9日の7日間実施。調査面積は140㎡。6か所にトレンチを設定。第1トレンチの第3層より縄文時代晩期を主体とする遺物の山上が確認される。遺跡の範囲は、市道六月田朝熊線から70mの範囲が想定され、遺跡としては見入来遺跡と連続した遺跡の範囲が推定される。

##### (2) 平成11年度の調査

###### (ア) 5月

6日から機材等を搬入し、作業開始。見入来遺跡のB・C-2・3区から掘り下げ。中世の青磁。古代~中世の須恵器、縄文時代晩期の黒川式土器・磨製石斧・右製土掘具・石鏃・石鏃が出土。低地の粘土層なので晴れの日は乾くとカチカチ、雨の日はグチャグチャになり、発掘に苦慮。10日に松山健司氏(鉄



建公団出水建設局所長) 来訪。

(4) 6月

B・C-2・3区の部、B・4区の掘り下げ。Ⅱ層中(古代～中世)より烏の骨出土。Ⅲ層より縄文時代晩期の上坑1基・石溜まり3基・黒川式土器・石製土甕具・石鏃・石鏃・小型の磨石(上器の研磨具か?)等出土。

B-3区の一部、B-5・6区の掘り下げ。Ⅱ層上面で遺構検出。深さ20cm程度・径1m程度の円形もしくは楕円形の土坑を1数基検出。人頭大の礫の配置がみられる。時期・用途については不明。

(5) 7月

B-4区の掘り下げ。埋設土器検出。入佐式土器と考えられ、底部は故意に打ち欠いている。蓋が被っていたかどうかは、削平されているため不明。内部に円礫が入る。Ⅲ層内に幅40cm・深さ30cmの溝状の掘り込み(SD6)が、蛇行しながら10mほど検出。埋土からは縄文晩期の土器が出土。(調査時点では、SD6を縄文時代の遺構と考えていた。)

B-5・6区の掘り下げ。Ⅱ層上面の遺構の半截。Ⅲ層下位の青灰色粗砂上の掘り下げ。須恵器など出土。一部溝状遺構を検出。

C-4・5区の掘り下げ。近世の石列(SX7)を検出。真北の方向へ延びる。砂質の川跡(SX8)もあり、中世から近世にかけての陶磁器類が出土。

D-4・5区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。石鏃・石匙等出土。

7月19日(月) 東中野政己氏夫妻(高尾野町在住陶芸家)来訪。

7月31日(土) (上野原フェスタ見学)

(6) 8月

C-5区のⅡ・Ⅲ層から銅製かんざし・ノミ形石斧・青磁の底部、C-6区のⅡ・Ⅲ層から埋設土器・石鏃、B-2区から石鏃・深鉢出土。B-3～5区で南東から北西方向に流れる溝状遺構を検出。

8月12日(木) 東京都四分寺市教育委員会 上敷領久氏来訪。

8月26日(木) 鹿児島大学法文学部教授 森脇広先生による現地指導。「地表下2.5mには粗粒の礫層があり、河床堆積物となっている。その上がフラッドルームと呼ばれるシルト・粘土層であり、遺跡を形成する。縄文時代後期以降目立った洪水は襲来していない。」

(7) 9月

21日から大坪遺跡D-11～13区の掘り下げ。C-1・2・4～6区(C-6区土師器帯出土) B-2～7区馬歯・土師小皿(B-6区)出土。溝状遺構検出(B-4・5区)。須恵器高坏(B-7区)出土。A-1～3・5区黒川式浅鉢(A-2区)出土。

9月24日(金) 天明の台風18号でプレハブ全壊。

(8) 10月

4日までにプレハブ再設置。6日に池田和人氏(鉄建公団副所長)他3名来訪。

10月6日の一部の木調査区を捜し、見入来遺跡の発掘調査終了。大坪遺跡の発掘調査に入る。

D-11区において東西方向の溝状遺構(SD1)を検出。埋土中に須恵器の小破片が混入しているため少なくとも古代よりは新しい時期のものであると思われる。

D-13区では時期不明の土坑状遺構を数基検出。精査して明らかにしたい。

10月26日(火) 出水市立米ノ津東小学校6年(87名・引率4名)遺跡見学・発掘体験・火起こし・煎製卵作りを行う。KTS・南日本新聞・西日本新聞・鹿児島新報・出水市広報の取材。

(9) 11月

大坪遺跡は11月から本格的に調査を開始。表土を除去した時点で、縄文時代晩期の埋設土器を6基検出した。また、奈良時代から平安時代前半にかけての須恵器や土師器が出土。

見入来遺跡の未調査部分(D-1～3区)の探刈り終了後発掘開始。

(10) 12月

【見入来遺跡の調査】D-2区の埋設土器及び縄文時代晩期の土坑を処理して調査終了。直後に工事開始。

C・D-11～14区:12月中に調査終了。年明けから工事着工予定。縄文晩期の土器・石器多数出土。古代から中世の東西に延びる小溝1条、縄文時代晩期の土坑4基検出。

15～20区:Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。土製の紡錘車及び十鏡出土。ガラス毛土(時期不明)。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。軟玉製の玉及び「つちのこ」状の異形石器出土。埋設土器は見入来遺跡とあわせて8基になる。

B・C-33～35区:工事用道路建設のため先行して調査を開始。玉縁の内磁や滑石製石鏃・内黒土師器など中世の遺物出土。

12月9・10日 島根大学助教授 山田康弘

先生による現地指導。「縄文時代晩期の埋設土器は、すべてが埋葬用とは限らないので土器内に何が入っていたかの科学的な分析が必要である。」

12月15・16日 熊本県文化課課長補佐 島津義昭先生による現地指導。「縄文時代晩期土器は熊本平野よりも人吉地域など南部の土器に類似する。胎土の特徴で見分けられる可能性がある。弥生土器及び古代の土器は熊本のもの共通点が多い。」

12月3日(金) 出水高校1年生280名遺跡見学。

(カ) 1月

B・C-15~20区: II~III層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。刻土土器・瓶の把手・土製の紡錘車及び土練等出土。埋設土器は見入来遺跡とあわせて11基になる。B・C-33~36区: 溝状遺構2条(SD22・SD23)及び波板状遺構1条(SR25)検出。内外面黒色土師器など11世紀から12世紀にかけての遺物出土。

〔宮野脇遺跡の調査〕

トレンチを2か所設定して調査する。客土の下に旧水田層があり、それ以下は砂利層で、遺物・遺構とも確認されなかった。

(コ) 2月

B・C-15~20区: II~III層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。焼土3か所。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。緑色の管玉・丸玉・勾玉出土。玉砥石の出土は今のところないが、石屑も数点出土している。この場所で玉造りを行っていた可能性が高い。波板状凹凸面を2か所(SR26・SR27)検出。1条(SR27)は南北方向に延びており、糸甲型地割に重なる可能性有。確実な時期は不明であるが、中世を想定。B・C-33~35区の調査。

2月8日(火) 鹿児島大学助教授 本田道輝先生による現地指導。「縄文時代晩期の遺物の組み合わせにおいて、南薩地域と若干の差がみられる(軽石製品がない等)。遺跡の性格差によるものか、地域的なものか検討する時期にきている。」

2月23日(水) 福岡大学教授 小田富士夫先生来跡。

(ク) 3月

15~20区: II~III層の掘り下げ。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。緑色の玉類(勾

玉・管玉・丸玉)十数点及び異形石器2点出土。埋設土器は見入来遺跡と合わせて13基。古代の焼土は4か所あり、その内1基について調査する。土坑に接して、1m四方に焼土や炭化物が敷き詰められており、土師甕が出土。竈状の遺構となり、全体が堅穴住居状となった。SF29をSI29に変更。B-20区から検出された波板状凹凸面(SR27)は、糸甲型地割上にあり、方向も南北に延びており、関係あるものと考えられる。次年度の調査区に延びるものであり、広がりに注目したい。

B-14~17区については、協議の次年度調査にまわすこととなる。

3月8日(水) 鹿児島大学獣医学科教授 西中川隆先生による現地指導。「馬の骨であることは間違いないが、残りの状態が悪いので大きさ等を明らかにできるかどうかかわからない。」

(3) 平成12年度の調査

(7) 5月

〔14~16区の調査〕

昨年度残ったC-14~16区の一部を掘り下げる。埋設土器3基を検出。緑色の玉類も多く出土。穿孔途中のものや擦り切り技法による切断面の残る破片も出土しており、この層に玉の製作場があった可能性がさらに高くなる。ただし、玉砥石などの製作具は今のところ出土なし。9世紀初めの須恵器・土師器などの遺物取り上げ。

〔D-21~26区の調査〕

21区: III層掘り下げ。22区: 平安時代の溝状遺構(SD43)掘り下げ。埋設土器掘り下げ。23区: 昭和40年代末での川跡(SD44)掘り下げ。埋設土器検出。24区: 平安時代と考えられる溝状遺構検出。長さ150cm・幅45cmの長方形の遺構(SD45)検出。焼土が筋状に取り囲む。25区: 遺構らしき砂の部分(SR54)を掘り下げ。26区: 西側と東側にトレンチを設定して調査中に、表土下1m20cmのところから縄文土器や玉類が出土。平安時代と考えられる遺構らしきものも確認。

5月1日(月) 平成12年度の調査開始。

5月19日(金) 出水高校教諭3名、地域貢献体験事業(岩切義弘先生・東香織先生・堀まゆみ先生)。

5月22日(月) K'T'Sテレビ湯田澄春記者及び南日本新聞社蔵富修治山水事務局長現

地取材。

5月26日(金) 南日本新聞掲載。

(4) 6月

新幹線本線の工事が急がれるため、D区を優先して発掘作業を進める。埋設土器が新たに6基確認され、合計で25基となる。縄文時代晩期の玉類は、21区以南にも出土。なお、穿孔に用いたと考えられる水晶の破片も見つかってきた。桑里型地割に該当すると考えられる溝状遺構や波板状凹凸面も検出されているが、つながらず時期は未だ明確でない。

[D-21～23区の調査]

21区: III層掘り下げ。埋設土器掘り下げ。  
22区: SD43掘り下げ。埋設土器掘り下げ。23区: SD44掘り下げ。埋設土器掘り下げ。D-21～23区は6月20日に明け渡す。

[D-24～26区の調査]

24区: 平安時代と考えられる溝状遺構を2条検出。SK45掘り下げ。深さは約40cmで底には炭が約5cmの厚さで堆積している。壁面は全体的に焼けしている。用途不明。25区: SR54掘り下げ。波板状凹凸面が3列平行。26区: 平安時代と考えられる面までの掘り下げ。

[C-21～23区の調査]

D区からの延長を調査。埋設土器の1基(SJ51)には、緑色の石材を用いた磨製石斧が納められている。

6月1日～16日 大口市植川幸司氏・東郷町萩原潤一郎氏長期研修。

6月12日(月) 長崎外国語短期大学助教授 木本雅康先生来跡。

6月16日(金) 米ノ津東小学校及び桂鳥分校の6年生約90名、発掘体験。K T Sテレビ・NHK「撮ってもビデオ」吉海保氏及び西日本新聞社久保安秀川内文局長・南日本新聞社・鹿児島新報社現地取材。熊本大学教授 甲元眞之先生・同大助手 大坪志子氏来跡。

6月20日(火) 大坪遺跡縄文晩期包含層から出土した2点の玉類の材質調査。ガラスの可能性が考えられたため、奈良国立文化財研究所へ持参する。

6月23日(金) 阿久根郷土史会(濱之上副会長)来跡。

(5) 7月

新幹線本線の工事が急がれるため、D区を優先して発掘作業を実施。勾玉が新たに2点出土し、勾玉は合わせて製品4点・未製品1点となる。それぞれの溝状遺構の追跡調査を行う。

[D-24～26区の調査]

24区: 平安時代と考えられる溝状遺構を4条検出。この区で南北と東西方向の溝が交わっている。SD52とSD56は角を切りながら東の方向へ延びており、南と西への通行が終わったことを示す事例であると考えられる。これらの溝内からは、主に須恵器が出土しているが、確実な時期を示す物は出ていない。

SK45の調査。用途については不明。類例の指示を願う。III層以下の調査。縄文晩期の土器や石器出土。25区: 時期は特定できないが、焼土面(SF58)及び焼土を伴うビット(SF69)検出。26区: 平安時代及び縄文時代晩期の調査。D-24～26区については7月21日に明け渡す。

[C-21～23区の調査]

21区: III層掘り下げ。22区: SD44掘り下げ。SD43掘り下げ。23区: 南北に延びる溝(SD57)の調査。

[C-25～26区の調査]

25区: SD55の追跡調査及びIII層の掘り下げ。26区: III層掘り下げ。C-25～26区の西側半分については7月28日に明け渡す。

7月22日(土) (出水市夏祭りに「大坪縄文人」出現)



蒸気機関車が活躍した頃

(x) 8月

新幹線引き込み線の工事が急がれるため、C区西側を優先して発掘作業を実施。24区に深い位置から縄文土器が出土する地点(SX60)があり、多量の焼土を伴うことから、上加世田遺跡などにみられる凹地の可能性も考えられる。平安時代以降の溝状遺構の追跡調査を行う。14～16区の平安時代初頭の遺構検出。

[C-21～23区の調査]

21区：Ⅲ層掘り下げ。22区：SD44及びSD43掘り下げ。平安時代の溝及び土坑が少なくとも4つ、重なって存在。23区：南北に延びる溝(SD57)の調査。

[C-24区の西側半分の調査]

直径5m・深さ1m50cm程度の凹地(SX60)の調査。一番深い位置に、拳大の焼土が直径1m50cmの範囲にみられる。

[C-25～26区の東側半分の調査]

25区：SD55の追跡調査及びⅢ層の掘り下げ。26区：Ⅲ層掘り下げ。27区にかけて延びる平安時代の溝状遺構(SD61)の調査。

[B-14～16区の調査]

Ⅲ層上面で精査。遺構らしきものの存在は解るが、どのような遺構になるかは不明。8世紀後半から9世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。

8月2日～4日 西出水小学校1名(原口真理子先生)地域貢献体験事業。

お盆明けの大雨で、3日開水没状態。

8月18日(金) 北海道恵庭市教育委員会上屋眞一氏・佐藤幾子氏来跡。

(y) 9月

新幹線引き込み線の工事が急がれるため、C区制を優先して発掘作業を実施。空中写真撮影のため、平安時代以降の溝状遺構の追跡調査。14～16区の平安時代初頭の遺構検出。

C-21区：SD44掘り下げ。C・B-22区：SD43追跡調査。B-22区東側でほぼ直角に曲がり

北方向へ延びる。23・24区：溝(SD68)の追跡調査。SD65とつながると思われる。25・26区：SD64・SD55の追跡調査。B-25区東側でほぼ直角に曲がり南向きに27区方向へ延びる。SD55は波板状凹凸面を伴う。

[B-14～16区の調査]

遺構掘り下げ。8世紀後半から9世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。刻書土器出土。

C-21～26区：9月末明け渡し。

C-17～20区：9月末明け渡し。

9月20日(水) 溝状遺構を中心に空撮。

9月25日(月) ラ・サール学園 永山修一先生による現地指導。「刻書土器の文字は不明。文字を読めなかった人が見よう見まねで書いたのではないかと。もし、類例が増えてくれば、元々の文字がわかってくるのではないかと。」

(z) 10月

B-22・21区：SD43追跡調査。B・C-21・22区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器2基検出。26～29区：SD64・SD55の追跡調査。B-25区東側でほぼ直角に曲がり南向きに29区方向へ延びる。溝の東側に波板状凹凸面が並行して延びている。

[B-14～16区の調査]

14～16区：遺構掘り下げ。8世紀後半から9世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。Ⅲ層の掘り下げ。埋設土器2基検出。10月末日明け渡し。

[榎木田遺跡の調査]

グリッド設定後、調査開始。ベルト部分の掘削と土層断面図作成。

10月10日から、榎木田遺跡及び大坪遺跡32～34区調査開始。

10月3日(火) 北海道埋蔵文化財センター 西田茂氏来跡。

10月5日(木) 熊本市教育委員会 網田龍生先生による現地指導。「大坪遺跡出土の須恵器には、荒尾産と考えられるものが数点入っている。他の須恵器は八代平野以北の熊



時計代わりだった特急「つばめ」

本産とは考えられず、川内市鶴峯駅を中心に比較検討した方がよい。」

10月7日～9日（日本考古学協会鹿児島大会）

10月14日～11月19日 出水市考古学展示会「いずみのむかし」への遺物貸し出し。於：出水市クレインパーク

10月24日（火）鉄道建設公団との協議。  
「榎木田遺跡は工事用道路を優先する。休憩用プレハブの下（B-30区）にも遺構が延びるので、この部分も調査する。」

(4) 11月

[21～26区の調査]

B-22・21区：SD43追跡調査。B・A-21・22区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器3基検出。B-23区：焼土を伴う方形土坑1基（SFK133）・須恵器と土師器を包含する楕円形の土坑1基（SK134）検出。A-23区：土師甕を包含する楕円形の土坑1基（SK135）検出。24～26区：Ⅲ層上面での精査。B-26区：2間×3間の掘立柱建物跡1棟（SB137）検出。平安時代後半か？

〔榎木田遺跡の調査〕

工事が先行する農道部分及び塙脚部分の調査。D-03区：中世頃と考えられる円形土坑を6基検出。柱痕をもつピット1基検出。D-02区：焼土及び炭化物が集中する場所を検出中。C-03区：焼土の入ったピット検出。（調査中は中世頃と考えていたが、古代のものである。）

緑色をした円礫が十数点出土。しかし、大坪遺跡のものに比較すると透明度が無く、加工されたものも無い。見入ら遺跡でも玉類に関する遺物は全く出ていないので、この周辺の転石に含まれているものと考えられる。

11月5日（日）（前期旧石器層造問題発表）

11月10日（金）二県協議会（熊本県・鹿児島県）現地視察。

11月18日（土）（『新石器発見考古速報

展 宮崎』見学）

11月19日（日）まで 出水市考古学展示会「いずみのむかし」への遺物貸し出し。於：出水市クレインパーク 20日返却。

11月29日（水）埋文センター職員現地研修。

11月29日～ 休憩所用プレハブの移転。

(9) 12月

[21～26区の調査]

B-21区：埋設土器5基取り上げ。SJ131は土甕も深鉢形土器であり、下壁に倒立してすっぽり収まっていた。入立式土器と考えられる。（調査時点では入立式土器と考えていた。）縄文時代の円形土坑を1基検出。B・A-22区：SD43に流れ込む溝（SD132）を検出。平安時代と考えられる柱穴3基検出。B-23区：SFK133、SK134の調査。A-23区：SK135の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区掘り下げ。A-26区：平安時代後半と考えられる溝の検出。

[30～36区の調査]

B-30区：アスファルト掘削。A-34～36区：溝3条・波板状凹凸面8条検出。玉緑白磁・須恵器・土師器・鉄製品出土。平安時代末期から鎌倉時代初期と考えられる。

〔榎木田遺跡の調査〕

D-01・02区：直径2m・深さ1.5m程の土坑の掘り下げ。埋土上部から土師器・須恵器が出土。中には焼土・炭化物の堆積層がみられた。用途は不明である。D-02・03区：焼土を伴う楕円形の遺構の調査。壁面は全体的に焼けており、滑落している箇所がみられる。床面には炭が数cmにわたり堆積している。平安時代前半の遺構と考えられる。12月8日に調査を終了し、明け渡す。

12月1日（金）休憩所用プレハブの移転。

12月4日（月）出水高校1年生現地見学。

12月26日（火）年内（西暦1000年代ミレニアム・20世紀末）の調査終了。



生活と観光を担う肥薩おれんじ鉄道

(f) 1月

[23～26区の調査]

各グリッドを10mおきに下層確認のためのトレンチ調査。A-23区：SK135の調査。B-23区：SPK133・SK134の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区検出中。A-26区：平安時代後半と考えられる溝の検出。B-26区：SB137の調査。

[29・30区の調査]

B-29・30区：溝の延長部分検出。方形竪穴遺構（SK151）？検出中。柱穴も10数基検出されているもの、建物になるものはない。

[31・32区の調査]

A-31・32区：アスファルト掘削。

[33区～37区の調査]

A・B-33～37区：溝5条・波板状凹凸面8条検出中。濼を伴う円形土坑などかなりの遺構がでそうである。縄文時代晩期の遺物もみられる。

1月12日（金） 公団との協議。「2月20日までに切り替え道路部分（33区）を終了し、現在の市道部分を3月末までに調査を終える。」

1月15日（月） 熊本大学教授 甲元眞之先生による現地指導。積雪のため出土遺物を中心に指導いただく。「縄文時代の玉つくりの良好な遺跡であり、滑石一個の素材から一点の製品を製作する技法と、切所して多量の角柱状の素材を形成する方法の二通りの製作技法がみられる。砥石・銼・擦切石器などの製作道具を探すように。」同大助手 緒方智子氏来跡。

(g) 2月

[23～26区の調査]

各グリッドを10mおきに下層確認のためのトレンチ調査。A-23区：SK135の実測・撮影。B-23区：SFK133・SK134の実測・撮影。縄文晩期の土坑1基の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区掘り下げ。B-29・30

区：方形竪穴遺構と思われた遺構（SK151）は、結局深さ1mの逆台形状の土坑になった。性格は不明である。A-31・32区：溝状遺構3条と焼土が点在する区域を検出。

[33区～37区の調査]

A・B-33～37区：溝5条・波板状凹凸面11条検出中。溝状遺構からは、玉緑白磁・須恵器・土師器・中央に筋のある砥石・鉄製品・滑石製品など出土。平安時代末期から鎌倉時代初期と考えられる。円形土坑5基検出。溝状遺構よりも波板状凹凸面の方が新しいが、SR25とSD23は同時期と考えられる。柱穴も検出中であるが、1棟のみ2間×3間の掘立柱建物が見つかった。それに、略方形のジメジメしていたような遺構が2基（SX149・SX150）検出されている。縄文時代晩期の土器・石器・玉類の出土もみられる。

2月13日（火） 鹿児島大学教授 新田栄治先生による現地指導。「縄文晩期の玉類、古代の土師焼成土坑などを東南アジアの視点を含めて指導いただいた。」

2月16日（金） 航空写真撮影

33区は市道付け替えのため2月22日明け渡し。

2月某日 元興寺文化財研究所 佐藤聖聖氏来跡。

(h) 3月

[25・26区の調査]

B-25区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器1基検出。

A・B-26区：古代末の柱穴及び焼土検出。

[31～37区の調査]

A・B-31・32区：溝状遺構3条と焼土1か所検出。掘立柱建物跡3棟検出。A・B-33～37区：溝5条・波板状凹凸面11条検出。2間×3間の掘立柱建物跡5棟検出。縄文時代晩期の焼土を伴う凹地検出。

3月27日 すべて完了。



走り始めた九州新幹線「つばめ」

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置および立地

大坪遺跡は北半球にあり、北緯32° 05' 55"で中国南京・米田ジョージア州コロンバスなどの都市と同緯度であり、東経は136° 21' 23"で中国琿春(フンチュン)・蒙州ダーウィンなどの都市と同じである。ユーラシア大陸の東端に位置する日本は、四面を海で囲まれている。大坪遺跡から東京までの直線距離は約950kmであり、この範囲内に沖縄県那覇市、朝鮮半島のソウル・平壤、中国の上海などの都市は位置する。九州島の西海岸側は東海岸に比べ複雑な地形をなしており、リアス式海岸が続く長崎県、大きな湾内である有明海、種やかな八代海、そして東シナ海に面した鹿児島県となっている。その中の八代海南部に大坪遺跡はあり、海路としても陸路としても優位な場所に位置する。大坪遺跡から鹿児島市までの直線距離は約60kmであり、犬牟耆島はもちろんのこと、奄美・島原半島・人吉地方などの一部にかかる距離である。

大坪・見入来・榎木田遺跡は出水市市街地より北西約1.5kmの出水市美原町に所在する。出水市は鹿児島県の最北端に位置しており、熊本県水俣市に接する県境の市である。鹿児島・熊本の県境一帯は、標高600~1000mの山地が東西方向に伸びた形で広く分布している(以下、「肥薩山地」とよぶ)。肥薩山地は、地質時代でいう新第三紀鮮新世(520万~170万年前)に噴出した火山岩類から構成されており、「肥薩火山区」とよばれている。肥薩火山区は主要な領域は南北30km、東西50kmの広い範囲にわたっており、火山岩類の一部は長島や何久根にも分布する。これらの火山岩類を、「肥薩火山岩類」と総称している。肥薩火山岩類は主に輝石安山岩の溶岩と凝灰角礫岩からなり、両者が多数混積した地質構造をなす。

北東部は熊本県と境をなす矢筈岳(687m)を主峰とする肥薩山系が略東西方向に走り、熊本県水俣市および鹿児島県大口市と接する。南部は、紫尾山(1,067m)を主峰とする四角一層群と一部花園閃緑岩よりなる紫尾山地が略南北方向に走り、摩摩郡宮之城町及び鶴州町と接する。紫尾山は北薩地方の高峰である。この紫尾山地と、出水平野との境の断層崖下には、シラス台地と高位段丘がある。これにつづく大野原一帯は、松川を扇頂とする洪積台地の扇状地で広く広がっている。この扇状地を囲むように、河岸段丘と沖積地が発達している。矢筈山地に源を発した広瀬川と、紫尾山地を源とする平良川は中流域で合流して米ノ津川となり、北流して八代海に注ぐ。平良川及び米ノ津川の左岸には、知識面と呼ばれる河岸段丘が扇状地をとりまくように細長く形成され、中流域では米ノ津面とよ

ばれる沖積地が発達する。なお、下流域では三角州や海岸平野となり八代海となるが、海岸部は江戸時代以降干拓が行われ、現況の地形を呈している。西部は、扇状地及び高尾野川、野州川によって形成された河岸段丘や沖積地で、出水郡高尾野町と境を接する。北西部は江戸時代以降に造られた干拓地であり、国の特別天然記念物である鶴の渡来地として有名である。さらに、遠浅の八代海を距て、出水郡東町及び熊本県の天草諸島を望むことができる。なお、今回の調査期間中の晴天の日には東光山(160m)から島原半島の雲仙普賢岳を日視することができ、向島の近さを実感した。

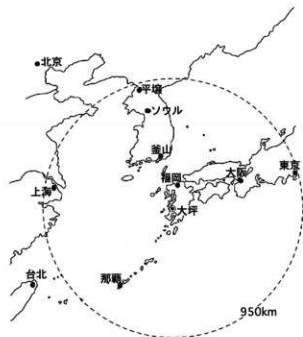
大坪遺跡は、矢筈岳の裾野から出水平野に広がる沖積地に立地している。東光山から延びる裾野で傾斜が緩くなった所には朝鮮集落や松尾集落が形成され、小さな谷になった部分にも、ひと昔前までは2、3軒の人家があった様である。この裾野から平野部に移り変わったところに大坪遺跡はある。八代海に注ぐ米ノ津川及び高柳川の右岸にあり、標高は約7~8mである。昭和40年代以前の地籍図をみると、高柳川は現在よりも西側を流れており、今回の調査地点はわずかに高い地点に位置する。大坪遺跡は沖田岩戸遺跡と隣接し、見入来遺跡及び榎木田遺跡も連続した地形の同一地域内にあることから、これらを総称して大坪遺跡として紹介することとする。

### 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

#### 旧石器時代・縄文時代

出水地方は県境の街ということもあり、早くから考古学・歴史学研究のフィールドとして、学術上重要な地として注目されてきた。特に考古学の面では、昭和36年~54年に出水高校に在職された池水寛治先生が考古学部を創設し、上場遺跡や長島の古墳群などの発掘調査をはじめ、研究誌『もくら』を発行して活発な活動を続けた。出水周辺で確認されている遺跡の多くは、その時期の活動成果である。当時高校生だった章顕たちは、現在全国各地で埋蔵文化財に携わっておられる方も多く、後進の指導にも活躍しておられる。

出水市の東部、大口市、水俣市と接する標高約500mの上場高原一帯は、旧石器時代の遺物が集中する。特に上場遺跡は、県内で初めて発掘調査された旧石器時代の遺跡であり、爪形文土器と細石器の共出や、給良テフラ通称シラス(約2.45万年前)の上下でナイフ形石器、台形石器等を包含する7時期の文化層の存在が明らかとなり、前期旧石器の埋没問題以降改めてその成果が再評価されつつある。全国で初めて検出された旧石器時代の住居跡については、再検



主な都市



国府関係所在地



縄文時代後期終末～晩期の主な遺跡  
及び蛇紋岩系石材産出地



主な縄文遺跡

第1図 大坪遺跡の位置

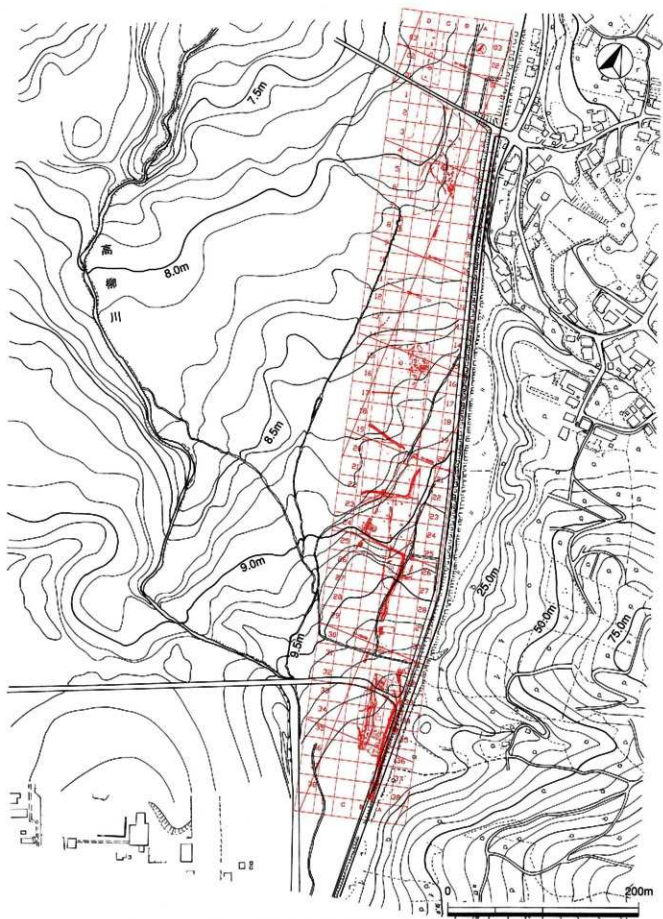




第2図 グリッド設定図(現況図)



第3図 グリッド設定図（昭和40年代の地籍図）



第4図 グリッド設定図(昭和40年代の地形図)

討を求める意見も出されている。なお、上場一帯から隣接する大川市日東及び下青木一帯には、黒曜石原産地が所在する。

出水平野での遺跡の立地は主に、扇頂部および扇端部の河岸段丘や山麓縁辺、裾部に集中し、縄文時代早期・前期・後期の牟田尻遺跡やカラン迫遺跡、前期の荘貝塚、中期の柿内遺跡や江内貝塚等が知られている。特に出水貝塚は、大正9年(1920年)に京都大学によって本県で最初の貝塚遺跡調査が行われ、縄文時代後期前半に位置づけられる出水式土器の標式遺跡である。また、戦後の調査によって貝塚下から縄文時代早期の押型文土器の単純層が確認され、南九州においても押型文土器を単層にもつ集落であることがわかった。縄文時代全時期を通して貝殻文を多用する南九州において、これが時期差を示すものなのか、地域差を示すものなのか今後の課題である。縄文時代後期から晩期の遺跡では大坪遺跡に隣接する神川岩戸遺跡・中里遺跡が知られ、最近の調査で黒川式土器新段階から刻目突帯文土器にかけての時期の遺物が大量に出土した下終迫遺跡がある。

#### 弥生時代・古墳時代

弥生時代の遺跡としては、中期の檜石墓から後期の葎石土壌墓、古墳時代の地下式板石積石室へと移行する埋葬形態の変遷を知ることができる堂前遺跡や下高野遺跡がある。しかし、主体的な弥生集落の発見例は未だない。

古墳時代になると、洪積台地縁辺に位置し、短甲が出土した地下式板石積石室を主とする溝下古墳群、海岸沿いに位置し箱式石棺墓を主とする切通古墳群、八代海と東シナ海をつなぐ黒之瀬戸海峡によって隔てられた長島には、5世紀から7世紀にかけての高塚古墳が出現する。

#### 古代

出水の地名が文献資料にあらわれるのは奈良時代後期の記述である続日本記の宝亀9年(778年)11月の条に遣唐船が出水海岸に漂着、その後和名抄には「伊豆美」とあり、山内(やまと)、勢戸(せと)、借家(かしくり)、人家(おおやけ)、四形(にしかた)の五郷から構成されていると記載されている。

奈良時代出水郡の行政に携わる役人たちの中に、「肥若」や「五百木部」等の肥後系の人物がいることから、大和朝廷がこの地に住んでいた隼人を支配するために肥後から移民を送り込み、この移民を中核として、当時の出水郡は構成されていたことが考えられる(註1)。

平安時代になると全国各地で荘園が開墾されるようになり、出水でも山門院や和泉荘といった荘園

が形成されてくる。これらは、島津荘の成立と共に吸収される。

出水の荘園のことが記載されている史料は、「山門院文書」や「附付文書」がある。これらの文献史料によると、この当時和泉荘を領有している人物は、肝付氏の流れをくむ伴氏が代々下司職を受けて領有していると記載されている(註2)。伴一族は、後に和泉氏を名乗り井上、朝熊、知識、上村方面に土着していった。大坪遺跡は、朝熊と隣接する地域に位置していることから、当時は和泉荘の一部であったのではないかとと思われる。また、大坪遺跡は、その名のとおりに「坪」という十地面積をあらわす語が使用されている。周辺に字名にも、「八反田・七次・杉坪」等の数詞地名が使用されている。大坪遺跡では条里型地割をあらわすような遺構も検出されていることから、条里制と何らかの関係があるのではないかと考えることができる。

平安時代末期(12世紀後半)には、和泉兼保が亀ヶ城を築き、この地方を領有している。その後鎌倉時代に書かれた建久園田帳には「和泉郡」として登場する。同書によると、現在の出水地区は、「和泉郡(荘)、山門院、莫瀬院」と記載されている。

#### 中世

鎌倉期では、源頼朝より島津忠久が元暦2年(1185年)に島津荘下司職に補任され、忠久は山門院に守護被官本門貞親を入部させる。貞親は、山門院内に木牟礼城を築き、以後ここは5代貞久まで薩摩国守護所として守護勢力の拠点となる。

和泉荘を領有している和泉氏は当時の島津氏と反目しており、南北朝期になると島津氏が北朝側に着くが、和泉氏の領主たちは南朝側に着いて島津氏と戦っている。正平9年(1354年)の戦いを境に和泉一族らの在地土豪の組織だった抵抗はなくなってくる。

島津氏に敵対する強力な勢力がなくなると、島津氏一族の中で争いがおこってくる。その争いを平定したのが島津忠国・用久であり、この用久が1425年に薩州家を興し、以後約130年間出水を領有することになる。このころより荘園は崩壊していき、荘園制の村落から郡鄙制の村落へと移行していく。豊臣秀吉の九州出兵の後、文禄2年(1593年)に薩州家は改易され、出水は一時秀吉の直轄領となった。しかし、慶長4年(1599年)に「酒川の戦い」の戦勝を賞し、再び島津氏に返還された。この時期の遺跡としては、主に中世城郭があげられる。出水市内でも松尾城などが調査されており、成果があがっている。

#### 近世

江戸時代の藩政期に入ると、島津家の外城制度の下に藩領地としての政治的要素の性格を強め、藩内

最大の外域とし、藩の直轄地とした。そのため、藩内各地から派遣された屏強な郷士が、国境及び海岸線に居を構え、県内でも最大規模の武家屋敷等の衆中地である「麓」を形成するに至った。武士は麓に集められ、農民は「門割制度」によって、新しい村に編成されていく。この頃になり、大規模な開田工事も実施され、平野部も水田化されていくことになる。藩境である出水は交通の要所にもなり、肥後四水侯に至る「出水筋」は参勤交代に使われ、また野間(野間ノ関)で人や物資の出入りを厳重に監視していた。

大坪遺跡からも、近世時代に使用されたと思われる「煙管」・古銭(寛永通宝)等の遺物が出土しており、この時代にも人々が生活していたことを窺うことができる。

#### 近・現代

明治時代に入り、明治10年(1877年)に西南戦争が勃発する。この時出水麓の郷士たち(山水衆中)は、薩軍(西郷軍)の3番4番大隊に編入され、戦闘に参加する。このとき、矢倉岳山頂付近で激しい戦闘が展開されたという記録がある。また、官軍側は米ノ津から広瀬橋を渡り、竹之山(向江町)方面・広瀬橋付近・鍋野付近のそれぞれから、総攻撃を開始する。海軍は米ノ津港へ接岸し、艦砲射撃や上陸作戦を行っている。この時山水の郷士たちは才願守墓地を主陣地として防戦するが、壊滅する。大坪遺跡からは、鉛の弾が出土している。この鉛の弾は、球形を成している。当時使用された官軍の銃弾は、流線型の形状を成していることから、これらの出土した弾は、薩軍が使用した弾であるのではないかと考えられ、西南戦争と深い関わりがあるのではないかと考えられる。明治時代の学制発布により、全国的に教育が盛んになってくる。出水地方でも教育が普及していき、それに伴い経済が発展してくる。

太平洋戦争時は、昭和18年(1943年)に出水海軍航空隊が発足し、昭和20年(1945年)には特攻隊基地となる。本土空襲によりこの基地も空襲を受ける。大坪遺跡からも、この当時使用されていたと思われる薬莢や弾が出土している。戦後は、出水市となり、従来からの産菜をもとに工業都市として発展してきている。昭和40年代には高度成長と共に農地の圃場整備が実施され現在の様な田園風景に変わったが、それ以前の区画及び地形は第3区及び第4区の様であった。ほぼ磁北を基調とする110m四方の区画が整然としており、条里型地割が存在していることがわかる。条里型地割がどれぐらいいさかのぼるのかについては、文献資料もなく、今回の調査の大きな課題であった。

#### 出水の交通

出水は県境に位置しているため、交通の要所として発展してきた。先述したように江戸期の山水筋は参勤交代に使われ、大正12年(1923年)には鹿児島から米ノ津まで鉄道が敷かれた。また、昭和2年(1927年)には米ノ津から八代までの鉄道が開通し、これが鹿児島本線となった。元来鹿児島本線は明治42年(1909年)に、鹿児島→国分・古松→人吉・八代というルート(現在の肥薩線)を走っていたが、米ノ津⇄八代間の鉄道が開通したことにより、こちらの方を鹿児島本線とした。この結果、出水には中央からの文化が随時流入し、これに伴って経済も発展することになった。平成16年(2004年)3月13日には九州新幹線が開通し、その停車地となった出水は中央との時間的な距離が縮まり、今後とも文化的、経済的な発展をしていくことが予想される。

このように出水地方は旧石器時代〜古墳時代はもとより、古代から南北朝・鎌倉・中世・近世・近代・現代にかけて歴史の変換点の中で、豊富な歴史をもち、衆目の注目する場所である。

(註1) 736年の「薩摩正税帳」によれば、「大領外正六位下兼七等肥前・少領外従八位兼七等五百木部・主政外初位上兼十等大伴部足・主領六位大伴部福足」と記載されている。

(註2) 建永2年(1207年)に書かれた肝付文書では、「蓋嘗兼貞時 族人成房亦祖於薩州和泉 以諱 御花成辨許使及下司職」とあり、また建永2年(1207年)の肝付兼保讓状には、「數位伴朝臣兼保讓許 讓与内舍人伴保忠嶋津御庄和泉庄并財使并下司職・田畠山野狩合事、在四等東限神河西限石坂 南奈尾山高尾 北限海 副渡代々 詮文等、當御庄者、是兼保之重代相傳之領地也、隨高祖父伴成房・曾祖父時房・親父守房・嫡子兼保四代相傳成」と記載されている。

『出水郷土誌』山水郷土誌編纂委員会

『肝付文書』『鹿児島県史料』財部推録拾遺家わけ

『出水郷土誌』出水市歴史文化財部調査報告書(5)

1995 山水文化教育委員会

西山賢一 2001 『出水周辺の地形・地質について』『鹿児島県考古学会平成13年度秋季大会研究発表資料』



出水地区周辺遺跡図



旧石器



縄文



弥生



第5図 周辺遺跡図(1)



第6図 周辺遺跡図(2)

表1 周辺遺跡地名表1

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
1	出水真塚	08-001-0	出水市中央町 尾崎	台地	縄文(早・中・後)、 中世	埴文・阿高式・筒稲奇式・出水式・貝輪 瓦製品・人骨・黒石・黒磁器	平成6年古、8遺文等目、大正9年昭24-29 年 昭28-10年学術調査、非遺文(1)
2	尾崎城跡	08-027-0	出水市中央町 尾崎	台地	中世	水の手・掘立柱建物跡	知色氏・高津氏所城、別称「加藤城」
3	尾崎A	08-067-0	出水市中央町 尾崎	台地	縄文(後・晩)、奈良、 平安、中世、近世	縄文期層土層・土師器・滑石器・陶磁器	平成5年確認調査、平成6年本調査、非 遺文(5)
4	新村B	08-061-0	出水市文化町 尾崎	台地	奈良、平安	土師器	平成5年分布調査、平成7年確認調査
5	新村A	08-060-0	出水市文化町 尾崎	台地	奈良、平安	土師器	平成5年分布調査、遺物採集地、市埋文 相(5)
6	藤原原	08-059-0	出水市文化町 尾崎	台地	奈良、平安	土師器	平成5年分布調査、遺物採集地
7	尾崎B	08-068-0	出水市文化町 尾崎	台地	縄文(後・晩)、奈良、 平安、中世、近世	縄文期層土層・土師器・滑石器・陶磁器	平成5年確認調査、平成6年本調査、非 遺文(5)
8	野中田	08-058-0	出水市文化町 山下	台地	奈良、平安	成川式・土師器・近代基	平成5年分布調査、平成7年緊急調査
9	山下	08-057-0	出水市文化町 山下	台地	奈良、平安→中世	土師器・青磁	平成5年分布調査、遺物採集地
10	西郷	08-056-0	出水市文化町 山下	台地	奈良、平安	土師器	平成5年分布調査、遺物採集地
11	正八幡	08-005-0	出水市文化町 山下	台地	縄文→奈良、平安	成川式・土師器・近代基	平成5年分布調査、平成7年緊急調査
12	上松	08-094-0	出水市文化町 山下	台地	縄文	土師	平成9年度北編・伊佐分布調査
13	下郷山	08-095-0	出水市文化町 山下	台地	縄文・古墳	縄文土器・土師器	伊佐編分布調査
14	溝下古墳群	08-011-0	出水市文化町 399	台地	古墳	地下式石積石室・埴甲・鉄器・土師器瓦・成 川式	平成6年「溝下」、昭和9年記録なし、昭和 3・2・4・5・平成1・2年学術調査
15	川原	08-069-0	出水市文化町 上村裏	台地	古墳→奈良、平安	土師器	
16	谷城跡	08-029-0	出水市下郷町 上村裏	台地	中世	水の手	
17	南木田	08-093-0	出水市知願町 上村裏	台地	縄文・古墳	土師・土師器	伊佐編分布調査
18	新堂	08-092-0	出水市下郷町 上村裏	台地	古墳、中世	土師器・青磁	平成9年度北編・伊佐分布調査
19	西宮ノ墓	08-090-0	出水市下郷町 新津山	河原段丘	古墳	土師	平成9年度北編・伊佐分布調査
20	八幡	08-102-0	出水市下郷町 新津山	台地	古墳、中世	土師	平成9年度北編・伊佐分布調査
21	表藤原	08-123-0	出水市中央町 表藤原	台地	中世	鉄器・樋口	遺物採集地
22	一町堀	08-103-0	出水市中央町 表藤原	河原段丘	古墳	土師	平成9年度北編・伊佐分布調査
23	天神原	08-104-0	出水市中央町 表藤原	台地	古墳	土師	平成9年度北編・伊佐分布調査
24	成願寺	08-009-0	出水市中央町 八幡	河原段丘	弥生→古墳、中世 (安土朝山)	筒式石棺・土師器・滑石器・弥生土師	発掘記録なし
25	田中	08-010-0	出水市中央町 八幡	河原段丘	弥生	弥生土師・滑石器・土師器	
26	内城跡	08-032-0	出水市中央町 八幡	河原段丘	中世	切岸?土器?	平城氏所城
27	尊徳寺跡	08-034-0	早良高輪(中村 西院)	河原段丘	中世(寛政)→近代 (明治3年)	寺跡	後舟島浄宗第5代興久設立、「出水風土記」
28	成願寺跡	08-035-0	出水市中央町 八幡	台地	中世(安土朝山)→ 近世	寺跡	1833年消失、「出水風土記」
29	登松	08-105-0	出水市中央町 表藤原	台地	古墳、奈良、平安	土師	平成9年度北編・伊佐分布調査
30	野込	08-106-0	出水市中央町 表藤原	台地	古墳	土師	平成9年度北編・伊佐分布調査
31	山王西	08-107-0	出水市百方石 野新藤上	台地	古墳	土師・土師器	平成9年詳細分布調査、北編・伊佐分布 調査
32	新藤	08-091-0	出水市西郷ノ江 野新藤上	台地	縄文	土師・黒磁石	平成9年度北編・伊佐分布調査
33	東郷ノ江	08-121-0	出水市西郷ノ江 野新藤ノ江	海原平野	縄文	土師	遺物採集地
34	西郷ノ江	08-120-0	出水市西郷ノ江 野新藤ノ江	海原平野	縄文	土師	遺物採集地
35	長松寺	08-086-0	出水市西郷ノ江 野新藤ノ江	低地	縄文	土師	平成9年度北編・伊佐分布調査
36	穴反ノ丸	08-073-0	出水市八月田 野六月田下	低地	奈良、平安	土師器	市埋文相(13) 遺物採集地
37	平松	08-083-0	出水市下郷町 平松原	丘陵	縄文・古墳、奈良、 奈良、平安	土師・青磁・埴形・黒磁石	平成9年度北編・伊佐分布調査
38	野原の園跡	08-117-0	福之内(2577- 2578)	台地	中世(安土朝山)→ 近世	古瓦戸	(西)昭41.12.20



表2 周辺遺跡地名表2

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地 形	時 代	遺構・遺物	備 考
39	上針原	08-119-0	出水市須賀針	山麓部丘陵	縄文	土器	遺物採集地
40	井平山	08-110-0	出水市坊野町 畑	隆起段丘	縄文	土器	遺物採集地
41	鳥越平	08-128-0	出水市城町切 通	山麓部丘陵	縄文	土器	遺物採集地
42	茶屋ノ元	08-050-0	出水市城町切 通	隆起	弥生	土器	平成10年発掘調査
43	切通	08-012-0	出水市城町切 通	丘陵	古墳	箱式石棺	昭和46年非公式調査
44	安原城跡	08-031-0	出水市安原町 上ノ原	台地	中世	鞍部・空堀	安原氏居城
45	安原跡	08-039-0	出水市安原町 安原	河原段丘	縄文・弥生・古墳	土器・黒曜石	遺物採集地
46	磯原城跡	08-023-0	出水市磯原町 新田	丘陵	中世	土器・曲輪・空堀・土器・虎口	磯原氏居城
47	諏訪後	08-084-0	出水市奥原町 新田	台地	縄文・奈良・平安	土器・古銭・土銅器	平成9年度北陸・伊佐分布調査
48	沖田戸野	08-008-0	出水市黄金町 奥原町	低地	縄文前期・古代	縄文土器・石鏡・石斧・鹿石 弥生式土器等	昭和47年度水産(26) 48・49年度、国文化財報告25
49	牛ヶ追風平	08-122-0	出水市堂山山 頂	山頂部丘陵	中世	土師器・青磁	遺物採集地
50	大坪	08-051-0	出水市黄金町 奥原町	低地	縄文(晩)・奈良・平安	埴土器・玉器・土師器・奈良型地割	平成10年発掘調査、平成11～12 年本調査
51	宮ノ原	08-047-0	出水市上郷津 田	低地	弥生	石器	遺物採集地
52	松尾城跡	08-030-0	出水市上郷津 松尾	丘陵	中世	曲輪・竪立柱石物・櫓郭・大手・空堀・土師器・青磁	市庁文書(10) 上村氏居城
53	大田城跡	08-026-0	出水市上郷津 大田	丘陵	中世	土師・曲輪・櫓郭・虎口・水の手	
54	乙互館	08-078-0	出水市上郷津 大田	山麓部丘陵	旧石器		遺物採集地
55	藤山口	08-079-0	出水市上郷津 藤	山麓部丘陵	旧石器		遺物採集地
56	井出ノ原	08-085-0	出水市上郷津 藤	河原段丘	縄文・古墳	土器	卯乙分布調査
57	海津原	08-086-0	出水市上郷津 井之上	台地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北陸・伊佐分布調査
58	井ノ上城跡	08-025-0	出水市上郷津 井之上	丘陵	中世	土師・曲輪・空堀・切通・櫓郭・水の手	和泉氏・井田氏・野村(井口)、「小城」
59	藤原	08-087-0	出水市上郷津 井之上	河原段丘	縄文・中世	押型文土器	卯乙分布調査
60	水天上	08-088-0	出水市藤岡山 城	台地	縄文・奈良・平安・近世	土器・黒曜石・土師器	平成9年度北陸・伊佐分布調査
61	出水館	08-054-0	出水市藤岡町 馬場	台地	中世～近世	地溝・土師・土師器	平成9年発掘調査、平成10年本調査、市庁文書(10)
62	下ヶ池	08-040-0	出水市武本水 之原	河原段丘	縄文・奈良	土器・黒曜石	遺物採集地
63	大曲	08-041-0	出水市武本水 之原	河原段丘	奈良・平安	土師器	遺物採集地
64	上ノ原	08-125-0	出水市武本水 之原	丘陵	縄文・奈良・平安	土師・黒曜石・土師器	遺物採集地
65	松ヶ池	08-048-0	出水市武本水 之原	丘陵	旧石器～縄文	石器	平成10年発掘調査
66	小松	08-049-0	出水市藤岡町 小松	丘陵	縄文	黒曜石	平成10年発掘調査
67	出水城跡	08-024-0	出水市藤岡町 7325	丘陵	中世	土師・曲輪・空堀・櫓郭・大手・堀の手	野村和泉氏・島津和泉氏・藤州家、野村 「鳥ヶ池」(花見ヶ池)
68	見性庵跡	08-037-0	出水市藤岡町上 野島通	丘陵	中世(室町)	福元鳥居等の基・位牌	「出水風土記」
69	大造寺跡	08-035-0	出水市武本西ノ 口	丘陵	中世(室町)		藤州鳥居等第6代龍巻管仲中、「出水風 土記」
70	山田島原の墓	08-224	武本2803	墓池	江戸	墓石	江戸初期の出水地割
71	蓮光寺跡	08-036-0	出水市武本西ノ 口	丘陵	中世(室町)～近代 (明治3年)	寺跡	1459年建立、「出水風土記」
72	五万石溝遺水溝	08-227	武本小原下	平地	江戸	用水路	
73	平山城跡	08-029-0	出水市武本小 原下	山麓部丘陵	中世		伴系和泉氏一旗居城
74	武本大坪	08-101-0	出水市武本上 中	河原段丘	古墳	土器	旧名「大坪」、平成9年度北陸・伊佐分布 調査
75	老神	08-053-0	出水市武本上 中	河原段丘	縄文～平安	竪穴住居跡・竪・磨形土器	昭和62年分布調査、平成4年発掘・本 調査、市庁文書(4)
76	市菜	08-052-0	出水市武本上 中	隆起台	縄文～平安	弥生土器・土師器・須石器	昭和62年分布調査、平成4年発掘・本 調査、市庁文書(4)

表3 周辺遺跡地名表3

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
77	休庵町遺構	08-070-0	出水市武本清水	扇状地	縄文、奈良、平安		平成10年詳細分布調査
78	上原ノ原	08-108-0	出水市武本上原ノ清水	扇状地	縄文・古墳	土器	相北藩分布調査
79	森戸内原	08-019-0	出水市武本江川野	扇状地			旧名「種元池」「花園池」合併。遺物採集地
80	砂取	08-109-0	出水市武本清水	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北藩-伊佐分布調査、平成12年度詳細分布調査、旧名「種元池」「上原上」合併
81	鹿尺西	08-020-0	出水市武本清水	扇状地			旧名「種元池」「花園池」合併。遺物採集地
82	森田尻	08-021-0	出水市武本清水	扇状地	縄文(早・中)、弥生		旧名「出水下池」「出水下池」合併。昭和41年発掘調査、県埋文(7)
83	種光上	08-018-0	出水市武本清水	扇状地			遺物採集地
84	出水ヶ池	08-110-0	出水市武本清水	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北藩-伊佐分布調査、平成12年度詳細分布調査、旧名「出水ヶ池」合併
85	池ノ尾下	08-017-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(晩)		遺物採集地
86	江川野口	08-111-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北藩-伊佐分布調査、旧名「上池ノ尾」「池ノ尾」合併。遺物採集地
87	森田原	08-022-0	出水市武本清水	扇状地	縄文		遺物採集地。旧名「池ノ尾」合併
88	中尾Ⅱ	08-016-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(早)		平成10年度発掘調査、平成11年土器調査、市埋文(12)
89	中尾Ⅰ	08-015-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(早)	押型文・石鏡・石斧	市埋文(12)、平成10年確認調査
90	下小野	08-014-0	出水市武本東毛野	扇状地			遺物採集地
91	小野川	08-112-0	出水市武本小野	扇状地	縄文	土器	平成9年度北藩-伊佐分布調査
92	西小野	08-013-0	出水市武本東毛野	扇状地	縄文	土器	平成9年度北藩-伊佐分布調査
93	大穀畑	08-099-0	出水市大野原町大穀畑	台地	古墳、中世	土器・青磁	平成9年度北藩-伊佐分布調査
94	昔木下	08-098-0	出水市大野原町大野原	台地	古墳、古代	土器・土師器	平成9年度北藩-伊佐分布調査
95	丸間	08-096-0	出水市大野原町大野原	台地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北藩-伊佐分布調査
96	西幸田	08-097-0	出水市西出水町敷所	台地	古墳	土器	平成9年度北藩-伊佐分布調査
97	坂所	08-100-0	出水市西出水町敷所	台地	縄文	土器	遺物採集地
98	高見下	08-124-0	出水市早稲町ゴノノ堀内	台地	縄文	土器	平成9年度北藩-伊佐分布調査
99	倉松	08-115-0	出水市早稲町ゴノノ堀北	台地	縄文(前)、奈良、平安、中世、近世	石斧、石鏡、石匙、杭、瓦、瓦角状石器、鉄杖耳飾、骨角器	遺物採集地
100	荏良塚	08-007-0	出水市荏良	台地	縄文、奈良、平安、中世	黒曜石・土師器・陶磁器	昭和48・53・61・63年緊急調査、市埋文(1-3)
101	荏良	08-071-0	出水市荏良	台地	奈良、平安	土師器・須恵器	遺物採集地
102	荏良Ⅱ	08-072-0	出水市荏良	台地	中世(鎌倉)	土師器、青磁	遺物採集地、昭和49年発掘調査
103	荏良Ⅰ	08-044-0	出水市荏良	台地	中世(鎌倉)	土師器、青磁	遺物採集地、昭和49年発掘調査
104	田原	08-116-0	出水市荏良	台地	縄文、古墳	土器、瓦葺、土師器、須恵器	相北藩分布調査
105	下高屋野	47-007-0	高尾野町下高屋野	台地	弥生(後)	弥生土器散布	
106	松ヶ野	47-008-0	高尾野町下高屋野	台地	縄文(晩)、古墳、中世	土器片・青磁(多量)・石鏡	平成7年度分布調査、県埋文(71)
107	出し道	47-009-0	高尾野町摩呂木	台地	縄文、中世	黒曜石製片・土器片・土師器	平成7年度分布調査、県埋文(71)
108	調筋下	47-010-0	高尾野町摩呂木	台地	縄文(早・前)、中世	土器片・土師器	平成7年度分布調査、県埋文(71)
109	八幡ノ野	47-011-0	高尾野町摩呂木	台地	古墳	土器片・須恵器	平成7年度分布調査、県埋文(71)
110	菅原	47-012-0	高尾野町久保・菅引	台地	縄文、古墳	黒曜石製片・土器片(大量)	平成7年度分布調査、県埋文(71)
111	青原	47-013-0	高尾野町菅引	台地	縄文(晩)、古墳	黒曜石製片・土器片	平成7年度分布調査、県埋文(71)
112	中里	47-014-0	高尾野町菅引中里	河原段丘	縄文、弥生、古墳、近世	押型文・三方田式・押型式、陶器	県埋文七埋文(1)、昭和49年発掘調査
113	笠野	47-015-0	高尾野町菅引	台地	縄文、古墳	黒曜石製片・土器片	平成7年度分布調査、県埋文(71)
114	笠野古墳	47-016-0	高尾野町菅引	扇状地	弥生(中)一古墳	地、式部可穂石室古墳群-山ノ口式-須成式、免由式-成川式-長瀬-勾玉-方丁又型小玉	昭和46年4月7日発掘調査(池水東浦氏)、昭和46・47年発掘調査

表4 周辺遺跡地名表4

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
115	藤畑	47-017-0	高尾野町大久保	台地	新石器	土器片	平成7年度分布調査、鳥取文報(7)
116	湯下段	47-037-0	高尾野町大久保	台地	縄文-古墳	青土式・海濱縄文土器・黒川式・打製石斧・石鏡・磨石	平成10年度調査
117	下階道	47-038-0	高尾野町大久保	台地	縄文-平安、近世		平成7・9年度調査
118	野番	47-035-0	高尾野町大久保	河原段丘			遺物散布地
119	橋内	47-033-0	高尾野町大久保	扇状地	縄文(中・後)		鳥取文報(24)、昭和49年度調査
120	橋内下	47-034-0	高尾野町大久保	台地	縄文	遺物散布地	平成7年度分布調査
121	大久保道跡	47-031-0	高尾野町大久保	台地	縄文	土器片	
122	カラシ道	47-002-0	高尾野町大久保 中カラシ道	扇状地	旧石器、縄文	トラップベース・エンドスクレーパー・磨石 文・赤土、石鏡、石斧・土器器	鳥取文報(3)、昭和50年度分布調査
123	道島	47-036-0	高尾野町大久保	台地	縄文	土器片・磨石石片	
124	高尾野城跡	47-028-0	高尾野町下高尾野 3141(小字城内)	山地	中世		
125	鏡引C	47-041-0	高尾野町鏡引	台地	縄文、弥生	土器片	
126	田辺	47-029-0	高尾野町鏡引	台地	縄文、古墳	黒曜石割片・土器片	平成7年度分布調査、鳥取文報(7)
127	鏡引遺跡群B	47-024-0	高尾野町鏡引	台地	縄文、弥生	土器片	
128	東馬場	47-030-0	高尾野町鏡引	台地	縄文、古墳	土器片	平成7年度分布調査、鳥取文報(7)、旧名「鏡引」を併合(平成13年)
129	洞鬼寺跡	47-027-0	高尾野町鏡引 砂浜	丘陵	中世	磨崖仏	『三箇名跡調査』
130	鏡引遺跡群A	47-023-0	高尾野町鏡引・下高尾野	台地	縄文、弥生	土器片	
131	横馬場	47-018-0	高尾野町鏡引・ 廣空木	台地	縄文、弥生	土器片	
132	藤詰	47-019-0	高尾野町廣空木	台地	縄文、弥生	土器片	
133	船道	47-022-0	高尾野町下高尾野 宇原松松	台地	縄文、弥生		
134	新城跡	47-021-0	高尾野町下高尾野 855(小字新城)	河原段丘	中世	土器・礎	平成9年度調査
135	日光寺	47-020-0	高尾野町下高尾野 日光寺	扇状地	縄文、弥生、古墳、中世		鳥取文報(2)、昭和49年度調査
136	本城跡	47-025-0	高尾野町下高尾野 2975(小字本城)	台地	中世	磨崖仏	『三箇名跡調査』
137	川骨	47-004-0	高尾野町江内	台地	縄文、古墳	土器片	平成7年度分布調査、鳥取文報(7)
138	本牟礼城跡	47-005-0	高尾野町江内 165-2(小字尾城)	台地	中世		『出水風土記』、鳥津忠久の記載
139	本牟礼	47-006-0	高尾野町本牟礼	台地	弥生(後)	弥生土器散布、磨石	
140	廣空跡	48-010-0	野田町上名瀬 廣空	台地	古墳-中世	成川式・土器器	平成7年北條・伊佐地区分布調査、鳥取文報(7)
141	中郡	48-001-0	野田町下名中郡	台地	弥生(後)	弥生土器散布	
142	山内寺跡	48-003-0	野田町下名中郡	台地	中世(鎌倉)		継久7年
143	大園	48-011-0	野田町上名大園	台地	中世	土器器	平成7年北條・伊佐地区分布調査、鳥取文報(7)
144	大原	48-012-0	野田町上名大園 大原	台地	縄文、中世	縄文土器・土器器・青土	平成7年北條・伊佐地区分布調査、鳥取文報(7)
145	砥心寺跡	48-002-0	野田町上名八幡	台地	中世(鎌倉)建立		『出水風土記』
146	下名瀬跡群	48-015-0	野田町下名瀬	低地	縄文-中世	押型文・石鏡・土器器	旧名「平城」
147	野田島	48-009-0	野田町野田島	台地	縄文-中世	土器、磨石、土器器、須恵器他	
148	藤	48-013-0	野田町上名上名瀬	台地	古墳-中世	成川式・土器器、磨石	平成7年北條・伊佐地区分布調査、鳥取文報(7)
149	本牟礼城跡群B	48-008-0	野田町上名本牟礼	丘陵	中世	土器	
150	上名瀬跡群	48-016-0	野田町上名瀬	台地	中世	土器器	
151	亀井城跡	48-004-0	野田町上名本城	丘陵	保元平治期		
152	新城跡	48-005-0	野田町上名宇原	丘陵	中世	瓦葺・土器・磨石	

### 第三章 発掘調査の概要

#### 第1節 発掘調査の方法

平成4年12月に実施した分布調査で、昭和48年に緊急発掘された沖田岩戸遺跡の隣接地ということと地形の類似性から、第7図で囲まれた一帯が縄文文化財包蔵地の可能性がある範囲としてくられた。小字名が異なるため、北側から榎木田遺跡、見人來遺跡、大坪遺跡としてある。この小字名は昭和40年代に耕地整理されたのに合わせて改変されたものであり、大半年間の小字名とは異なっている。

平成10年に実施された確認調査では、第1章第3節で前述した内容でトレンチを設定した。グリッドは10m四方を単位とし、北側から1、2、3……、西側からA、B、C……とした。表土を機械で剥ぎ、それ以上は手掘りの調査を行った。遺物の実測は平板で取り上げ、グリッド名と取り上げ番号を遺物に記してある。レベルについては台帳に記してあるが、基準としていた杭の標高を本調査時に測り直したところ、誤差を生じていることが判明した。確認調査では縄文時代晩期と古代の遺物が出土すると考えられる範囲を明らかにし、工事部分と重なる第8図に図示した範囲を本調査の対象とした。

平成11・12年度の本調査では、発掘範囲が広大な面積に及ぶことから、グリッドを20m四方に変更して調査を行った。グリッドの基準点は確認調査時の点を踏襲し、市道六月田朝熊線の北側路側帯に新幹線本線のセンターと交わる点を起点とした。この点と市道神田2号線上の新幹線本線センターが交わる点を直線で結んだ線を基準点として、グリッドを設定した。南北方向を算用数字で、東西方向をアルファベットの英文字で呼ぶこととした。南北方向は起点から南側へ1、2、3……区とし、北側へは01、02、03区とした。東西方向へは起点を境に西側をD区とし、東側へそれぞれC、B、A区とした。遺跡名としてはそれぞれ異なるのであるが、グリッドの呼び方は統一してある。したがって北側から03～01区が榎木田遺跡、1～7区が見人來遺跡、8～39区が大坪遺跡の範囲となる。グリッド設定は埋文サポートが行い、同時に公共車庫を設定した。

発掘調査は20mごとのグリッド境を30cm幅づつ合計60cm幅のセクションベルトとして残し、表土をバックホーで掘削しながらクローラーで覆った。遺物の有無を確認しながら、セクションベルト沿いに手箕が入る幅で先行トレンチを設定した。これは、土層の観察を先に行うためと排水用を兼ねるためである。土層の写真が逆光にならないように、各グリッドの北側と西側を先行トレンチとして掘り下げた。先行トレンチは、遺物が出てこなくなるまで掘り下げた後、各層の境にラインを入れ、写真撮影した後、20分の1で土

層断面を実測した。したがって、十層断面を実測した場所は各グリッド境より30cm内側となる。南九州の火山灰が多様に堆積した台地部分とは異なり、沖積地での層の把握は苦渋し、ラインを入れる際は感覚的な部分も多々あり、台地上の層位ほど厳密でないことをお断りしておきたい。各十層断面図はスペースの関係で縮小しすぎて見にくいものの、各グリッドに合わせて提示してある。

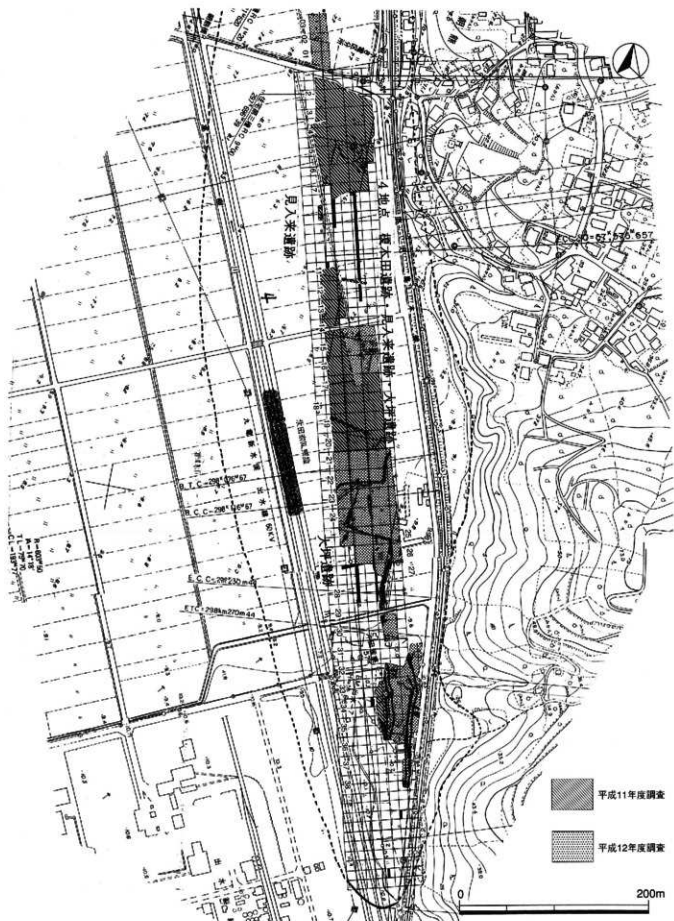
表土下及び各層の上面で精査し、遺構を検出した場合は遺構の調査を優先して行った。それぞれの遺構に合わせて必要なセクションベルトを残しながら掘り下げ、写真撮影後10分の1で実測し、トータルステーションへの取り込みを行った。場合によってはトータルステーションのみでの実測もある。遺構番号はそれぞれの遺跡で発見された順に通し番号を付し、頭に略号をつけてある。発掘現場での遺構番号は検出された時点でつけてあるので、最初に認識した遺構名と完掘して明らかになった遺構名が異なるものもある。また、通し番号であるために同類の遺構数を把握しにくいので、本報告書では遺構名の再整理を行い併記することにした。現場での遺構名と本報告書での遺構番号は表5～表9の通りである。発掘現場での口誌・図面等は変更していないので、使用の際は本表を参照していただきたい。

包含層の掘り下げは、手鉞やネジ鎌あるいは竹ベラ等を用いて全体的に水平になるように行った。本遺跡のような粘上質の土壌を掘り下げる場合、適度な湿度を保つために、前日に水をまいてシートをかぶせておく方法が有効であった。また、竹製の道具が意外にも偉力を発揮した。出土した遺物は動かさずに現位置に置き、土器の小破片についてはグリッド及び各層位ごとに一括して取り上げた。特徴的な遺物については各遺跡ごとに通し番号を付して、50分の1の縮尺で平板実測した。取り上げた点数は、確認調査612点、榎木田遺跡248点、見人來遺跡1,751点、大坪遺跡17,095点である。なお、当初50分の1の平板実測図にはⅢ層上面での10cmごとのコンターを入れていったが、ほとんど削平された面であることと高低差が小さいことから途中で断念した。

手掘りによる掘り下げは遺物が出なくなるところまで行い、その後10mピッチで幅2mのトレンチを設定し下層の確認をして各グリッドの調査を終了した。さらに、これに加え途中からは重機による最終確認を実施したところ、埋設土器を検出できた例もあり、その後はすべて行った。なお、平成11年度末に行ったC-17区の調査は重機による最終確認まで実施する余裕がなく、下層ごとB-17区に盛り上げ、年度が変わってからは遺物のみ拾い出した。その中には下層もいくつか含まれており、深く反省する次第である。



第7図 確認調査の範囲



第8図 年度ごとの調査範囲

表5 遺構一覧表(押印番号順) 1

本報告書での遺構名	遺跡名	発掘調査時の遺構名	区	層	時代	略称	文章ページ	押印番号	写真図版番号
埋設土器	1	大坪 S.J 124B-15	Ⅲ	縄文	埋設 1	125	103	25	
埋設土器	2	大坪 S.J 119B-15	Ⅲ	縄文	埋設 2	125	103	25	
埋設土器	3	大坪 S.J 79B-14	Ⅲ	縄文	埋設 3	126	104	25,26	
埋設土器	4	大坪 S.J 38C-15	Ⅲ	縄文	埋設 4	126	105	26	
埋設土器	5	大坪 S.J 115C-16	Ⅲ	縄文	埋設 5	126	106	26,27	
埋設土器	6	大坪 S.J 3B-17	Ⅲ	縄文	埋設 6	127	106	27	
埋設土器	7	大坪 S.J 63C-17	Ⅲ	縄文	埋設 7	127	107	27	
埋設土器	8	大坪 S.J 6B-17	Ⅲ	縄文	埋設 8	128	108	27	
埋設土器	9	大坪 S.J 80B-14	Ⅲ	縄文	埋設 9	128	108	6,28	
埋設土器	10	大坪 S.J 39C-16	Ⅲ	縄文	埋設 10	129	109	28	
埋設土器	11	大坪 S.J 40C-16	Ⅲ	縄文	埋設 11	129	110	29	
埋設土器	12	大坪 S.J 4B-17	Ⅲ	縄文	埋設 12	129	110	29	
埋設土器	13	大坪 S.J 5B-17	Ⅲ	縄文	埋設 13	130	111	29	
埋設土器	14	大坪 S.J 31C-16	Ⅲ	縄文	埋設 14	130	111	30	
埋設土器	15	大坪 S.J 12C-16	Ⅲ	縄文	埋設 15	130	112	30	
埋設土器	16	大坪 S.J 9B-18	Ⅲ	縄文	埋設 16	131	112	30	
埋設土器	17	大坪 S.J 3B-16	Ⅲ	縄文	埋設 17	131	113	30	
埋設土器	18	大坪 S.J 7B-17	Ⅲ	縄文	埋設 18	133	113	31	
埋設土器	19	大坪 S.J 78B-17	Ⅲ	縄文	埋設 19	133	114	31	
埋設土器	20	大坪 S.J 41C-22	Ⅲ	縄文	埋設 20	133	115	31	
埋設土器	21	大坪 S.J 130B-21	Ⅲ	縄文	埋設 21	133	115	31	
埋設土器	22	大坪 S.J 30B-18	Ⅲ	縄文	埋設 22	133	116	32	
埋設土器	23	大坪 S.J 49C-22	Ⅲ	縄文	埋設 23	133	116	32	
埋設土器	24	大坪 S.J 42D-23	Ⅲ	縄文	埋設 24	133	116	32	
埋設土器	25	大坪 S.J 50C-22	Ⅲ	縄文	埋設 25	133	116	32	
埋設土器	26	大坪 S.J 10C-20	Ⅲ	縄文	埋設 26	134	116	32	
埋設土器	27	大坪 S.J 175B-25	Ⅲ	縄文	埋設 27	134	117	32,33	
埋設土器	28	大坪 S.J 46D-21	Ⅲ	縄文	埋設 28	135	117	33	
埋設土器	29	見入来 S.J 5B-4	Ⅲ	縄文	埋設 29	135	118	33	
埋設土器	30	見入来 S.J 84D-2-3	Ⅲ	縄文	埋設 30	137	118	34	
埋設土器	31	大坪 S.J 131B-21	Ⅲ	縄文	埋設 31	138	119	34	
埋設土器	32	大坪 S.J 11D-20	Ⅲ	縄文晩期	埋設 32	140	119	35	
埋設土器	33	大坪 S.J 47C-20	Ⅲ	縄文晩期	埋設 33	140	120	35	
埋設土器	34	大坪 S.J 51C-22	Ⅲ	縄文晩期	埋設 34	140	120	36	
埋設土器	35	大坪 S.J 128B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 35	140	121	36	
埋設土器	36	大坪 S.J 128B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 36	140	121	36	
埋設土器	37	大坪 S.J 125B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 37	140	121	36	
灰層土器	1	大坪 S.J 46C-20	Ⅲ	縄文晩期	灰層 1	144	120	35	
灰層土器	2	大坪 S.J 129B-21	Ⅲ	縄文晩期	灰層 2	144	121	36	
土坑	1	大坪 SK 71C-23	Ⅳ	縄文晩期	土坑 1	146	122	7	
土坑	2	大坪 SK 118B-14	Ⅲ	縄文	土坑 2	147	122	7	
土坑	3	大坪 SK 169B-23	Ⅲ	縄文	土坑 3	147	123	7	
土坑	4	見入来 SK 1C-2	Ⅲ	縄文晩期	土坑 4	147	123	6	
土坑	5	大坪 SK 138B-21	Ⅲ	縄文	土坑 5	147	123	6	
大塚岡地		大坪 SK 60C-D-24	Ⅲ	縄文	大塚岡地	149	69	7	
凹地		大坪 SF 193A-35	Ⅲ	縄文	凹地	149	124		
不明遺構	1	大坪 SF 67C-23	Ⅲ	縄文	不明 1	149	125	6	
不明遺構	2	大坪 SF 117B-15	Ⅲ	縄文	不明 2	149	126	6	
燻土	1	大坪 SF 37C-17	Ⅲ	縄文	燻土 1	152	127		
燻土	2	大坪 SF 173B-24	Ⅲ	縄文	燻土 2	152	128		
燻土	3	大坪 SF 127B-21	Ⅲ	縄文	燻土 3	152	128		
燻土	4	大坪 SF 120B-15	Ⅲ	縄文	燻土 4	152	128		
燻土	5	見入来 SF 4B-4	Ⅲ	縄文	燻土 5	152	128		
石濠①	1	見入来 SS 2C-2	Ⅲ	縄文	石濠①	153	129	6	
石濠②	2	見入来 SS 3C-3	Ⅲ	縄文	石濠②	153	50	6	
ピット	1	大坪 SX 28D-15	Ⅲ	縄文	ピット 1	153	129	20	
ピット	2	大坪 SP 121B-15	Ⅲ	縄文	ピット 2	153	129	20	
竪穴住居		大坪 SH 29C-15	Ⅱa	古代	竪穴住居	362	305,306	8	
焼成土坑	1	大坪 SFK 87C-15	Ⅱb	古代	焼成土坑 1	363	307	10	
焼成土坑	2	大坪 SFK 133B-23	Ⅲ	奈良~平安	焼成土坑 2	363	308	11	
焼成土坑	3	大坪 SK 46D-24	Ⅲ	古代	焼成土坑 3	364	309	9	
不明遺構	4	大坪 SX 76C-15	Ⅱb	古代	不明 4	364	309,310	11	
不明遺構	5	大坪 SX 81B-14	Ⅱb	古代	不明 5	364	311		
不明遺構	6	大坪 SX 85B-16	Ⅱb	古代	不明 6	364	311		
土坑	7	大坪 SK 84B-16	Ⅱb	古代	土坑 7	367	312		
土坑	8	大坪 SK 83B-16	Ⅱb	古代	土坑 8	368	312		
土坑	9	大坪 SK 134B-23	Ⅲ	奈良~平安	土坑 9	368	313	20	
土坑	10	大坪 SK 135B-23	Ⅲ	奈良~平安	土坑 10	370	313		
土坑	11	大坪 SK 76B-15	Ⅱb	古代	土坑 11	370	314		
土坑	12	大坪 SK 113B-15	Ⅱb	古代	土坑 12	371	315		
土坑	13	大坪 SK 112B-15	Ⅱb	古代	土坑 13	371	315		
土坑	14	大坪 SK 111B-15	Ⅱb	古代	土坑 14	371	315		
土坑	15	大坪 SK 110B-15	Ⅱb	古代	土坑 15	371	315		
土坑	16	大坪 SK 106B-15	Ⅱb	古代	土坑 16	371	316		
土坑	17	大坪 SK 105B-15	Ⅱb	古代	土坑 17	371	316		
土坑	18	大坪 SK 104B-15	Ⅱb	古代	土坑 18	371	317,318		
土坑	19	大坪 SK 77B-15	Ⅱb	古代	土坑 19	371	317		
土坑	20	大坪 SK 102B-15	Ⅱb	古代	土坑 20	371	317		

表6 遺構一覧表(押印番号順) 2

本報告書での遺構名	遺跡名	発掘調査中の名称	区	層	時代	略称	文章ページ	押印番号	写真版取番号
土坑	21	大坪 SK	100B-15	Ⅱb	古代	土坑 21	371	317	
土坑	22	大坪 SK	99B-15	Ⅱb	古代	土坑 22	371	317	
土坑	23	大坪 SK	98B-15	Ⅱb	古代	土坑 23	373	317	
土坑	24	大坪 SK	103B-15	Ⅱb	古代	土坑 24	373	318,319	
土坑	25	大坪 SK	97B-15	Ⅱb	古代	土坑 25	378	319	
土坑	26	大坪 SK	96B-16	Ⅱb	古代	土坑 26	378	320	
土坑	27	大坪 SK	87B-16	Ⅱb	古代	土坑 27	378	320	
土坑	28	大坪 SK	92B-16	Ⅱb	古代	土坑 28	378	320	
土坑	29	大坪 SK	93B-16	Ⅱb	古代	土坑 29	378	320	
土坑	30	大坪 SK	90B-16	Ⅱb	古代	土坑 30	378	320	
土坑	31	大坪 SK	89B-16	Ⅱb	古代	土坑 31	378	320	
土坑	32	大坪 SK	114C-15,16	Ⅱb	古代	土坑 32	378	321	
土坑	33	大坪 SK	88B-16	Ⅱb	古代	土坑 33	378	54	
ピット	3	大坪 SP	86B-16	Ⅱb	古代	ピット 3	368	312	
ピット	4	大坪 SP	116B-15	Ⅱb	古代	ピット 4		13,51	
ピット	5	大坪 SP	123B-15	Ⅲ	奈良~平安	ピット 5	373	316	
ピット	6	大坪 SP	122B-15	Ⅲ	奈良~平安	ピット 6	373	316	
ピット	7	大坪 SP	95B-16	Ⅱb	古代	ピット 7	378	320	
ピット	8	大坪 SP	94B-16	Ⅱb	古代	ピット 8	378	320	
ピット	9	大坪 SP	91B-16	Ⅱb	古代	ピット 9	378	320	
ピット	10	大坪 SP	109B-15	Ⅱb	古代	ピット 10	378	321	
ピット	11	大坪 SP	108B-15	Ⅱb	古代	ピット 11	378	321	
ピット	12	大坪 SP	107B-15	Ⅱb	古代	ピット 12	378	321	
焼土	6	大坪 SF	19B-15	Ⅱ	古代	焼土 6	378	322	
焼土	7	大坪 SF	18B-15	Ⅱ	古代	焼土 7	378	322	
焼土	8	大坪 SF	171A-25	Ⅲ	平安?	焼土 8	378	322	
焼土	9	大坪 SF	170A-25	Ⅲ	平安?	焼土 9	378	322	
焼土	10	大坪 SF	66C-24	Ⅱb	古代	焼土 10	378	322	
溝状遺構	1	大坪 SD	43A-21~D-22	Ⅱ	中世	溝 1	383	328	11,12
溝状遺構	2	見入来 SD	81B-6-C-5	Ⅱ	古代~中世?	溝 2	386	327	
溝状遺構	3	見入来 SD	6B-4	Ⅲ	古代~中世?	溝 3	386	328	50
溝状遺構	4	大坪 SD	70C-22	Ⅱb	溝 4	386	328		
土坑	34	榎木田 SK	4D-03	Ⅱ	古代	土坑 34	380	323	
土坑	35	榎木田 SP	7D-03	Ⅱ	古代	土坑 35	380	323	
土坑	36	榎木田 SK	8D-03	Ⅱ	古代	土坑 36	380	323	
土坑	37	榎木田 SK	5D-03	Ⅱ	古代	土坑 37	380	323	
土坑	38	榎木田 SK	6D-03	Ⅱ	古代	土坑 38	380	323	
土坑	39	榎木田 SK	16D-03	Ⅱ	古代	土坑 39	380	324	
土坑	40	榎木田 SK	17D-03	Ⅱ	古代	土坑 40	380	324	
土坑	41	榎木田 SK	18C-03	Ⅱ	古代	土坑 41	380	324	
土坑	42	榎木田 SK	15C-03	Ⅱ	古代	土坑 42	383	324	
土坑	43	榎木田 SK	9D-03	Ⅱ	古代	土坑 43	383	324	
土坑	44	榎木田 SK	19D-03	Ⅱ	古代	土坑 44	383	324	
土坑	45	榎木田 SK	3D-03	Ⅱ	古代	土坑 45	383	324	
土坑	46	榎木田 SK	2D-03	Ⅱ	古代	土坑 46	383	324	
土坑	47	榎木田 SK	10D-03	Ⅱ	古代	土坑 47	383	324	12
土坑	48	榎木田 SK	11D-03	Ⅱ	古代	土坑 48	383	324	
土坑	49	榎木田 SK	12D-03	Ⅱ	古代	土坑 49	383	324	
土坑	50	榎木田 SK	20D-02	Ⅱ	古代	土坑 50	383	325	
土坑	51	榎木田 SK	22D-01	Ⅱ	古代	土坑 51	383	325	
土坑	52	榎木田 SK	1C-01	Ⅱ	古代	土坑 52	383	325	
土坑	53	榎木田 SK	26D-02	Ⅱ	古代	土坑 53	383	20	
土坑	54	榎木田 SK	24D-02	Ⅱ	古代	土坑 54	383	20	
土坑	55	榎木田 SK	25D-02	Ⅱ	古代	土坑 55	383	20	
土坑	56	榎木田 SK	23D-02	Ⅱ	古代	土坑 56	383	20	12
ピット	13	榎木田 SK	13C-02	Ⅱ	古代	ピット 13	383	20	
ピット	14	榎木田 SK	14D-02	Ⅱ	古代	ピット 14	383	20	
ピット	15	榎木田 SP	21D-02	Ⅱ	古代	ピット 15	383	325	
焼土	11	榎木田 SF	27D-02	Ⅱ	古代	焼土 11	383	325	
竪立柱礎物跡	1	大坪 SB	166A-33	Ⅱ	中世	竪立 1	387	329	19
竪立柱礎物跡	2	大坪 SB	187B-34	Ⅱ	中世?	竪立 2	387	330	19
竪立柱礎物跡	3	大坪 SB	137B-26	Ⅱb	平安~鎌倉	竪立 3	388	331	19
竪立柱礎物跡	4	大坪 SB	190B-36	Ⅱ	中世?	竪立 4	389	332	53
竪立柱礎物跡	5	大坪 SB	199B-32	Ⅱ	中世?	竪立 5	391	333	19
竪立柱礎物跡	6	大坪 SB	189A-B-35	Ⅱ	中世?	竪立 6	391	334	19
竪立柱礎物跡	7	大坪 SB	188B-35	Ⅱ	中世?	竪立 7	393	335	19
竪立柱礎物跡	8	大坪 SB	198B-32	Ⅱ	中世?	竪立 8	393	336	19
竪立柱礎物跡	9	大坪 SB	200B-32	Ⅱ	中世?	竪立 9	393	336	19
土坑	57	大坪 SK	34D-13	Ⅱ	古代~中世	土坑 57	396	338	
土坑	58	大坪 SK	35D-13	Ⅱ	古代~中世	土坑 58	396	338	
土坑	59	大坪 SK	36D-13	Ⅱ	古代~中世	土坑 59	398	338	
土坑	60	大坪 SK	37D-13	Ⅱ	古代~中世	土坑 60	398	338	
土坑	61	大坪 SK	148A-33	Ⅱ	平安~鎌倉	土坑 61	398	339	18
土坑	62	大坪 SK	151B-30	Ⅱ	平安~鎌倉	土坑 62	399	339	18
土坑	63	大坪 SK	139B-33	Ⅱ	平安~鎌倉?	土坑 63	399	340	
土坑	64	大坪 SK	140B-33	Ⅱ	平安~鎌倉?	土坑 64	399	340	
土坑	65	大坪 SK	167A-33	Ⅱ	中世	土坑 65	399	340	
土坑	66	大坪 SK	152B-30	Ⅱ	平安~鎌倉	土坑 66	401	340	
土坑	67	大坪 SK	147A-33	Ⅱ	平安~鎌倉	土坑 67	401	340	
土坑	68	大坪 SK	155A-34	Ⅱ	平安~鎌倉	土坑 68	401	341	



表7 遺構一覧表(挿図番号順) 3

本報告書での遺構名	遺跡名	長辺(北東)の距離	区	層	時代	略称	文章ページ	挿図番号	写真版番号
土坑	69	大坪	SK 154 A-34	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 69	401	341	
土坑	70	大坪	SK 153 A-34	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 70	401	341	
土坑	71	大坪	SK 192 B-34	Ⅲ	中世?	土坑 71	401	341	
土坑	72	大坪	SK 183 B-35	Ⅱ	中世?	土坑 72	402	342	
土坑	73	大坪	SK 184 B-35	Ⅱ	中世?	土坑 73	402	342	
土坑	74	大坪	SK 185 B-35	Ⅱ	中世?	土坑 74	402	342	
土坑	75	大坪	SK 186 B-35	Ⅲ	中世?	土坑 75	402	342	
焼土	12	大坪	SF 58 D-25	?	古代～中世?	焼土 12	402	343	
焼土	13	大坪	SF 174 B-24	Ⅲ	古代～中世	焼土 13	402	343	
焼土	14	大坪	SF 74 B-25	Ⅱb	古代～中世	焼土 14	402	83	
焼土	15	大坪	SF 73 B-26	Ⅱb	古代～中世	焼土 15	403	343	
焼土	16	大坪	SF 172 B-24	Ⅲ	平安?	焼土 16	403	343	
焼土	17	大坪	SF 204 A-31	Ⅲ	中世?	焼土 17	403	344	
焼土	18	大坪	SF 184 B-35	Ⅲ	中世?	焼土 18	404	344	
不明遺構	6	大坪	SK 89 C-22	Ⅱb	中世	不明 6	404	345	
不明遺構	7	大坪	SX 149 B-33	Ⅱ	平安～鎌倉	不明 7	405	346	
不明遺構	8	大坪	SX 150 B-33	Ⅱ	平安～鎌倉	不明 8	405	346	
溝状遺構	5	大坪	SD 132 B-22	Ⅲ	奈良～平安	溝 5	407	73,362	12
溝状遺構	6	大坪	SD 68 C-23	Ⅲ	平安～中世?	溝 6	407	347	
溝状遺構	7	大坪	SD 136 B-23	Ⅱb	平安～?	溝 7	407	347	
溝状遺構	8	大坪	SD 65 B-24	Ⅲ	平安～?	溝 8	407	348	
溝状遺構	9	大坪	SD 62 B-25	Ⅲ	古代～中世?	溝 9	408	348	
溝状遺構	10	大坪	SD 61 C-26	Ⅲ	古代～中世?	溝 10	408	348	
溝状遺構	11	大坪	SD 22 B-33～36	Ⅱa?	中世後半	溝 11	408	349	18,53
溝状遺構	12	大坪	SD 23 B-35-36	Ⅱa,Ⅱ	中世	溝 12	408	350	16
溝状遺構	13	大坪	SD 181 B-34	Ⅱb	中世?	溝 13	408	361	19
溝状遺構	14	大坪	SD 11 B-11	Ⅲ	古代～中世	溝 14	413	351	52
溝状遺構	15	大坪	SD 64 B-25	Ⅲ	古代～中世	溝 15	413	352	
溝状遺構	16	大坪	SD 63 B-25-27	Ⅱb	古代～中世	溝 16	413	352	
溝状遺構	17	大坪	SD 55 D-24-B-29	Ⅲ	中世?	溝 17	413	353	
溝状遺構	18	大坪	SD 53 D-24	Ⅲ	古代～中世?	溝 18	414	78	52
溝状遺構	19	大坪	SD 56 D-24	Ⅲ	中世?	溝 19	414	78	
溝状遺構	20	大坪	SD 52 D-24	Ⅲ	古代～中世	溝 20	414	354	52
溝状遺構	21	大坪	SD 57 D-24-C-23	Ⅲ	中世?	溝 21	416	75	18
溝状遺構	22	大坪	SD 146 A-33～38	Ⅲ	平安～鎌倉	溝 22	416	355	17,18
溝状遺構	23	大坪	SD 168 A-36-37	Ⅲ	中世	溝 23	416	357	18
溝状遺構	24	大坪	SD 145 A-33～37	Ⅲ	平安～鎌倉	溝 24	416	355	
溝状遺構	25	大坪	SD 203 A-32	Ⅲ	中世?	溝 25	418	356	
溝状遺構	26	大坪	SD 202 A-31-32	Ⅲ	中世?	溝 26	418	356	18
溝状遺構	27	大坪	SD 205 A-31-32	Ⅲ	中世?	溝 27	418	356	18
溝状遺構	28	大坪	SD 201 A-31-32	Ⅲ	中世?	溝 28	418	356	18
溝状遺構	29	大坪	SD 143 A-33-34	Ⅲ	平安～鎌倉	溝 29	418	357	
溝状遺構	30	大坪	SD 144 A-33	Ⅲ	平安～鎌倉	溝 30	418	357	
溝状遺構	31	大坪	SD 142 A-33	Ⅲ	平安～鎌倉	溝 31	418	357	
溝状遺構	32	大坪	SD 24 C-35	Ⅱa,Ⅲ	中世	溝 32	418	357	18
溝状遺構	33	大坪	SD 141 A-33	Ⅲ	平安～鎌倉	溝 33	418	358	17
溝状遺構	34	大坪	SD 180 A-26	Ⅲ	中世	溝 34	418	84	
波板状凹凸面	1	大坪	SR 26 C-D-17	Ⅲ	中世?	波板 1	418	359	17,51
波板状凹凸面	2	大坪	SR 25 B-34	Ⅱa	中世	波板 2	421	360	16
波板状凹凸面	3	大坪	SR 182 B-34	Ⅱb	中世?	波板 3	423	361	19
波板状凹凸面	4	大坪	SR 72 B-26～29	Ⅱb	古代～中世	波板 4	423	362	1,14,19
波板状凹凸面	5	大坪	SR 176 A-26	Ⅲ	中世～近世	波板 5	424	363	
波板状凹凸面	6	大坪	SR 191 B-26	Ⅲ	中世～近世	波板 6	424	363	
波板状凹凸面	7	大坪	SR 27 B-26	Ⅲ	中世?	波板 7	424	363	17,52
波板状凹凸面	8	大坪	SR 54 B-26	Ⅲ	中世?	波板 8	427	364	16
波板状凹凸面	9	大坪	SR 197 B-38	Ⅲ	中世?	波板 9	427	364	17
波板状凹凸面	10	大坪	SR 196 B-38	Ⅲ	中世?	波板 10	427	364	
波板状凹凸面	11	大坪	SR 195 A-38	Ⅲ	中世?	波板 11	427	364	
ピット	16	大坪	SP 59 D-25	?	?	ピット 16	405	346	20
土坑	76	見入来	SK 9 B-3	Ⅱ①	中世?	土坑 76	472	402	
土坑	77	見入来	SK 10 B-3	Ⅱ①	中世?	土坑 77	472	402	
土坑	78	見入来	SK 11 B-3	Ⅱ①	中世?	土坑 78	472	402	
土坑	79	見入来	SK 16 B-4	Ⅱ①	中世?	土坑 79	472	402	
土坑	80	見入来	SK 82 B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 80	472	403	
土坑	81	見入来	SK 50 B-5	Ⅱ③	中世?	土坑 81	472	403	
土坑	82	見入来	SK 57 B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 82	472	404	20
土坑	83	見入来	SK 63 B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 83	472	404	
土坑	84	見入来	SK 84 B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 84	472	404	
土坑	85	見入来	SK 86 B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 85	472	404	
土坑	86	見入来	SK 65 B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 86	472	404	
土坑	87	見入来	SK 67 B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 87	472	404	
土坑	88	見入来	SK 83 D-2	Ⅱ②	中世?	土坑 88	476	405	
土坑	89	見入来	SK 12 B-3	Ⅱ①	中世?	土坑 89	476	405	
土坑	90	見入来	SK 14 B-3	Ⅱ①	中世?	土坑 90	476	406	
土坑	91	見入来	SK 13 B-3	Ⅱ①	中世?	土坑 91	476	406	
土坑	92	見入来	SK 15 B-4	Ⅱ①	中世?	土坑 92	476	407	
土坑	93	見入来	SK 17 B-4	Ⅱ①	中世?	土坑 93	476	407	
土坑	94	見入来	SK 18 B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 94	476	407	
土坑	95	見入来	SK 19 B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 95	476	407	
土坑	96	見入来	SK 20 B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 96	476	407	

表8 遺構一覧表(押印番号順) 4

本報告書での遺構名	遺跡名	発掘調査時の遺構名	区	層	時代	略称	文庫ページ	押印番号	写真図版番号	
土坑	97	見入来	SK	21	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 97	478	408
土坑	98	見入来	SK	22	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 98	476	408
土坑	99	見入来	SK	23	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 99	477	408
土坑	100	見入来	SK	24	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 100	477	408
土坑	101	見入来	SK	25	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 101	477	408
土坑	102	見入来	SK	26	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 102	477	408
土坑	103	見入来	SK	28	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 103	477	409
土坑	104	見入来	SK	27	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 104	477	409
土坑	106	見入来	SK	29	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 106	481	409
土坑	107	見入来	SK	30	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 107	481	409
土坑	108	見入来	SK	31	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 108	481	409
土坑	108	見入来	SK	32	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 108	481	409
土坑	109	見入来	SK	33	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 109	481	410
土坑	110	見入来	SK	34	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 110	481	410
土坑	111	見入来	SK	35	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 111	481	410
土坑	112	見入来	SK	36	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 112	481	410
土坑	113	見入来	SK	37	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 113	481	410
土坑	114	見入来	SK	40	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 114	481	411
土坑	115	見入来	SK	41	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 115	485	411
土坑	116	見入来	SK	42	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 116	485	411
土坑	117	見入来	SK	38	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 117	485	411
土坑	118	見入来	SK	39	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 118	485	411
土坑	119	見入来	SK	51	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 119	485	412
土坑	120	見入来	SK	52	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 120	485	412
土坑	121	見入来	SK	53	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 121	485	412
土坑	122	見入来	SK	48	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 122	485	412
土坑	123	見入来	SK	49	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 123	488	412
土坑	124	見入来	SK	48	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 124	488	412
土坑	125	見入来	SK	47	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 125	488	412
土坑	126	見入来	SK	54	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 126	488	413
土坑	127	見入来	SK	55	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 127	486	413
土坑	128	見入来	SK	56	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 128	486	413
土坑	129	見入来	SK	43	B-5	Ⅱ②	中世?	土坑 129	486	414
土坑	130	見入来	SK	44	B-5	Ⅱ②	中世?	土坑 130	486	414
土坑	131	見入来	SK	45	B-5	Ⅱ②	中世?	土坑 131	487	414
土坑	132	見入来	SK	59	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 132	487	415
土坑	133	見入来	SK	60	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 133	487	415
土坑	134	見入来	SK	81	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 134	487	415
土坑	135	見入来	SK	62	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 135	488	415
土坑	136	見入来	SK	58	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 136	488	415
土坑	137	見入来	SK	68	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 137	488	415
土坑	138	見入来	SK	69	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 138	488	416
土坑	139	見入来	SK	70	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 139	488	416
土坑	140	見入来	SK	71	B-6	Ⅱ③	中世?	土坑 140	488	418
土坑	141	見入来	SK	72	B-6	Ⅱ③	中世?	土坑 141	488	418
土坑	142	見入来	SK	73	B-6	Ⅱ③	中世?	土坑 142	488	418
土坑	143	見入来	SK	74	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 143	488	417
土坑	144	見入来	SK	75	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 144	488	417
土坑	145	見入来	SK	76	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 145	488	417
土坑	146	見入来	SK	77	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 146	488	417
土坑	147	見入来	SK	78	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 147	488	419
土坑	148	見入来	SK	80	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 148	488	419
土坑	149	見入来	SK	78	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 149	488	419
土坑	150	大坪	SK	21	B-35	Ⅱ上	中世後半	土坑 150	488	419
波板状凹凸面	12	大坪	SR	177	A-25	Ⅱ	中世~近世	波板 12	492	420
波板状凹凸面	13	大坪	SR	156	A-34	Ⅱ	中世~近世	波板 13	493	421
波板状凹凸面	14	大坪	SR	157	A-34	Ⅱ	中世~近世	波板 14	493	421
波板状凹凸面	15	大坪	SR	158	A-34	Ⅱ	中世~近世	波板 15	493	421
波板状凹凸面	16	大坪	SR	159	A-34	Ⅱ	中世~近世	波板 16	493	421
波板状凹凸面	17	大坪	SR	160	A-34	Ⅱ	中世~近世	波板 17	493	422
波板状凹凸面	18	大坪	SR	165	A-34	Ⅱ	中世~近世	波板 18	493	422
波板状凹凸面	19	大坪	SR	161	A-34	Ⅱ	中世~近世	波板 19	493	422
波板状凹凸面	20	大坪	SR	162	A-35	Ⅱ	中世~近世	波板 20	493	422
波板状凹凸面	21	大坪	SR	163	A-35	Ⅱ	中世~近世	波板 21	493	422
波板状凹凸面	22	大坪	SR	164	A-35	Ⅱ	中世~近世	波板 22	493	422
溝状遺構	35	大坪	SD	178	A-28	Ⅱ	中世~近世	溝 35	492	420
溝状遺構	36	大坪	SD	179	A-26	Ⅱ	中世~近世	溝 36	492	420
溝状遺構	37	大坪	SD	16	B-19	Ⅱ	~近代	溝 37	85	63
溝状遺構	38	大坪	SD	17	B-16	Ⅱ	~近代	溝 38	76	54
溝状遺構	39	大坪	SD	44	D-23B-20	1a	近代以降	溝 39	494	423
溝状遺構	40	大坪	SD	13	B-20	Ⅱ	近世?	溝 40	494	423
溝状遺構	41	見入来	SX	8	B-2-D-6	1-F	中世~江戸	溝 41	495	10,11
溝状遺構	42	大坪	SR	2	D-8	Ⅱ	近代	溝 42	84	42
溝状遺構	43	大坪	SD	14	C-19-B-20	Ⅱ	近代以降	溝 43	497	424
溝状遺構	44	大坪	SD	15	C-19	Ⅱ	近代以降	溝 44	497	424
石列		見入来	SX	7	C-4-D-6	1	江戸~明治	石列	53	11

表9 遺構一覧表（発掘調査時の遺構名順）

遺構名	発掘調査時の遺構名	本館口前の遺構名	遺構名	発掘調査時の遺構名	本館口前の遺構名	遺構名	発掘調査時の遺構名	本館口前の遺構名
遺構1	SK 1	土坑 4	遺構1	SK 70	土坑 141	遺構1	SK 100	土坑 21
遺構2	SK 2	土坑 60	遺構2	SK 80	土坑 143	遺構2	SK 101	土坑 20
遺構3	SK 3	土坑 65	遺構3	SK 81	溝状遺構 2	遺構3	SK 102	土坑 19
遺構4	SK 4	土坑 69	遺構4	SK 82	土坑 145	遺構4	SK 103	土坑 18
遺構5	SK 5	土坑 77	遺構5	SK 83	土坑 146	遺構5	SK 104	土坑 17
遺構6	SK 6	土坑 80	遺構6	SK 84	溝状遺構 3	遺構6	SK 105	土坑 16
遺構7	SK 7	土坑 82	遺構7	SK 85	溝状遺構 4	遺構7	SK 106	土坑 15
遺構8	SK 8	土坑 86	遺構8	SK 86	溝状遺構 5	遺構8	SK 107	土坑 14
遺構9	SK 9	土坑 43	遺構9	SK 87	溝状遺構 6	遺構9	SK 108	土坑 13
遺構10	SK 10	土坑 47	遺構10	SK 88	溝状遺構 7	遺構10	SK 109	溝状遺構 11
遺構11	SK 11	土坑 48	遺構11	SK 89	溝状遺構 8	遺構11	SK 110	土坑 11
遺構12	SK 12	土坑 49	遺構12	SK 90	溝状遺構 9	遺構12	SK 111	土坑 10
遺構13	SK 13	土坑 13	遺構13	SK 91	溝状遺構 10	遺構13	SK 112	土坑 9
遺構14	SK 14	土坑 14	遺構14	SK 92	溝状遺構 11	遺構14	SK 113	土坑 11
遺構15	SK 15	土坑 41	遺構15	SK 93	溝状遺構 12	遺構15	SK 114	土坑 10
遺構16	SK 16	土坑 44	遺構16	SK 94	溝状遺構 13	遺構16	SK 115	溝状遺構 5
遺構17	SK 17	土坑 49	遺構17	SK 95	溝状遺構 14	遺構17	SK 116	溝状遺構 4
遺構18	SK 18	土坑 44	遺構18	SK 96	溝状遺構 15	遺構18	SK 117	溝状遺構 2
遺構19	SK 19	土坑 50	遺構19	SK 97	溝状遺構 16	遺構19	SK 118	溝状遺構 2
遺構20	SK 20	土坑 51	遺構20	SK 98	溝状遺構 17	遺構20	SK 119	溝状遺構 2
遺構21	SK 21	土坑 51	遺構21	SK 99	溝状遺構 18	遺構21	SK 120	溝状遺構 2
遺構22	SK 22	土坑 52	遺構22	SK 100	溝状遺構 19	遺構22	SK 121	溝状遺構 2
遺構23	SK 23	土坑 56	遺構23	SK 101	溝状遺構 20	遺構23	SK 122	溝状遺構 2
遺構24	SK 24	土坑 56	遺構24	SK 102	溝状遺構 21	遺構24	SK 123	溝状遺構 2
遺構25	SK 25	土坑 56	遺構25	SK 103	溝状遺構 22	遺構25	SK 124	溝状遺構 2
遺構26	SK 26	土坑 56	遺構26	SK 104	溝状遺構 23	遺構26	SK 125	溝状遺構 2
遺構27	SK 27	土坑 56	遺構27	SK 105	溝状遺構 24	遺構27	SK 126	溝状遺構 2
遺構28	SK 28	土坑 56	遺構28	SK 106	溝状遺構 25	遺構28	SK 127	溝状遺構 2
遺構29	SK 29	土坑 56	遺構29	SK 107	溝状遺構 26	遺構29	SK 128	溝状遺構 2
遺構30	SK 30	土坑 56	遺構30	SK 108	溝状遺構 27	遺構30	SK 129	溝状遺構 2
遺構31	SK 31	土坑 56	遺構31	SK 109	溝状遺構 28	遺構31	SK 130	溝状遺構 2
遺構32	SK 32	土坑 56	遺構32	SK 110	溝状遺構 29	遺構32	SK 131	溝状遺構 2
遺構33	SK 33	土坑 56	遺構33	SK 111	溝状遺構 30	遺構33	SK 132	溝状遺構 2
遺構34	SK 34	土坑 56	遺構34	SK 112	溝状遺構 31	遺構34	SK 133	溝状遺構 2
遺構35	SK 35	土坑 56	遺構35	SK 113	溝状遺構 32	遺構35	SK 134	溝状遺構 2
遺構36	SK 36	土坑 56	遺構36	SK 114	溝状遺構 33	遺構36	SK 135	溝状遺構 2
遺構37	SK 37	土坑 56	遺構37	SK 115	溝状遺構 34	遺構37	SK 136	溝状遺構 2
遺構38	SK 38	土坑 56	遺構38	SK 116	溝状遺構 35	遺構38	SK 137	溝状遺構 2
遺構39	SK 39	土坑 56	遺構39	SK 117	溝状遺構 36	遺構39	SK 138	溝状遺構 2
遺構40	SK 40	土坑 56	遺構40	SK 118	溝状遺構 37	遺構40	SK 139	溝状遺構 2
遺構41	SK 41	土坑 56	遺構41	SK 119	溝状遺構 38	遺構41	SK 140	溝状遺構 2
遺構42	SK 42	土坑 56	遺構42	SK 120	溝状遺構 39	遺構42	SK 141	溝状遺構 2
遺構43	SK 43	土坑 56	遺構43	SK 121	溝状遺構 40	遺構43	SK 142	溝状遺構 2
遺構44	SK 44	土坑 56	遺構44	SK 122	溝状遺構 41	遺構44	SK 143	溝状遺構 2
遺構45	SK 45	土坑 56	遺構45	SK 123	溝状遺構 42	遺構45	SK 144	溝状遺構 2
遺構46	SK 46	土坑 56	遺構46	SK 124	溝状遺構 43	遺構46	SK 145	溝状遺構 2
遺構47	SK 47	土坑 56	遺構47	SK 125	溝状遺構 44	遺構47	SK 146	溝状遺構 2
遺構48	SK 48	土坑 56	遺構48	SK 126	溝状遺構 45	遺構48	SK 147	溝状遺構 2
遺構49	SK 49	土坑 56	遺構49	SK 127	溝状遺構 46	遺構49	SK 148	溝状遺構 2
遺構50	SK 50	土坑 56	遺構50	SK 128	溝状遺構 47	遺構50	SK 149	溝状遺構 2
遺構51	SK 51	土坑 56	遺構51	SK 129	溝状遺構 48	遺構51	SK 150	溝状遺構 2
遺構52	SK 52	土坑 56	遺構52	SK 130	溝状遺構 49	遺構52	SK 151	溝状遺構 2
遺構53	SK 53	土坑 56	遺構53	SK 131	溝状遺構 50	遺構53	SK 152	溝状遺構 2
遺構54	SK 54	土坑 56	遺構54	SK 132	溝状遺構 51	遺構54	SK 153	溝状遺構 2
遺構55	SK 55	土坑 56	遺構55	SK 133	溝状遺構 52	遺構55	SK 154	溝状遺構 2
遺構56	SK 56	土坑 56	遺構56	SK 134	溝状遺構 53	遺構56	SK 155	溝状遺構 2
遺構57	SK 57	土坑 56	遺構57	SK 135	溝状遺構 54	遺構57	SK 156	溝状遺構 2
遺構58	SK 58	土坑 56	遺構58	SK 136	溝状遺構 55	遺構58	SK 157	溝状遺構 2
遺構59	SK 59	土坑 56	遺構59	SK 137	溝状遺構 56	遺構59	SK 158	溝状遺構 2
遺構60	SK 60	土坑 56	遺構60	SK 138	溝状遺構 57	遺構60	SK 159	溝状遺構 2
遺構61	SK 61	土坑 56	遺構61	SK 139	溝状遺構 58	遺構61	SK 160	溝状遺構 2
遺構62	SK 62	土坑 56	遺構62	SK 140	溝状遺構 59	遺構62	SK 161	溝状遺構 2
遺構63	SK 63	土坑 56	遺構63	SK 141	溝状遺構 60	遺構63	SK 162	溝状遺構 2
遺構64	SK 64	土坑 56	遺構64	SK 142	溝状遺構 61	遺構64	SK 163	溝状遺構 2
遺構65	SK 65	土坑 56	遺構65	SK 143	溝状遺構 62	遺構65	SK 164	溝状遺構 2
遺構66	SK 66	土坑 56	遺構66	SK 144	溝状遺構 63	遺構66	SK 165	溝状遺構 2
遺構67	SK 67	土坑 56	遺構67	SK 145	溝状遺構 64	遺構67	SK 166	溝状遺構 2
遺構68	SK 68	土坑 56	遺構68	SK 146	溝状遺構 65	遺構68	SK 167	溝状遺構 2
遺構69	SK 69	土坑 56	遺構69	SK 147	溝状遺構 66	遺構69	SK 168	溝状遺構 2
遺構70	SK 70	土坑 56	遺構70	SK 148	溝状遺構 67	遺構70	SK 169	溝状遺構 2
遺構71	SK 71	土坑 56	遺構71	SK 149	溝状遺構 68	遺構71	SK 170	溝状遺構 2
遺構72	SK 72	土坑 56	遺構72	SK 150	溝状遺構 69	遺構72	SK 171	溝状遺構 2
遺構73	SK 73	土坑 56	遺構73	SK 151	溝状遺構 70	遺構73	SK 172	溝状遺構 2
遺構74	SK 74	土坑 56	遺構74	SK 152	溝状遺構 71	遺構74	SK 173	溝状遺構 2
遺構75	SK 75	土坑 56	遺構75	SK 153	溝状遺構 72	遺構75	SK 174	溝状遺構 2
遺構76	SK 76	土坑 56	遺構76	SK 154	溝状遺構 73	遺構76	SK 175	溝状遺構 2
遺構77	SK 77	土坑 56	遺構77	SK 155	溝状遺構 74	遺構77	SK 176	溝状遺構 2
遺構78	SK 78	土坑 56	遺構78	SK 156	溝状遺構 75	遺構78	SK 177	溝状遺構 2
遺構79	SK 79	土坑 56	遺構79	SK 157	溝状遺構 76	遺構79	SK 178	溝状遺構 2
遺構80	SK 80	土坑 56	遺構80	SK 158	溝状遺構 77	遺構80	SK 179	溝状遺構 2
遺構81	SK 81	土坑 56	遺構81	SK 159	溝状遺構 78	遺構81	SK 180	溝状遺構 2
遺構82	SK 82	土坑 56	遺構82	SK 160	溝状遺構 79	遺構82	SK 181	溝状遺構 2
遺構83	SK 83	土坑 56	遺構83	SK 161	溝状遺構 80	遺構83	SK 182	溝状遺構 2
遺構84	SK 84	土坑 56	遺構84	SK 162	溝状遺構 81	遺構84	SK 183	溝状遺構 2
遺構85	SK 85	土坑 56	遺構85	SK 163	溝状遺構 82	遺構85	SK 184	溝状遺構 2
遺構86	SK 86	土坑 56	遺構86	SK 164	溝状遺構 83	遺構86	SK 185	溝状遺構 2
遺構87	SK 87	土坑 56	遺構87	SK 165	溝状遺構 84	遺構87	SK 186	溝状遺構 2
遺構88	SK 88	土坑 56	遺構88	SK 166	溝状遺構 85	遺構88	SK 187	溝状遺構 2
遺構89	SK 89	土坑 56	遺構89	SK 167	溝状遺構 86	遺構89	SK 188	溝状遺構 2
遺構90	SK 90	土坑 56	遺構90	SK 168	溝状遺構 87	遺構90	SK 189	溝状遺構 2
遺構91	SK 91	土坑 56	遺構91	SK 169	溝状遺構 88	遺構91	SK 190	溝状遺構 2
遺構92	SK 92	土坑 56	遺構92	SK 170	溝状遺構 89	遺構92	SK 191	溝状遺構 2
遺構93	SK 93	土坑 56	遺構93	SK 171	溝状遺構 90	遺構93	SK 192	溝状遺構 2
遺構94	SK 94	土坑 56	遺構94	SK 172	溝状遺構 91	遺構94	SK 193	溝状遺構 2
遺構95	SK 95	土坑 56	遺構95	SK 173	溝状遺構 92	遺構95	SK 194	溝状遺構 2
遺構96	SK 96	土坑 56	遺構96	SK 174	溝状遺構 93	遺構96	SK 195	溝状遺構 2
遺構97	SK 97	土坑 56	遺構97	SK 175	溝状遺構 94	遺構97	SK 196	溝状遺構 2
遺構98	SK 98	土坑 56	遺構98	SK 176	溝状遺構 95	遺構98	SK 197	溝状遺構 2
遺構99	SK 99	土坑 56	遺構99	SK 177	溝状遺構 96	遺構99	SK 198	溝状遺構 2
遺構100	SK 100	土坑 56	遺構100	SK 178	溝状遺構 97	遺構100	SK 199	溝状遺構 2
遺構101	SK 101	土坑 56	遺構101	SK 179	溝状遺構 98	遺構101	SK 200	溝状遺構 2
遺構102	SK 102	土坑 56	遺構102	SK 180	溝状遺構 99	遺構102	SK 201	溝状遺構 2
遺構103	SK 103	土坑 56	遺構103	SK 181	溝状遺構 100	遺構103	SK 202	溝状遺構 2
遺構104	SK 104	土坑 56	遺構104	SK 182	溝状遺構 101	遺構104	SK 203	溝状遺構 2
遺構105	SK 105	土坑 56	遺構105	SK 183	溝状遺構 102	遺構105	SK 204	溝状遺構 2
遺構106	SK 106	土坑 56	遺構106	SK 184	溝状遺構 103	遺構106	SK 205	溝状遺構 2
遺構107	SK 107	土坑 56	遺構107	SK 185	溝状遺構 104	遺構107	SK 206	溝状遺構 2
遺構108	SK 108	土坑 56	遺構108	SK 186	溝状遺構 105	遺構108	SK 207	溝状遺構 2
遺構109	SK 109	土坑 56	遺構109	SK 187	溝状遺構 106	遺構109	SK 208	溝状遺構 2
遺構110	SK 110	土坑 56	遺構110	SK 188	溝状遺構 107	遺構110	SK 209	溝状遺構 2
遺構111	SK 111	土坑 56	遺構111	SK 189	溝状遺構 108	遺構111	SK 210	溝状遺構 2
遺構112	SK 112	土坑 56	遺構112	SK 190	溝状遺構 109	遺構112	SK 211	溝状遺構 2
遺構113	SK 113	土坑 56	遺構113	SK 191	溝状遺構 110	遺構113	SK 212	溝状遺構 2
遺構114	SK 114	土坑 56	遺構114	SK 192	溝状遺構 111	遺構114	SK 213	溝状遺構 2
遺構115	SK 115	土坑 56	遺構115	SK 193	溝状遺構 112	遺構115	SK 214	溝状遺構 2
遺構116	SK 116	土坑 56	遺構116	SK 194	溝状遺構 113	遺構116	SK 215	溝状遺構 2
遺構117	SK 117	土坑 56	遺構117	SK 195	溝状遺構 114	遺構117	SK 216	溝状遺構 2
遺構118	SK 118	土坑 56	遺構118	SK 196	溝状遺構 115	遺構118	SK 217	溝状遺構 2
遺構119	SK 119	土坑 56	遺構119	SK 197	溝状遺構 116	遺構119	SK 218	溝状遺構 2
遺構120	SK 120	土坑 56	遺構120	SK 198	溝状遺構 117	遺構120	SK 219	溝状遺構 2
遺構121	SK 121	土坑 56	遺構121	SK 199	溝状遺構 118	遺構121	SK 220	溝状遺構 2
遺構122	SK 122	土坑 56	遺構122	SK 200	溝状遺構 119	遺構122	SK 221	溝状遺構 2
遺構123	SK 123	土坑 56	遺構123	SK 201	溝状遺構 120	遺構123	SK 222	溝状遺構 2
遺構124	SK 124	土坑 56	遺構124	SK 202	溝状遺構 121	遺構124	SK 223	溝状遺構 2
遺構125	SK 125	土坑 56	遺構125	SK 203	溝状遺構 122	遺構125	SK 224	溝状遺構 2
遺構126	SK 126	土坑 56	遺構126	SK 204	溝状遺構 123	遺構126	SK 225	溝状遺構 2
遺構127	SK 127	土坑 56	遺構127	SK 205	溝状遺構 124	遺構127	SK 226	溝状遺構 2
遺構128	SK 128	土坑 56	遺構128	SK 206	溝状遺構 125	遺構128	SK 227	溝状遺構 2
遺構129	SK 129	土坑 56	遺構129	SK 207	溝状遺構 126	遺構129	SK 228	

## 第2節 遺跡の層位

木遺跡の層序および遺物包含層・年代・文化などの関係は下記のとおりである。なお、注意すべき点として、沖積地の土層は台地上の遺跡とは異なり、当時の表層の状態によって同じ時期の堆積層でも色調・土質が異なることがある。例えば、水が表土にたまっているところとそうでないところでは同じ時期に堆積をしても色調や性質が異なる場合がある。また植えられた植物によっても土質が変わった可能性がある。そのため以下で説明する層序については、どの地点でも通用するが、地点によっては間が抜けていたり、上がとんでいたりすることがあることを断っておきたい。

**I層**：耕作土。灰茶褐色土。各時代の遺物が耕作等により攪乱された状態で出土する。

**Ib層**：黒灰色粘質土。

**II層**：青灰色または黄色粘土。黄色の土は水田の基盤であり、酸化土である。粒子が細かく、乾燥すると非常に硬い。

**IIb層**：青灰色砂質土。粒子が粗く、炭化物を含む。古代から中世の包含層。

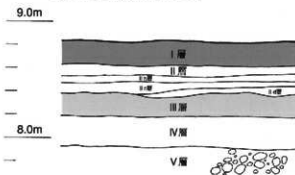
**IIc層**：炭化物混入青灰色粘質土。砂を多く含み、粒子が粗い暗灰色の部分もある。古代～中世の包含層。大坪遺跡32区以南では、鋤痕とみられる層もこの層にある。

**II d層**：黄褐色粘土。古代末から中世の水田基盤に伴う酸化土とも考えられる。古代末から中世初頭の遺構には、この層の下面で掘り込まれたものと、上面から掘り込まれたものがあるが、水田基盤とすれば層位的な前後関係には使えないことになる。

**III層**：灰黄褐色粘質土。マンガン分が少量混入している。古代及び縄文時代後期終末から晩期前半の遺物包含層。IIIb・III'も同質の層である。

**IV層**：茶褐色砂質土。マンガン分が密集して混入している。上部に縄文時代後期終末から晩期前半の遺物が少量みられる。

**V層**：青灰色砂質土。揚子によっては大卒の円礫が集中する。無遺物層である。



第9図 大坪遺跡土層模式図 (B-21区を基に作成)

## 第3節 各グリッドの状況

榎木田遺跡・見入来遺跡を含めた大坪遺跡全体の調査区域は南北820mに渡っており、しかも縄文時代後期から近代まで長期開墾された生活痕跡が重複している。これらの点を考慮しながら、過不足なく発掘成果を報告しなければならないことから、時期を色分けすると共に2種類の縮尺の図を提示することとする。一つは400分の一の図で、南北4グリッド分の遺構配置を示し(第10図～第18図)、もう一つは150分の一の縮尺で、各グリッドごとに土層断面図及び遺物出土状況も含めて提示してある(第19図～第102図)。色分けやドット種類については、凡例に示したとおりである。

### 03区～01区：榎木田遺跡

この区域では古代を中心に遺構や遺物が見つかっていた。建物跡や溝状遺構は見出せず、この区域全体の性格を明らかにすることはできなかった。条里型地割については、昭和40年代以前の地籍図でも方向が磁北よりも11度西側に向いている。

### 1区～7区：見入来遺跡

中央部分を昭和40年代までであった川跡が南北に貫いていて、これより西側の残存状況は良くなかった。縄文時代の遺構や遺物は北側に残っていた。中世後半から近世初期ぐらいに位置づけられると考えられる土坑が東側に集中して検出された。

### 11区～18区：大坪遺跡

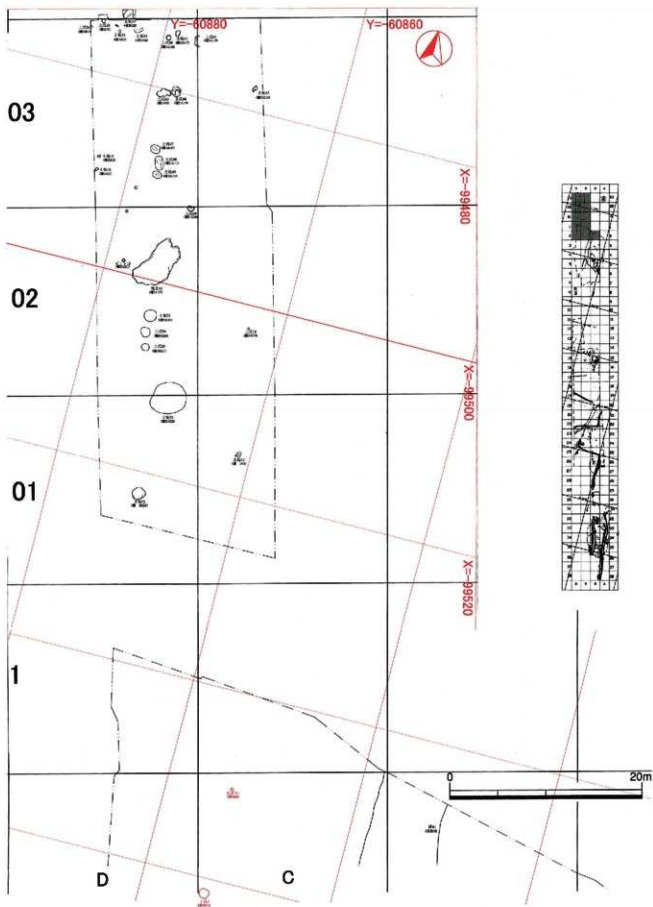
14区～16区にかけての東側は、古代前半の遺構や遺物が集中して出土し、この区域が当時の重要な地域であったことが窺える。縄文時代の遺構及び遺物もこの区域には多く、立地の上で共通した利点があったと考えられる。地形図をみると、この地点には谷が入り込まず、安定した微高地であったことが窺える。縄文時代後期終末の上加世田式土器が主体を占め、大坪遺跡で最古の生活痕跡はここにある。

### 19区～30区：大坪遺跡

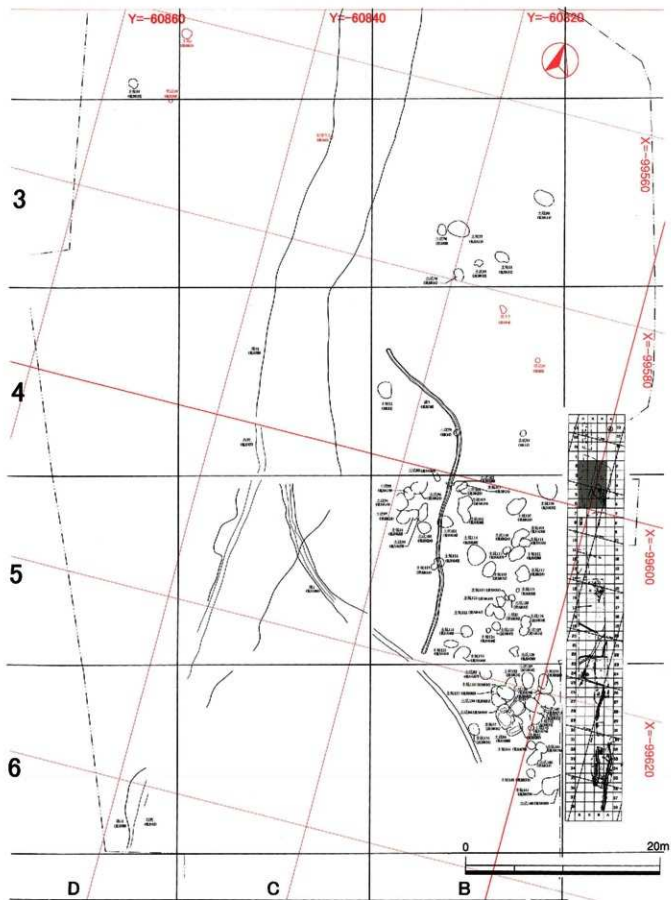
際立った遺構集中及び遺物点数はないものの、縄文時代・古代前半・古代後半～中世にかけて、それぞれの営みがあった区域である。縄文時代晩期前半の人佐式土器は24区周辺に、晩期中半から後半の黒川式土器は21区を中心に出土している。古代前半は22区～24区にかけて、生活痕跡がみられる。また、道跡と考えられる溝状遺構もあり、条里型地割施工前後の様相が窺える。

### 31区～38区：大坪遺跡

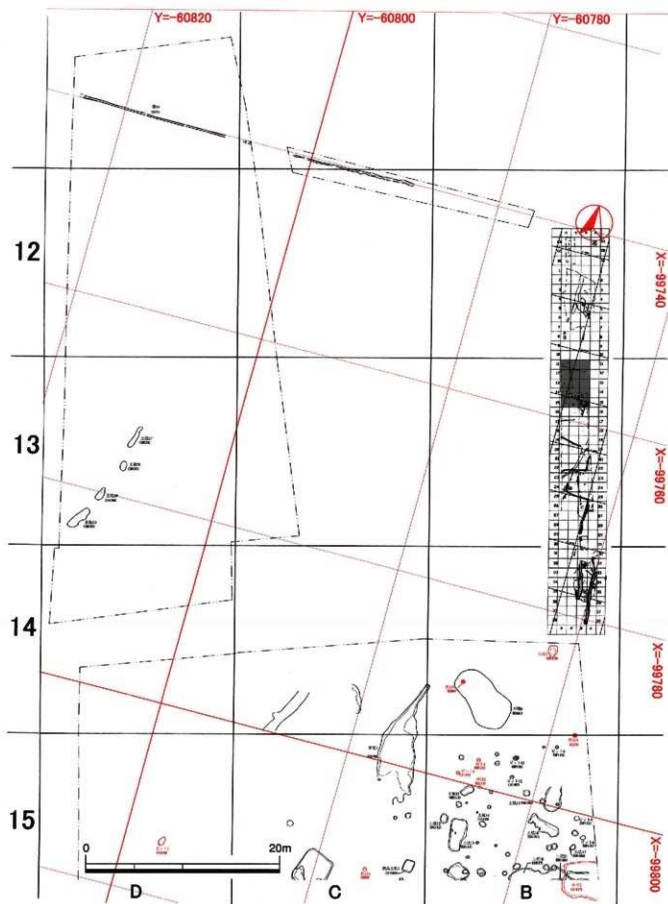
この区域では、古代後半から中世前半の生活痕跡が集中して確認できた。掘立建物跡及び道跡と考えられる溝状遺構の方向が2通りみられ、条里型地割の施工前と施工後の様相を窺うことができる。



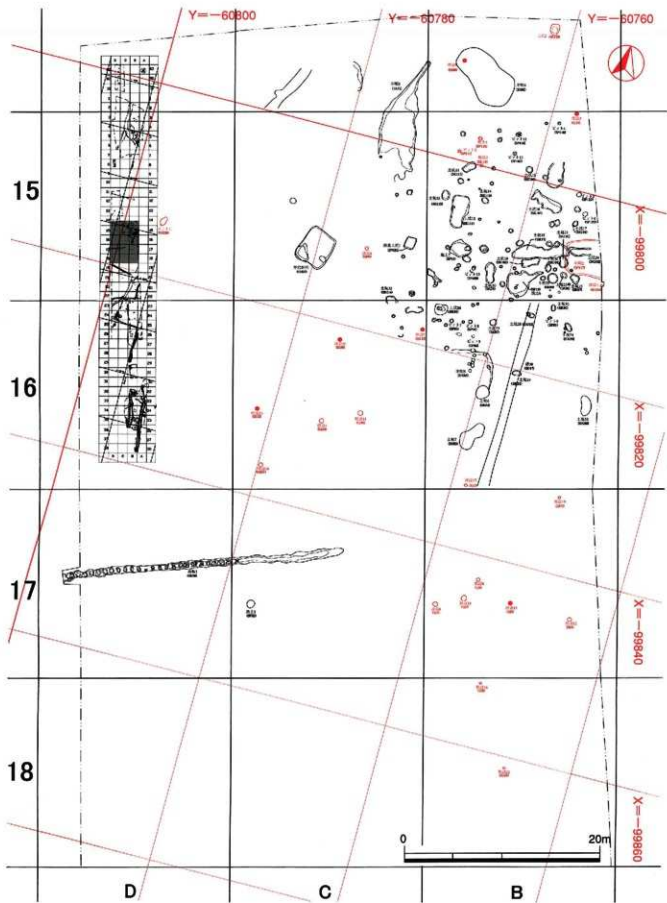
第10図 遺構配置図(1) 03区~2区



第11図 遺構配置図 (2) 2区~6区

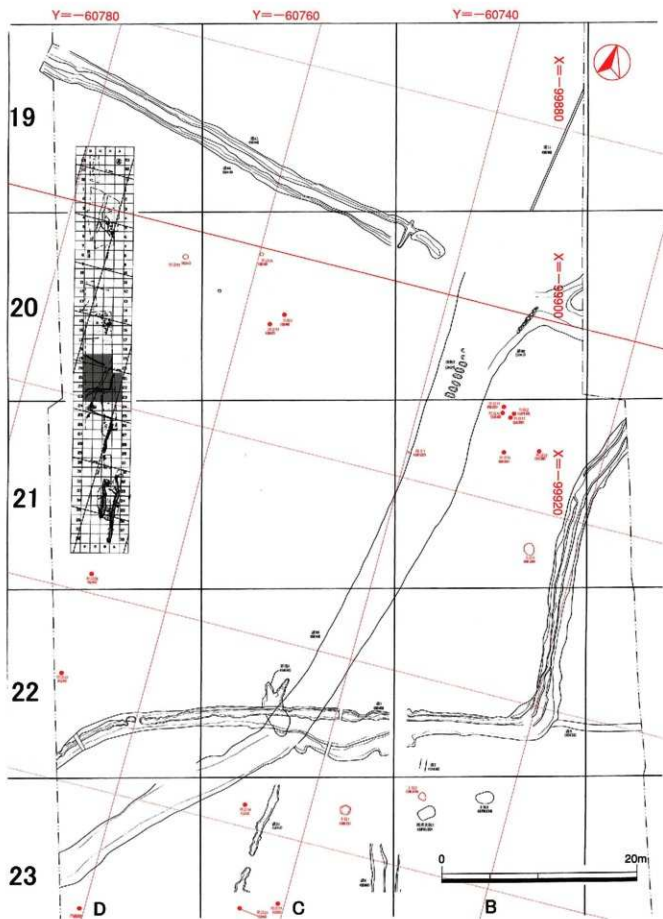


第12図 遺構配置図 (3) 11区~15区

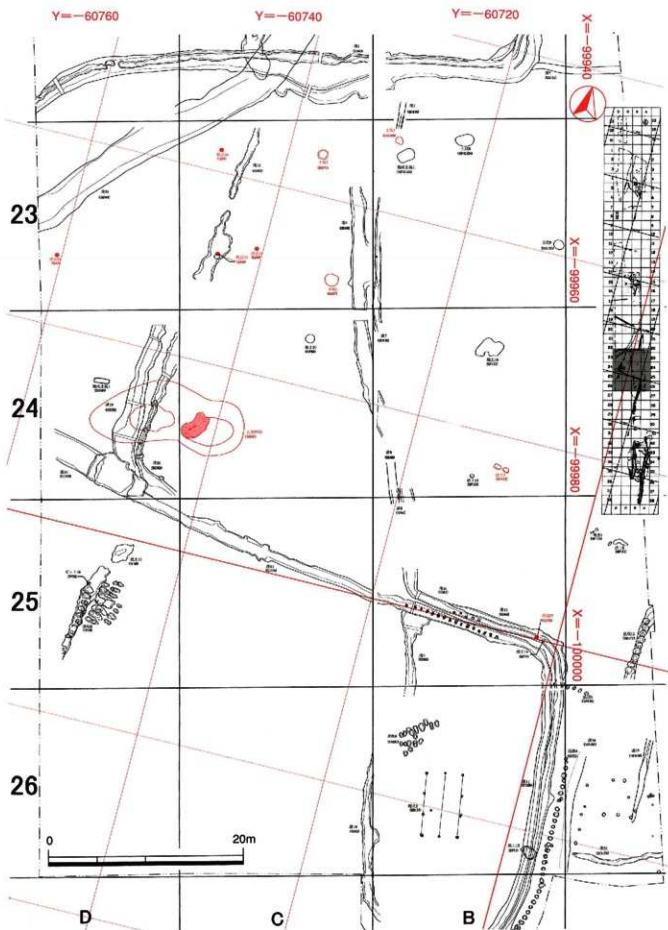


第13图 遗址配置图 (4) 14区~18区

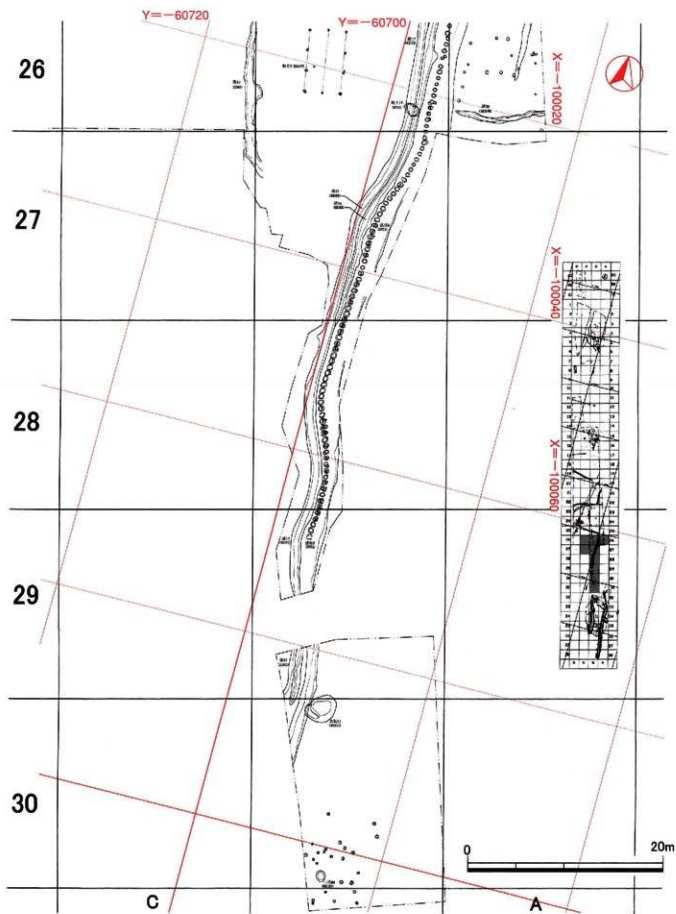




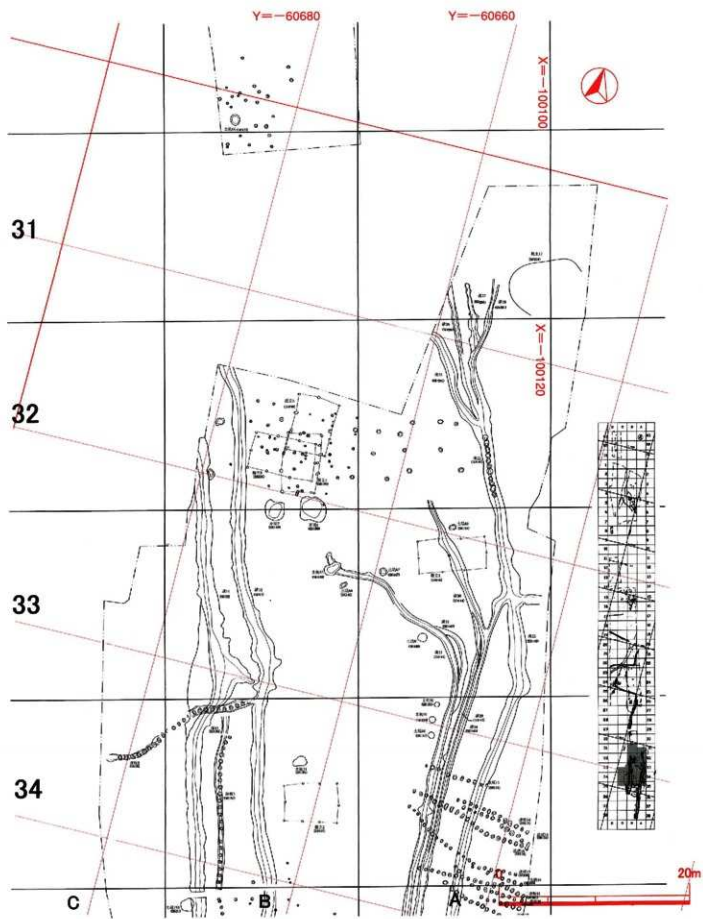
第14图 遺構配置図 (5) 19区~22区



第15图 遺構配置図 (6) 23区~26区



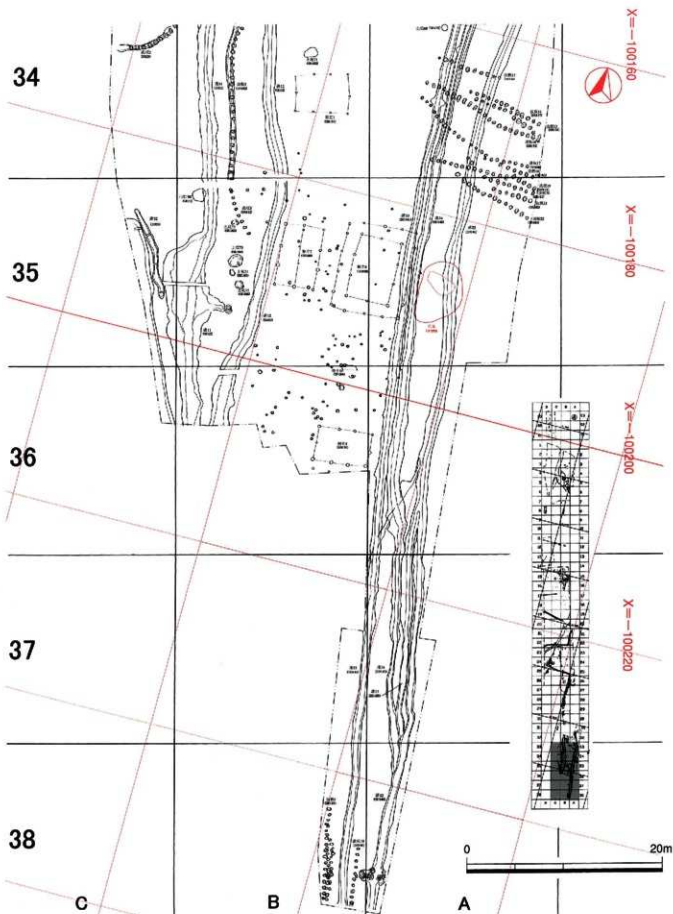
第16图 遗构配置图 (7) 27区~30区



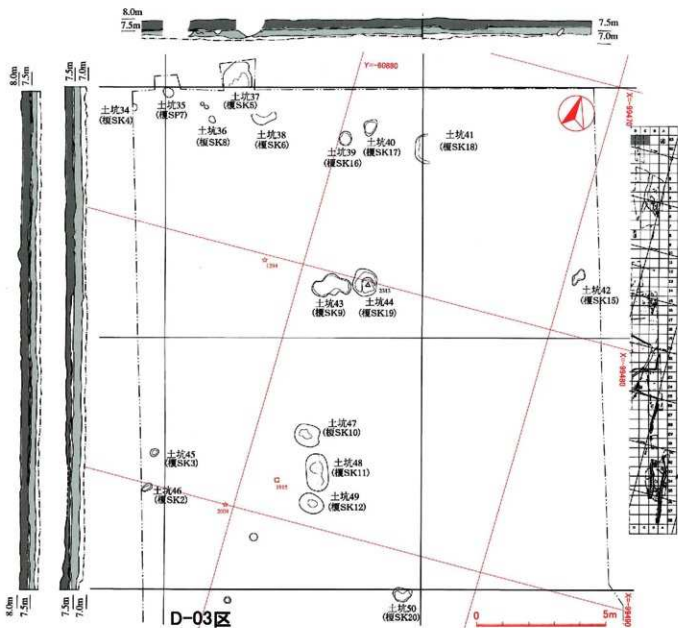
第17图 遗构配置图 (8) 31区~34区

Y=-60680

Y=-60660



第18图 遺構配置図(9) 35区~38区



第19図 遺構検出及び遺物出土状況 (1) D・C-03区

#### D-03区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.56m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面では、6か所の樹根を確認した。

この範囲から、古代の土坑46(榎SK2)・45(榎SK3)・34(榎SK4)・37(榎SK5)・38(榎SK6)・36(榎SK8)・43(榎SK9)・47(榎SK10)・48(榎SK11)・49(榎SK12)・42(榎SK16)・40(榎SK17)・44(榎SK19)・35(榎SP7)を検出した。榎木田遺跡の範囲内では最も遺構が集中した地域であり、北側にも広がること予想された。しかし、確認調査を踏まえて設定された範囲であり、溝状遺構と違って連続性を強調することが出来ない遺構であるので、各遺構を完

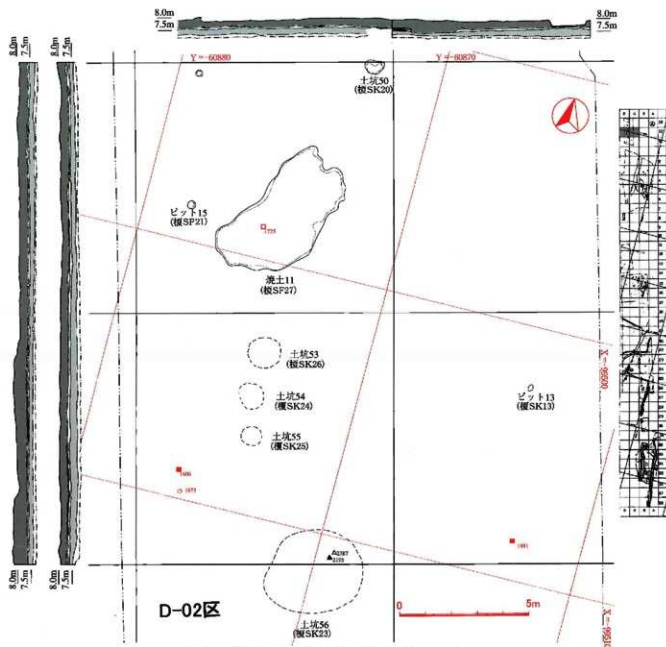
するにとどまった。

遺物の出土状況は、西寄りに広がっており、縄文時代の石器類が出土している。

#### C-03区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.64m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.7m～2.5mの地点は、10年度の確認調査のため削平を受けていた。

この範囲からは、古代のものとも思われる土坑42(榎SK15)・44(榎SK19)を検出した。遺物の出土状況は、散発で少なかった。



第20図 遺構検出及び遺物出土状況 (2) D・C-02区

#### D-02区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.6m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。

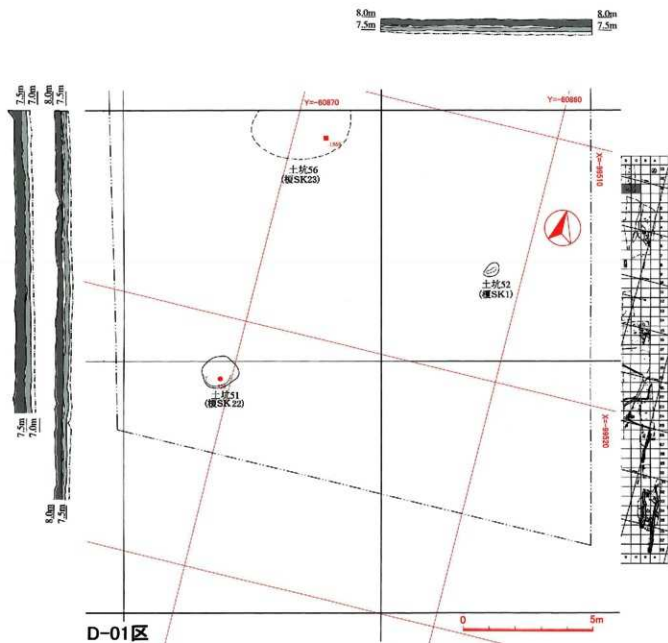
この範囲から、古代のビット14 (榎SK14)、土坑50 (榎SK20)・56 (榎SK23)・54 (榎SK24)・55 (榎SK25)、古代のものと思われるビット15 (榎SP21)、同じく古代のものと思われる焼土を伴う土坑11 (榎SF27) を検出した。

遺物の出土状況は、比較的少ないが、南北に広がっており、点在する形で出土している。縄文時代の石器や古代の土師器がある。

#### C-02区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.68m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.7m～2.4mの地点は、平成10年度の調査の確認トレンチのため、削平を受けていた。また、6.2m～7.7mの地点も削平を受けていた。

この範囲から、古代のビット13 (榎SK13) を検出した。遺物の出土状況は、南北に広がって出土している。



第21図 遺構検出及び遺物出土状況 (3) D・C-01区

#### D-01区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.6m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況からⅡc層とした。Ⅱ層の堆積は薄く、この壁面でⅡ層は11.6m中1.34mしかなく、厚さ4cm～8cmしか確認できなかった。

この範囲から、古代の土坑51（榎SK22）・53（榎SK26）を検出した。

遺物の出土状況は、南側に多く、特に集中して出土している。縄文時代の石器類が出土した。

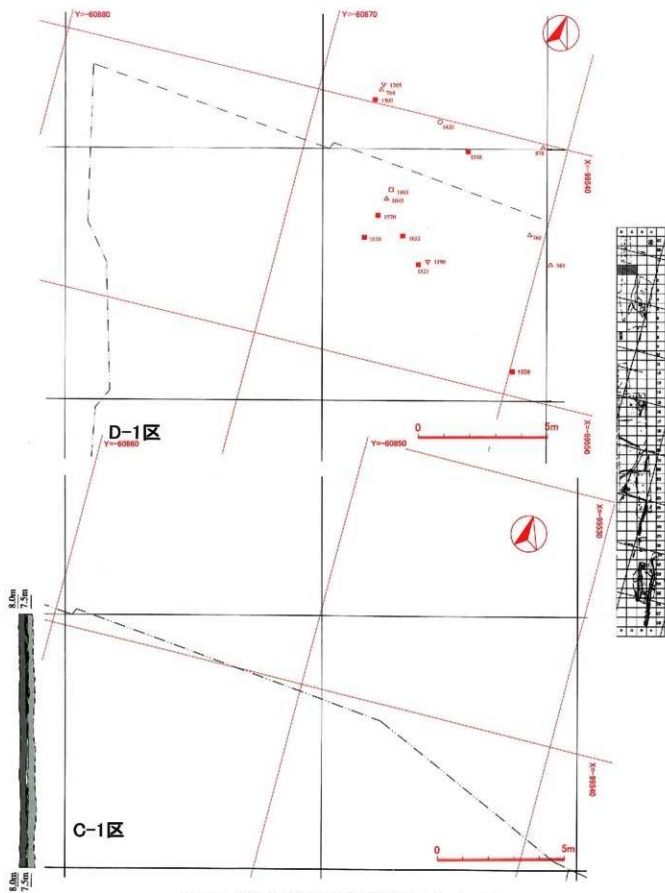
#### C-01区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.6m、低い所で7.52mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。西側壁面の0～4.5mの地点には、現在も当地域で使用される排水溝があったため、調査ができなかった。

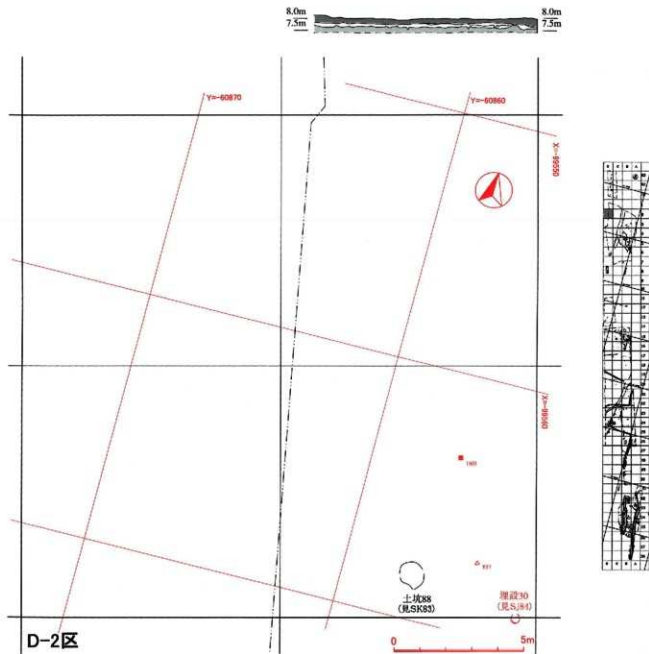
この範囲から、古代の土坑52（榎SK1）を検出した。

遺物の出土状況は、比較的出土遺物は少なく、南側からの出土が多い。縄文時代の石器類が出土した。





第22図 遺構検出及び遺物出土状況 (4) D・C-1区



第23図 遺構検出及び遺物出土状況 (5) D-2区

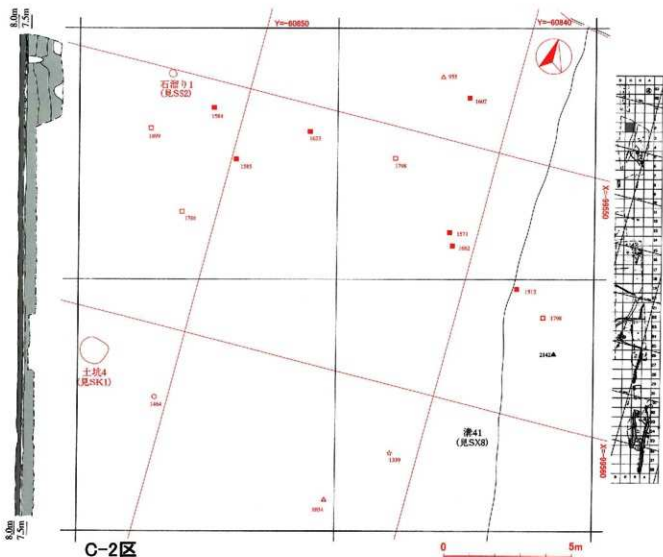
#### D-1区

市道部分及び西側は調査区域外である。水田耕作の関係でこの区の調査は平成11年11月に実施した。この範囲からは、遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況は濃密で、縄文時代の石製土器具や石匙、石鏃等の石器が、調査区域全般から多量に出土している。

#### C-1区

今回の発掘調査で最初に掘り下げを始めた場所である。北側壁面のIII層上面の標高は7.6mである。北側は市道であり、調査区域外である。この範囲からは、遺構・遺物とも検出されなかった。元々は丘陵部の裾部であり、次第に東側へ高まっていたのが、水田開発により水平を保つために高い部分が削平されたものと考えられる。



第24回 遺構検出及び遺物出土状況 (6) C-2区

#### D-2区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.8m、低い所で7.7mである。西側は調査区域外であった。北側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb層とした。

この範囲から、縄文時代後期終末から晩期のもと思われる埋設土器30(見SJ84)を検出した。この遺構は、D-3区にもまたがっていた。また、中世後半のものと思われる土坑88(見SK83)を検出した。この埋土はⅢ層と同質であり、わずかに炭化粒を含んでいる。形状や規模及び埋土の状況とも、見入来遺跡にある他の多くの土坑と一緒にあり、中世後半～近世前半頃のものであると考えられる。1基のみ離れている理由は不明であるが、他の土坑の使われ方がわかっていると、この区における当時の利用方法が明らかになると考える。

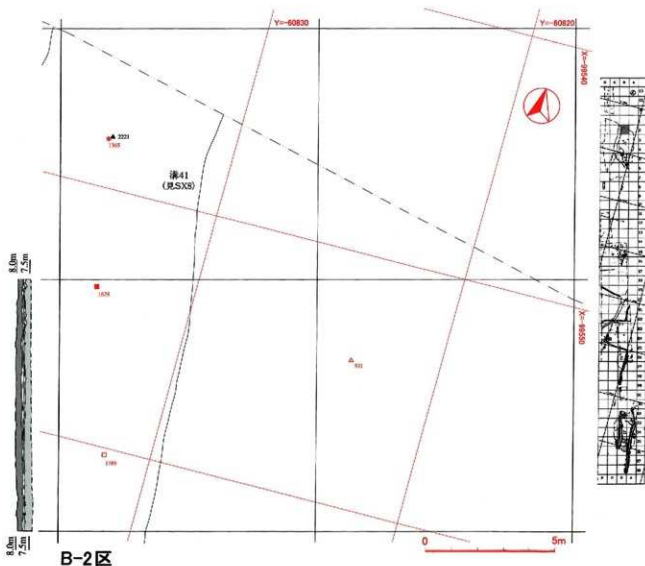
この区からは、縄文土器と石器類、それに土師質と

考えられる土器が出土した。遺物の出土状況は、調査区域全般から多く出土している。

水田耕作の関係でこの区の調査は平成11年11月に実施した。

#### C-2区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.72m、低い所で7.52mである。西側壁面のⅠ層は、その堆積状況から、Ⅰ・Ⅰb層とした。西側壁面18.12m～19.76m地点のⅡ層下部に、特徴のある層を確認したので、Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc層と細分した。それぞれの特徴は、Ⅱa層は汚灰色土でしまりがあって柔らかい。Ⅱb層は灰色弱粘質土でしまりがあってかたく、鉄分マンガン分はみられない。Ⅱc層は灰褐色粘質土であり、基本的にはⅢ層と同じであり他の場所と比べて茶色味が強く、炭化粒子



第25図 遺構検出及び遺物出土状況 (7) B-2区

がわずかに含まれている。しまりがあって固い層である。

また、深掘りした西側壁面の16.6mの地点から19.76mの地点のⅢ層下部に、茶灰褐色シルト質土の層が厚さ約50cmで堆積し、粘質が弱く、しまりがあって固い。その下の乳茶色粘土層の中に、厚さ30cmのしまりがあるが柔らかい淡青灰色粘質土の層とシルト質でしまりがなく柔らかい濃灰青色粘質土の層を確認した。北側は礫が多くあり、砂も多く、昭和40年代以前は川であった様である。

この範囲から、縄文時代晩期のものと思われる土坑4（見SK1）と石溜り1（見SS2）を検出した。土坑4はちょうど西壁面に接して検出されたので、西側半分についてはD-2区を掘り下げた平成11年11月に調査を行った。

遺物の出土状況としては濃密であり、石製土掘具や磨石、石鏃等石器類を中心に全般的な範囲から多

量に出土している。特に石製土掘具の比率が高い。

#### B-2区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.74m、低い所で7.58mである。南から1m～9.26mの地点のⅠ層とⅢ層の間に、多量の石を含む灰色土の層を確認した。西側は昭和40年代以前には川であった様である。川の境は明確な段はなく、漸次砂や礫が多くなっていった。この範囲からは他の遺構は検出されなかった。1.42mの地点の灰色層とⅢ層の間に土器片を、2.4m～2.6mの地点Ⅲ層上面で黒曜石を検出した。

遺物の出土状況は、南側が濃密であり、特に南西側からの出土が多い。この様な状況から、北東よりはかつて標高が高く、後世の水田開発に伴い削平されたものと考えられる。

### A-2区

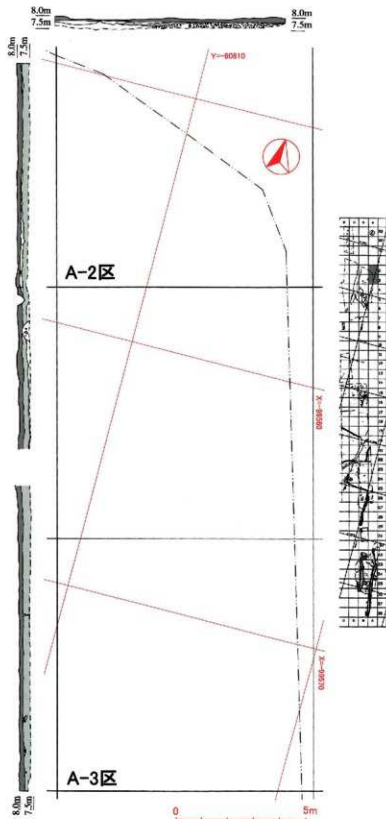
西側壁面の皿層上面の標高は、高い所で7.82m、低い所で7.62mである。この範囲の北側及び東側は、調査区域外となるので、北側壁面の断面は調査しなかった。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況としては、調査区域範囲内の南西側から点在する形で出土している。後世に削平を受けた部分だと考えられる。

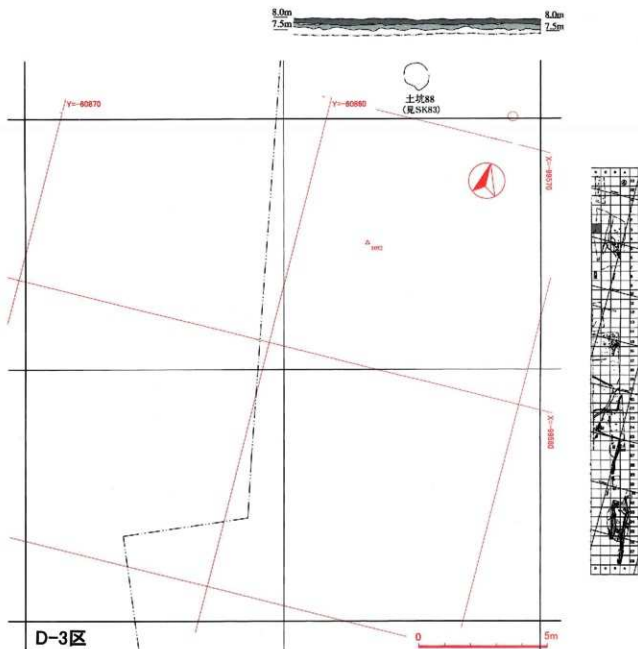
### A-3区

北側壁面・西側壁面の皿層上面の標高は、高い所で7.9m、低い所で7.7mである。北側壁面3.66m～9mの地点の皿層下部に、幅5.34m、厚さ約24cmの直径5mm～120mmほどの礫がつまっている砂礫層が確認された。この礫の間は、しまった砂土であった。西側壁面1.4m～1.8mの地点の皿層上部にかけて、幅40cm、厚さ約8cmの灰色土の埋土が確認され、この中から石筍を検出したことから、何らかの遺構ではないかと考えられるが、具体的に確定することはできなかった。西側壁面18m～18.65mの地点I層下部に、幅65cm、厚さ約28cmの範囲で直径5mm～100mmほどの礫が集中するしまった砂質土の層が確認された。同じく西側壁面19.3m～19.7mの地点では、幅40cm、深さ約24cmの範囲で、溝によって攪乱されていた。この範囲からは、遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況は、西側からしか出土しておらず、しかも点在する形である。



第26図 遺構検出及び遺物出土状況 (B) A-2・3区



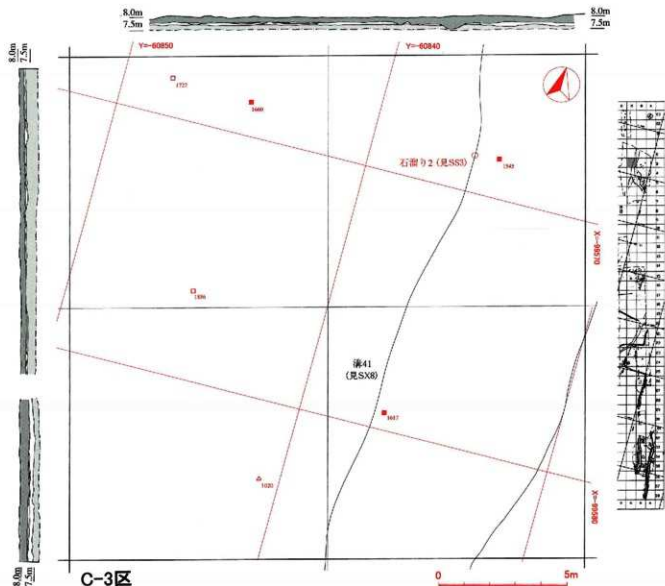
第27図 遺構検出及び遺物出土状況 (9) D-3区

#### D-3区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.76m、低い所で7.7mである。Ⅱ層の堆積状況は薄く、全般的に10.42m～11.6mの地点(幅1.18m, 厚さ8cm), 12.9m～13.44mの地点(幅54cm, 厚さ8cm), 16.1m～16.5mの地点(幅40cm, 厚さ4cm)の部分でしか確認できなかった。この区域では、Ⅲ層の途中から準大の礫が多くなった。

北側壁面を精査中、縄文時代後期末から晩期の土器の肩部付近が確認できたので、セクションベル

トを丁寧に崩しながら掘り下げると、D-2区にまたがる埋設土器30(見SJ84)が検出された。遺物の出土状況は、北東側が濃密で、ここから多く出土している。



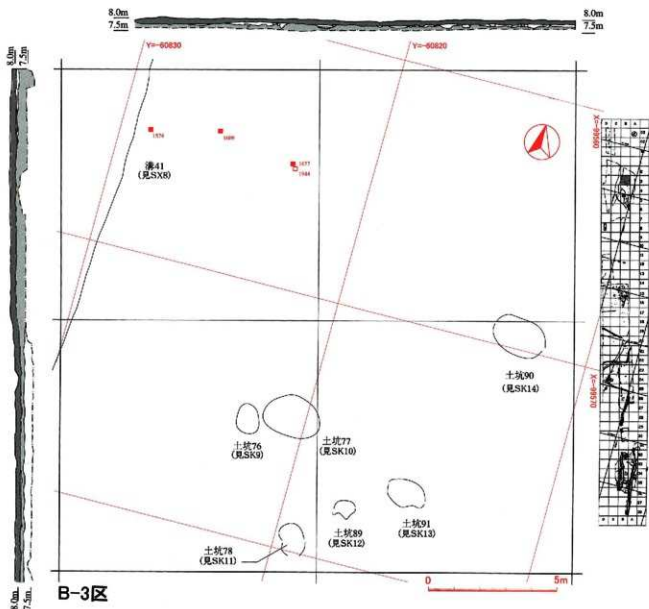
第28図 遺構検出及び遺物出土状況 (10) C-3区

### C-3区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.7m、低い所で7.4mである。西側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb層とした。

東側の大半は昭和40年代の川跡があった場所である。その近くで、縄文時代晩期のものと考えられる石溜り2（見SS3）を検出した。この遺構の礎は砂岩及び安山岩で構成されていた。

この範囲の遺物の出土状況は、石製土掘具や磨石、石鏃等石器類を中心に、全般的に広がっている。特に、東側と西側周辺部から、やや多く出土している。



第29図 遺構検出及び遺物出土状況 (11) B-3区

#### B-3区

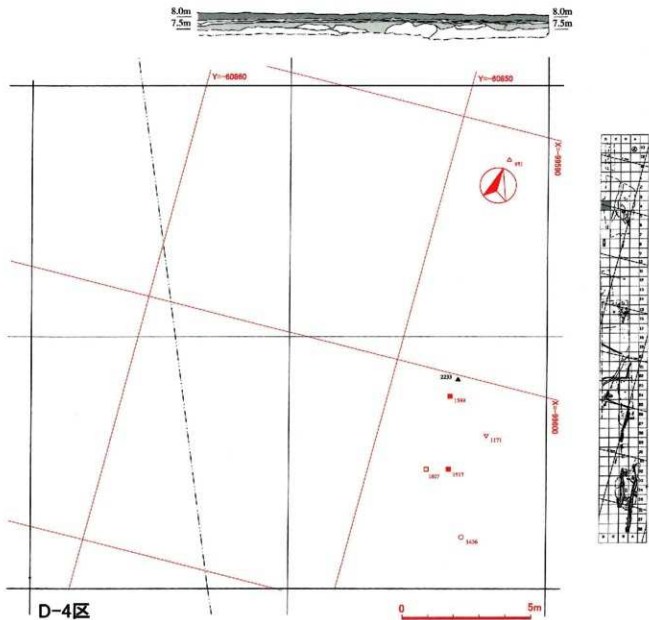
西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.91m、低い所で7.76mである。Ⅰ層はその堆積状況から、Ⅰb層とした。Ⅱ層は1.7m～1.9mの地点で幅20cm、厚さ約4cm、17.4m～18.4mの地点で幅1m、厚さ約4cmしか存在しないことから、後世に削平を受けていたことが考えられる。17.04m～17.4mの地点で、Ⅰ・Ⅱ層とⅢ層の間に、幅40cmで厚さ約5cmの灰色土の層を確認した。北西側は昭和40年代以前の川跡である。

南側半分から、中世後半のものと考えられる土坑76 (見SK9)・77 (見SK10)・78 (見SK11)・89 (見SK12)・91 (見SK13)・90 (見SK14) を検出した。埋土は、青灰褐色シルト質土であった。土坑77の中からは、多

くの礫を検出した。これらの土坑の用途は不明である。

遺物の出土状況は、縄文時代の遺物が北側の方に多く、特に北西側で集中して出土している。石製土掘具が目立つ。





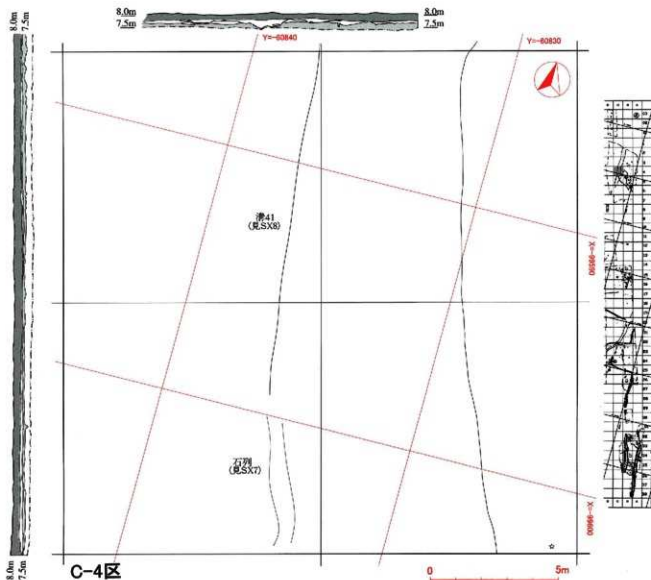
第30図 遺構検出及び遺物出土状況 (12) D-4区

#### D-4区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.8m、低い所で7.64mである。Ⅰ層はその堆積状況から、Ⅰ・Ⅰb層とした。Ⅲ層の下部に砂礫層が堆積している部分を確認した。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、東側より点在する形で出土している。

V層の礫層が上面まで浮いて出てきている場所がみられ、Ⅲ層上面でも一様ではない。遺物は東側に寄って出土した。特に石製土製土器が目立つ。



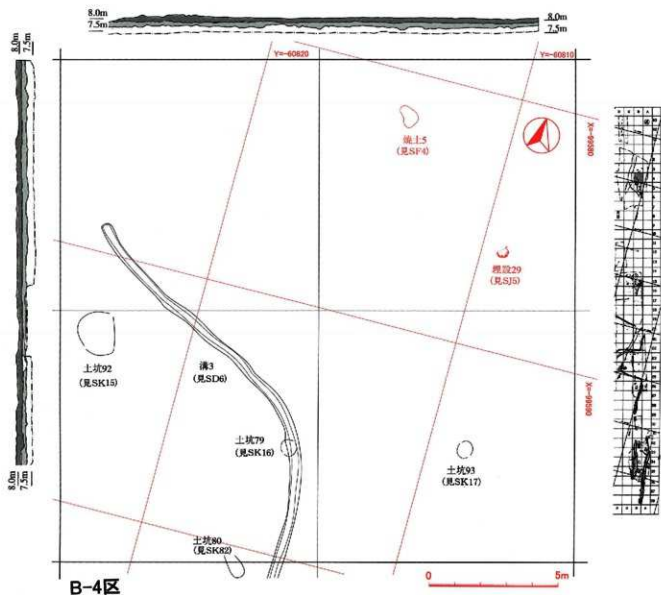
第31図 遺構検出及び遺物出土状況 (13) C-4区

#### C-4区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.76m、低い所で7.44mである。北側壁面のⅢ層は、7.3m～8.8mの地点にかけて、幅1.5mの範囲で、最深部が32cm下方へ落ち込んでいるのを確認した。また、この壁面の8.56m～9.5mの地点、10.12m～11.9mの地点、11.96m～13.7mのⅠ層とⅢ層の間に、灰色砂質土の層が約8cm～16cmの厚さで堆積しているのを認めた。中央部分を昭和40年代以前の川跡が南流しており、礫や砂が多かった。この川跡に流し込むための木製の樋が両側にみられたが、昭和年間のものであると判断し記録しなかった。C-5区から延びてきた石列（見SX7）は北端で西側へ屈曲している。溝状遺構41（見SX8）の西側を掘り込んで、栗

石を敷きつめてある。栗石には白い物質がこびりついており、石灰を固めたものではないかと思われる。この部分は昭和40年代の地籍図に描かれており、位置を対応させることができる。

この範囲からは、他の遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、全般的な範囲から出土しているが、周辺部から点在する形で出土している。



第32図 遺構検出及び遺物出土状況 (14) B-4区

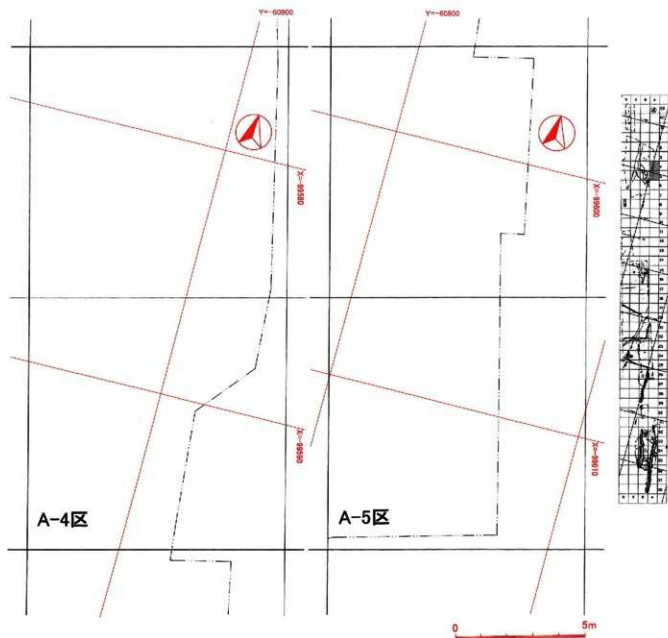
#### B-4区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.91m、低い所で7.8mである。Ⅱ層は北側壁面では6.7m～7.2m間の厚さ約4cm、西側壁面では7.46m～8.3mの84cmしか存在しないことから、削平を受けていたと考えられる。

この範囲から、縄文時代後期終末から晩期のもと思われる焼土5(見SF4)と埋設土器29(見SJ5)、古代前半のもと思われる溝状遺構3(見SD6)、中世後半のもと思われる土坑92(見SK15)・79(見SK16)・93(見SK17)を検出した。溝状遺構3の埋土は黄灰褐色粘質土であり、土坑よりは明らかに古い。

北西方向にカーブして、端部は閉塞している。土坑92・79・93の埋土は共にしまりがなく、柔らかい青灰褐色シルト質土であった。土坑79からは、多くの礫を検出した。この土坑の用途は不明である。

遺物の出土状況は、この範囲全般的に出土しており、南側に比べて北側からの出土がやや多い。



第33図 遺構検出及び遺物出土状況 (15) A-4・5区

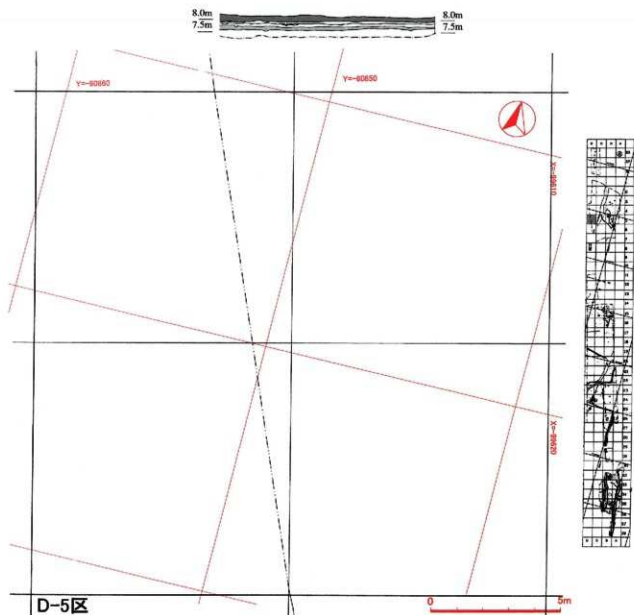
#### A-4区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.9m、低い所で7.6mである。北側壁面の7.3m～9.4mの地点でⅢ層中に幅2.1m、厚さ約32cmの直径5mm～100mmの礫が混入し、しまった砂質土が間に入る砂礫層を確認した。西側壁面の12.2m～13mの地点Ⅲ層中には、礫が集まっている所を確認した。北側壁面の44cm～90cmの地点にかけて、幅46cm、深さ10cmの灰色土の遺構らしき埋土を検出したが、形状を明らかにすることはできなかった。この範囲からは、遺物は出土しなかった。

#### A-5区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8m、低い所で7.8mである。北側壁面及び西側壁面のⅠ層は、その堆積状況から共にⅠ・Ⅰb層とした。北側壁面の3.1m～5.2mの地点では、Ⅰ層・Ⅰb層とⅢ層の間に、西側壁面15m～19.5mでは灰黄褐色土の層が幅4.5m、厚さ約12cmにわたって地積しているのが確認された。Ⅲ層は、17.1m～17.76mの地点の幅65cmで厚さ約16cm、18.5m～19.5mの地点では幅1mで厚さ約12cmの部分のみに堆積していた。

この範囲からは、遺構、遺物とも検出されなかった。



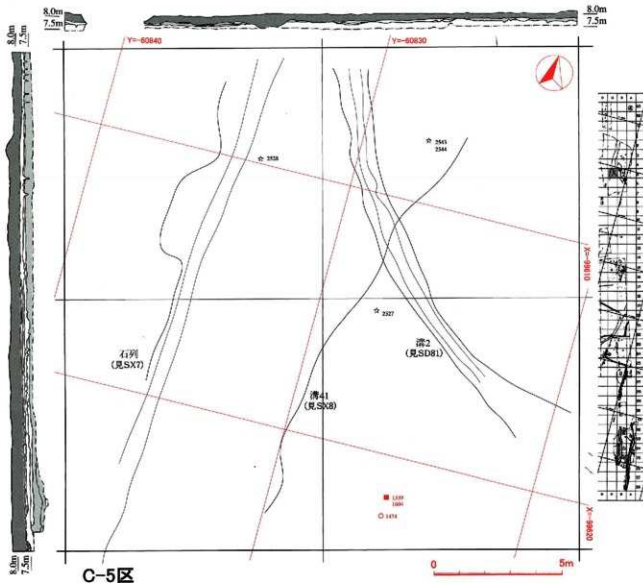
第34図 遺構検出及び遺物出土状況(16) D-5区

D-5区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.96m、低い所で7.9mである。

この範囲からは、遺構及び遺物とも検出されなかった。

層位はしっかりしており、後世に削平された様相はみられなかったが、遺物の出土はほとんど無かった。縄文時代の生活区域の南西端であったことが窺える。



第35図 遺構検出及び遺物出土状況 (17) C-5区

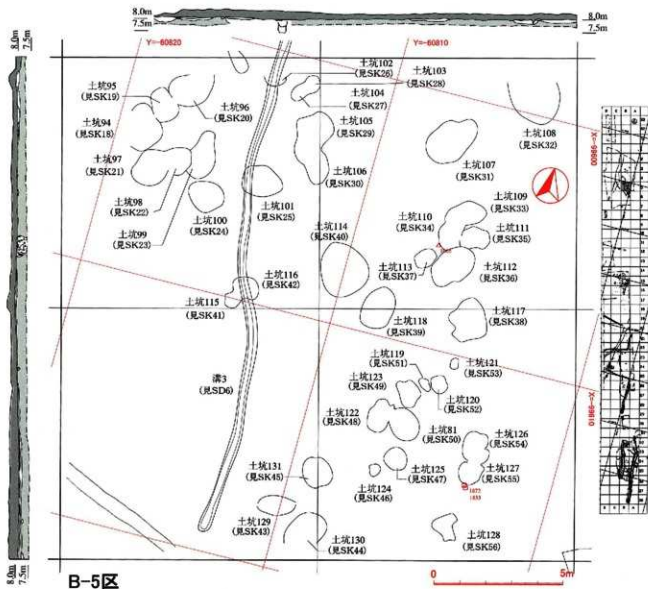
#### C-5区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.84m、低い所で7.5mである。西側壁面Ⅲ層の0.76m～3.7mの地点はその堆積状況から、Ⅲ・Ⅲb層とした。また、この壁面では1.7m～2.1mの地点でⅢb層下部に幅40cm、厚さ約12cmの緑色土を、5m～17.6mのⅡ層とⅢ層の間に灰色砂質土の層を確認した。北側壁面では15m～15.6mの地点にかけての厚さ約28cmほどの粘質土は、Ⅲ層とよく似ており、Ⅲ層に赤味がかかった土と青灰色が混ざった感じの土である。

この区の中央部は砂礫が多く、中世から近世にかけて造られた河川跡ではないかと考えられる。この中から、14世紀に使われていたと考えられる青磁が

出土した。また、その下にもぐり込む様にして溝状遺構2（見SD81）が検出された。確たる証拠はないが、幅や断面形、それにゆるくカーブする点が他の溝状遺構に類似することから、道跡ではないかと考えられる。

遺物の出土状況は、石器類や陶磁器類が多く出土しており、特に東側からの出土が多い。



第36図 遺構検出及び遺物出土状況 (18) B-5区

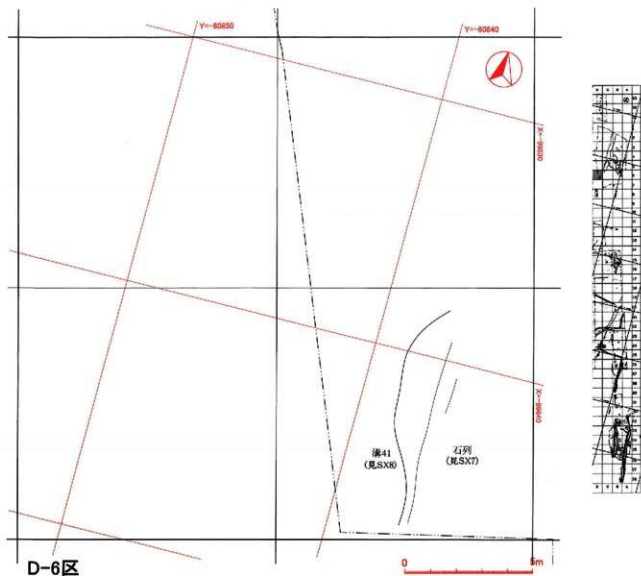
#### B-5区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で8.38m、低い所で8.02mである。

この範囲は、中世後半と考えられる土坑が最も集中したところであり、40基（見SK18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・82）を検出した。重複した土坑が多いことから長期に渡って使われたと考えられる。用途が不明であることから一つの土坑がどれぐらいの期間使われたのか解らない。土坑81（見SK50）・80（見SK82）の中からは、礫も検出した。これらの土坑の埋土は、しまりがなく柔らかい青灰褐色シルト質土である。

溝状遺構3（見SD6）の南半分がこの区で検出され、端部は北側と同様閉塞されている。南西側には溝状遺構2（見SD81）がある。床面しかとらえられなかった。

遺物の出土状況は、全般的な範囲で出土しているが、遺物の量は少なく、範囲内から点在する形で出土している。

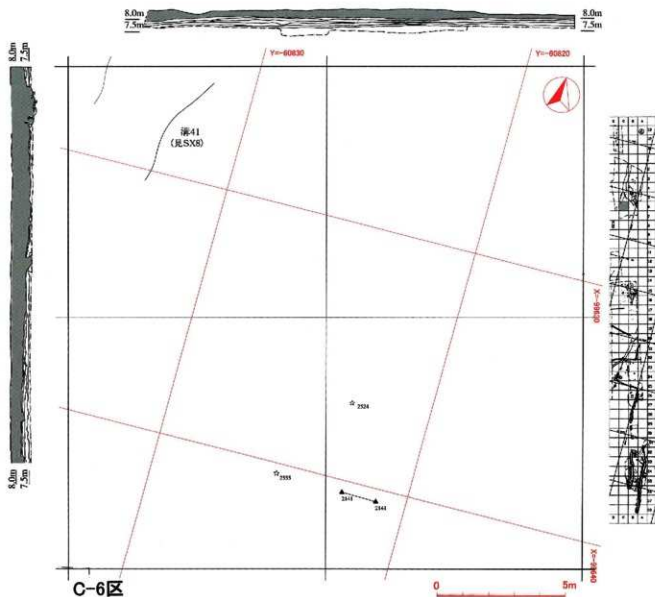


第37図 遺構検出及び遺物出土状況 (19) D-6区

D-6区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.76mである。溝状遺構41(見SX8)と石列(見SX7)の西側縁の延長を検出した。C-5区との間は確認トレンチで掘り下げられており、図上での復元となった。このような事情から掘る部分も限られており、この範囲からは、遺物は検出されなかった。



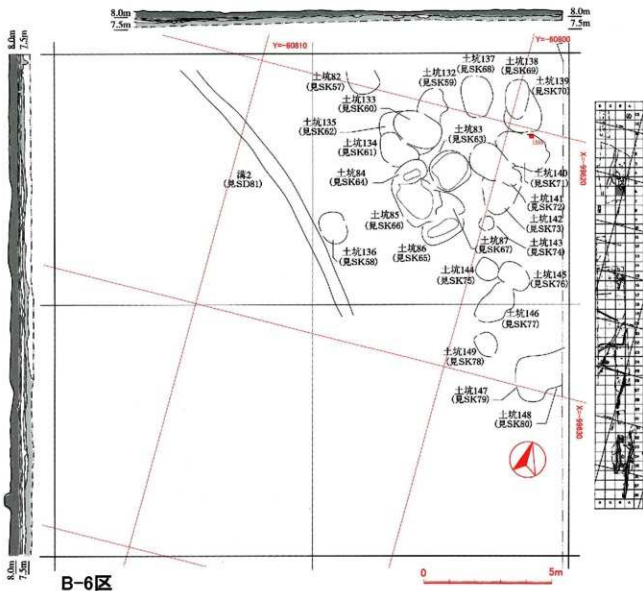


第38図 遺構検出及び遺物出土状況 (20) C-6区

#### C-6区

C-5区から続く場所で、北側壁面のII層下部全般に灰褐色、暗灰色、黒灰色の層が堆積している。西側壁面でも同様に堆積しており、西側壁面の12.38m～12.58mの地点にかけて幅20cm、厚さ約5cmの青色のグライ土と思われる層が確認できた。また、北西側壁面17.5m～19.2mの地点において、江戸時代～近代にかけての水路の石組と思われる石列（見SX7）を検出した。このことから、この範囲は中世～近世にかけて造られたと思われる川の跡ではないかと考えられる。広い範囲で安定した地層であったが、他に遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況としては、中心に向かって南北にかけて出土している。特に南側からの出土が多い。



第39図 遺構検出及び遺物出土状況 (21) B-6区

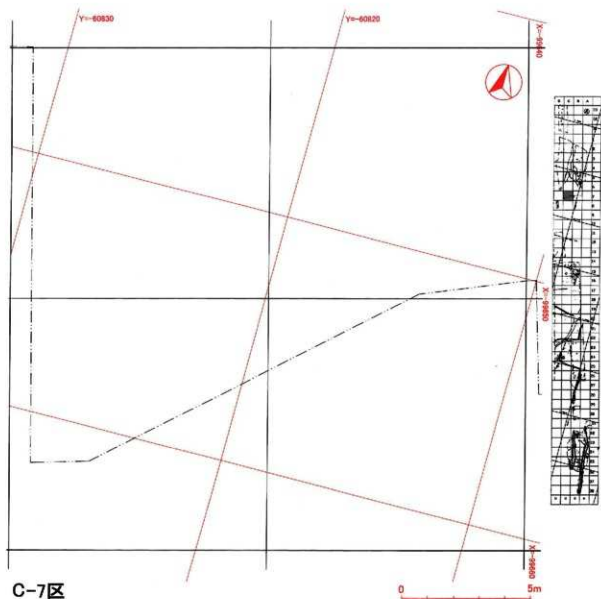
#### B-6区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8m、低い所で7.82mである。

この範囲では、古代～中世のものと思われる溝状遺構2(見SD81)、中世後半と考えられる土坑25基(見SK41・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80)を検出した。土坑は北東部分に集中している。土坑83(見SK63)・84(見SK64)・86(見SK65)・85(見SK66)・87(見SK67)の中からは、礫も検出した。溝状遺構2の埋土は、黄灰色粗砂である。溝状遺構2の南西側は一段低くなっており、遺構も遺物も少なかった。土坑82(見SK57)・132(見SK59)・133

(見SK60)・134(見SK61)・135(見SK62)・83・84・86・85・87・137(見SK68)・138(見SK69)・139(見SK70)・143(見SK74)・149(見SK78)・147(見SK79)・148(見SK80)の埋土はしまりがなく柔らかい黄灰褐色シルト質土であり、土坑136(見SK58)・140(見SK71)・141(見SK72)・142(見SK73)・144(見SK75)・145(見SK76)・146(見SK77)の埋土はしまりがなく柔らかい茶褐色シルト質土で、土坑115(見SK41)の埋土はしまりがなく柔らかい青灰色シルト質土である。これらの土坑の使用は不明である。

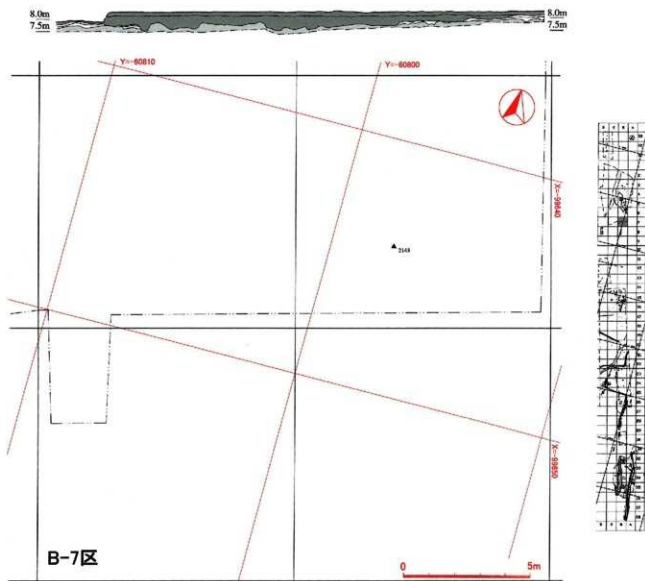
遺物の出土状況は、遺物の量は少なく、西側から点在する形で出土している。図化した縄文時代の遺物は右製土掘具の1点のみである。



第40図 遺構検出及び遺物出土状況 (22) C-7区

C-7区

C-6区で土師器片が若干出土したので、追跡した区域である。確認トレンチ部分で確かめながら、層がしっかり堆積していた部分のみを掘り下げた。しかし、遺構はなく、遺物包含層の確認もできなかった。



第41図 遺構検出及び遺物出土状況 (23) B-7区

#### B-7区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.93m、低い所で7.66mである。0.6m～2.5mの地点でⅡ層とⅢ層の間、13.9m～15mの地点でⅠ層とⅢ層の間、16.5m～19.5mの地点でⅠ層とⅢ層の間に灰色粗砂土が堆積しているのが確認された。また、3.5m～3.8mの地点でⅡ層とⅢ層の間には灰色粗砂土が堆積しているのが確認された。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、敷点が点在するのみである。

#### D-8区

本来調査対象の範囲外であったが、昭和40年代の地形図によると条里型地割大区画の交点にあたる部分であり、工事予定地内に入っていたので、協議の上調査した。

調査の結果、出てきたものはビニール等も含まれており、昭和年間まで下ることがわかった。溝状遺構42 (SR2) として道状の湾曲した部分もみられたが、どれぐらい古くまでさかのぼるかはわからなかった。はっきりした区画はわからなかったけれども、昭和40年代の区画とはほぼ重なる地点であることは明らかとなり、この周辺では当時の状況が残っていると考えられる。

#### D-11区

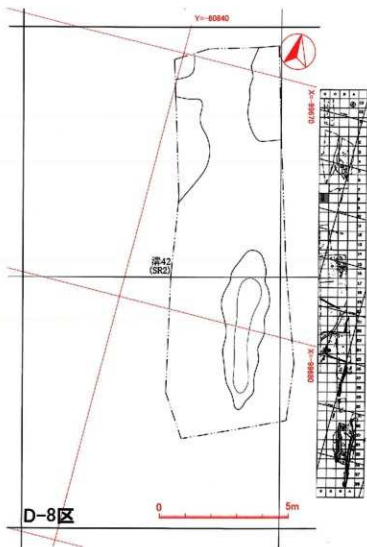
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.16m、低い所で8.1mである。西側壁面の7.9m～8.2mの地点にかけて、幅30cm、厚さ約16cmの明灰褐色上の層が確認できた。この範囲からは、溝状遺構14 (SD1) が東西方向に検出された。このことから条里型地割の一部と考え、東側へ追えるだけ追ったが、B-12区に入ったところで消滅してしまった。出土した遺物は須恵器が一片である。途切れた部分からさらに東側へ13mをバックホーのバケット幅で確認したが、すでに削平されている様だった。

遺物の出土状況は、古代以降はほとんどみられなかったが、縄文時代の遺物が中心部分と南西の端側から多く出土している。

#### C-11区

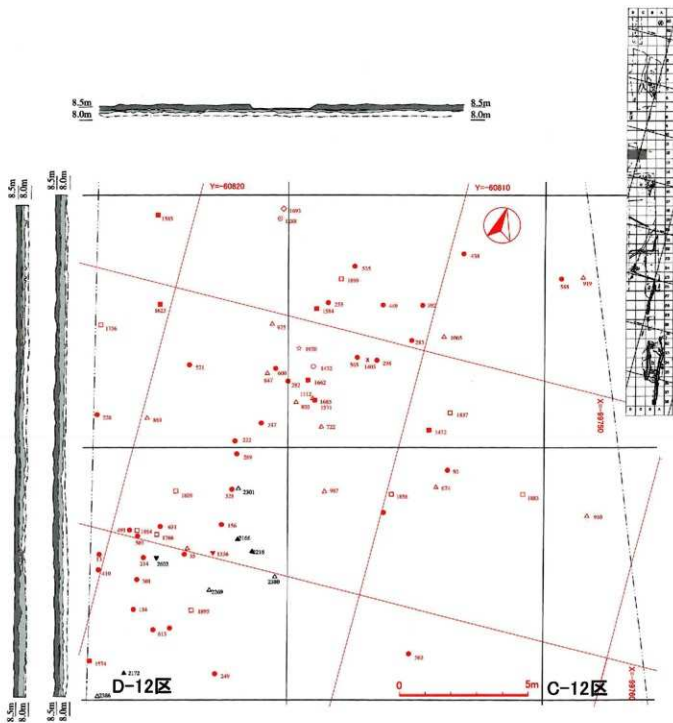
西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.36m、低い所で8.3mである。

D区から延びてきた溝状遺構14 (SD1) がさらに東西方向に延びている。遺物は、縄文時代及び古代のものがわずかながらみられる。



第42図 遺構検出及び遺物出土状況 (24) D-8区





第44図 遺構検出及び遺物出土状況 (26) D・C-12区

**D-12区**

北側壁面・西側壁面の皿層上面の標高は、高い所で8.36m、低い所で8.3mである。西側壁面の5m～5.64mの地点でI層とIII層の間に幅64cm、厚さ約8cmのややしまる砂礫層の堆積を確認した。この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、全般的に遺物の量は濃密である。縄文時代の遺物は中心部分に多く出土した。縄文時代後期終末か

ら晩期にかけての時期であるが、黒川式土器などのやや新しいものが目立つ。ストレートな口縁部をもつ土器は他のグリッドよりも多い。石器も多彩な種類が出土しており、石製土掘具と磨石類が多くみられる。

古代以降の遺物は南西部分から集中して多く出土している。





### C-13区

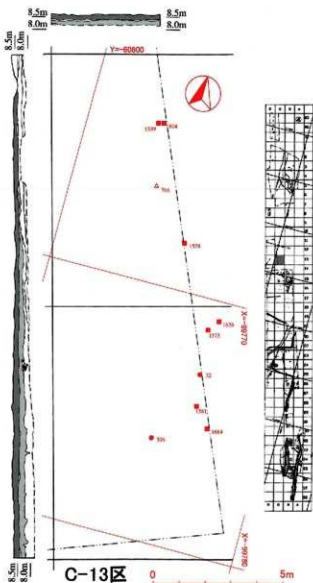
西側壁面でのⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.3mである。

この範囲から、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、西側の方からしか出土しておらず、特に、南西方向が濃密であり、集中して出土している。

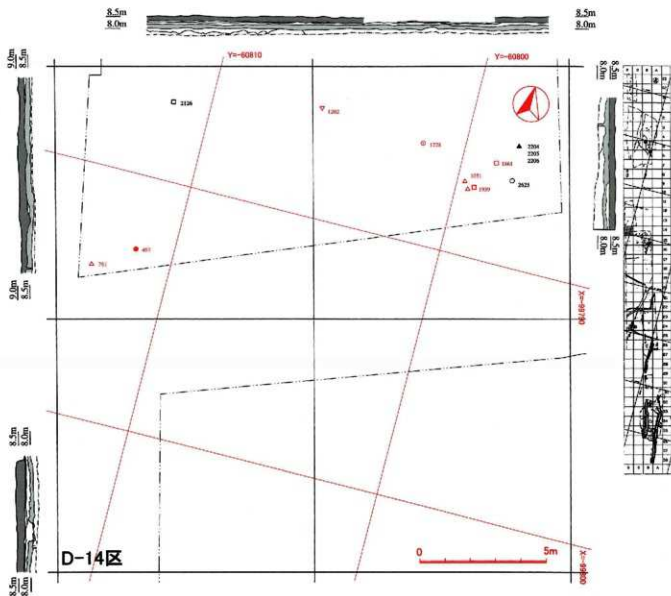
### D-14区

この区の中央部分に東西方向で幅5mの農道があり、その両側を調査した。遺構はなかったけれども、北側部分からは縄文時代の遺物が多く出土した。北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.56m、低い所で8.0mである。Ⅱ層は北側壁面、西側壁面ともその堆積状況からⅡ・Ⅱb層とし、また北側壁面のⅢ層はその堆積状況からⅢ・Ⅲb層とした。北側壁面のⅣ層の下に、Ⅲb層に類似しているもののⅢb層よりもしまりがある層を確認することができたので、これをⅣ'層として分類した。西側壁面では、Ⅳ層の下に粘性が強くしまりがある青色土の層が堆積しているのが確認できた。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、農道より北側からしか出土しておらず、ここからの出土が多い。これは、昭和40年代の圃場整理の際、道路を挟んで南側を深く掘り下げたためではないかと思われる。縄文時代の石器が多い。



第46図 遺構検出及び遺物出土状況 (28) C-13区



第47図 遺構検出及び遺物出土状況 (29) D-14区

#### C-14区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.44m、低い所で8.3mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱb層と分類した。Ⅲ層も西側壁面では微妙な違いがみられる。

遺構として認定したのは、C-15区から延びてくる不明遺構3 (SX75) であり、次第に北へ先細りしていく。北西側にある平行した線は、この部分のみ色調が灰褐色をしていたので記録した。遺構名は付けていない。北側中央部分にある土坑状のものは、埋土との区別が可能であったが、水路で切られていることと、遺物が出土しなかったことから、遺構番号は付さなかった。遺物の検出状況は、石器類や縄文土器等が多く出土している。出土地点は、南東側方向が濃密であり、

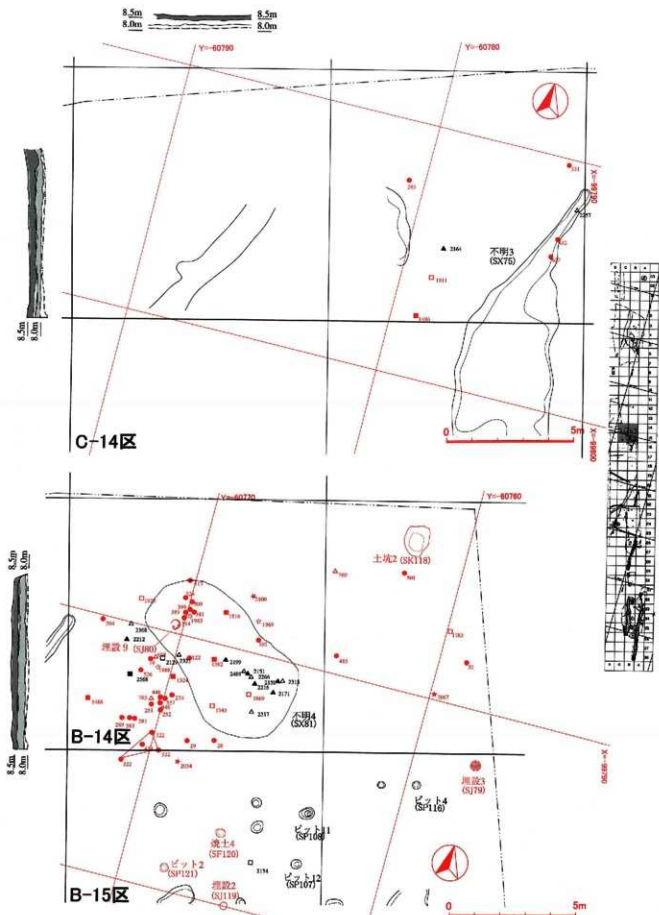
ここから集中して出土している。

#### B-14区

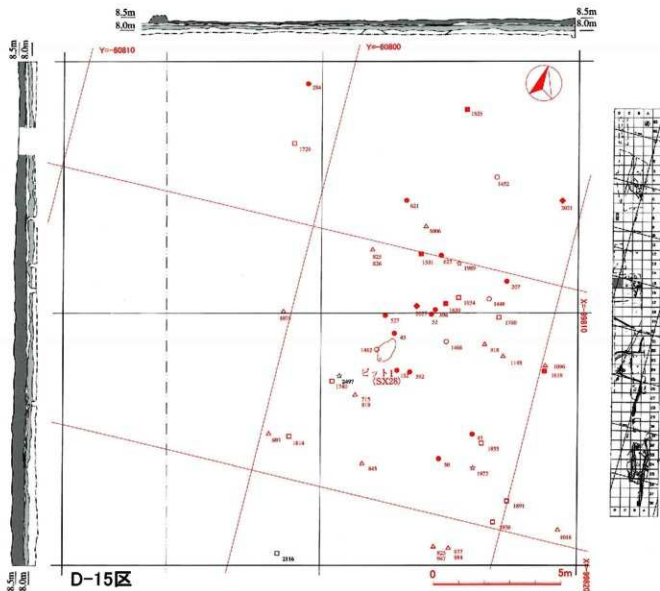
西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.32mである。現在使われている農道を挟むため、7mの地点までしか調査ができなかった。

この範囲から縄文時代の埋設土器3 (SJ79)・9 (SJ80)、同じく縄文時代の土坑2 (SK118)、古代の焼土遺構 (SF20)、同じく古代の不明遺構4 (SX81) を検出した。焼土遺構については、掘り下げていくと焼土粒が広がって遺物と混在してきたため、結局不明遺構4と同一のものかと判断した。

遺物の出土状況は、縄文時代及び古代ともに中心部分から南西方向で多量に出土しており、濃密である。



第48図 遺構検出及び遺物出土状況 (30) C・B-14区



第49図 遺構検出及び遺物出土状況 (31) D-15区

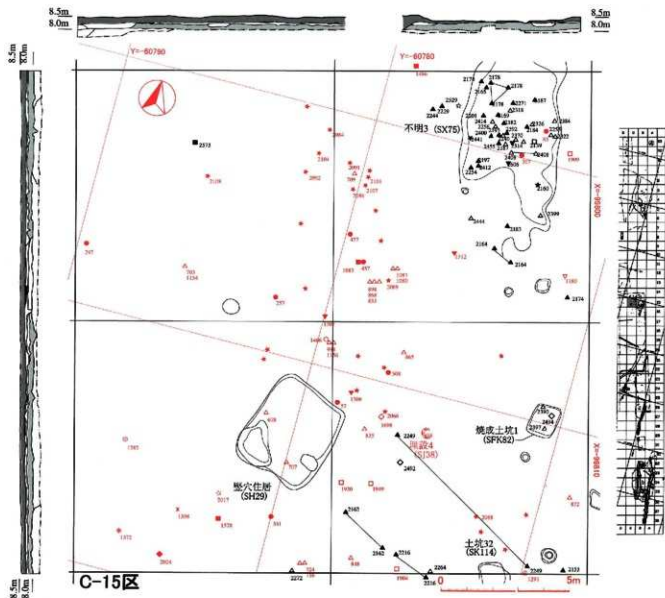
#### D-15区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.24m、低い所で7.88mである。北側壁面のⅢ層は、その堆積状況から、Ⅲ・Ⅲ'層とした。北側壁面、西側壁面のⅡ層をその堆積状況から、北側壁面をⅡb層、西側壁面をⅡb'層と分類した。特に西側壁面のⅡb層、Ⅱb'層の中に炭化物の混入が確認された。

古代の遺構・遺物はほとんどなく、この時期の生活場所はC-15区以東であったと考えられる。一方、縄文時代にはこの区域まで生活場所が広がっていたと考えられる。この範囲から、縄文晩期のもと思われるピット(SX28)を検出した。この遺構の埋土は、炭化粒を多く含む粘質が強い。この遺構からは、

縄文土器の土器片が出土した。

遺物の出土状況は、石斧・石製土瓶具・磨石・石鏃・異形石器・石皿・勾玉・管玉・縄文土器、それに陶磁器等が出土しており、非常に濃密である。遺物の出土は、全体的な範囲から出土しているが、西側にいくにつれて、やや量を減じている。縄文時代は後期後半の上加世田式土器が他のグリッドよりも多く出土している。



第50図 遺構検出及び遺物出土状況 (32) C-15区

### C-15区

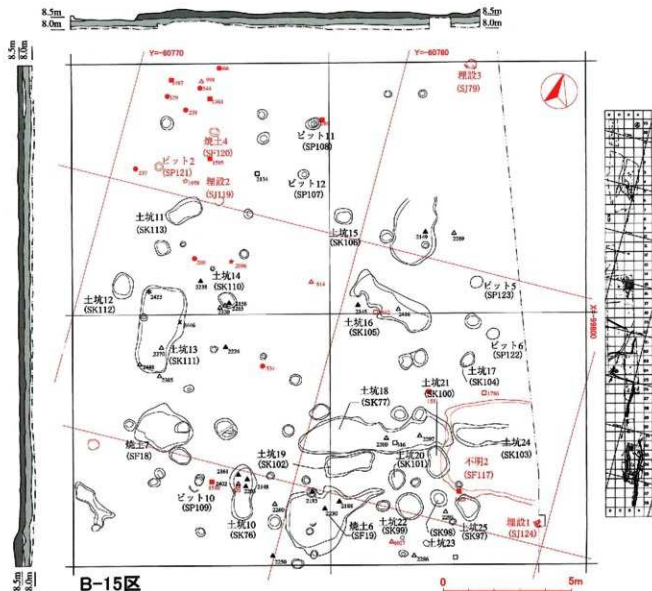
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.36m、低い所で8.13mである。Ⅱ層をその堆積状況から、Ⅱb・Ⅱb'層として分類した。北側壁面18m～19.04mの地点にかけて、Ⅰ層下部とⅢ層上部の間に、幅1.04m、厚さ約12cmの灰黄色粘質土の層が堆積していた。また、北側壁面の22.7m～23.7mの地点にかけて、Ⅱa層下部とⅢ層上部の間に、幅1m、厚さ約12cmのマンガンが混入している青灰色粘質土の層が堆積していた。中央より東側には排水路がつけられており、寸断されていた。

この範囲からは、縄文時代後期後半のものと思われる埋設土器4 (SJ38)、古代前半のものと思われる竪穴住居跡 (SH29)、古代のものと思われる焼土を伴

う土坑1 (SFK82)、同じく古代のものと思われる土坑32 (SK114) を検出した。

これらの遺構からの出土遺物としては、竪穴住居跡からは底部が丸平底となる土師甕、焼成土坑1からは須恵器・土師器・土鏝、不明遺構3 (SX75) からは須恵器・土師器・鉄製品・獣骨等が出土した。

この範囲からの遺物の出土状況としては、石器類・勾玉・管玉・縄文土器・須恵器・土師器等が出土している。その中でも特に縄文時代後期末の玉類が多く、この区全般的に出土しており濃密である。中心部と北東方向から多く出土している。



第51図 遺構検出及び遺物出土状況 (33) B-15区

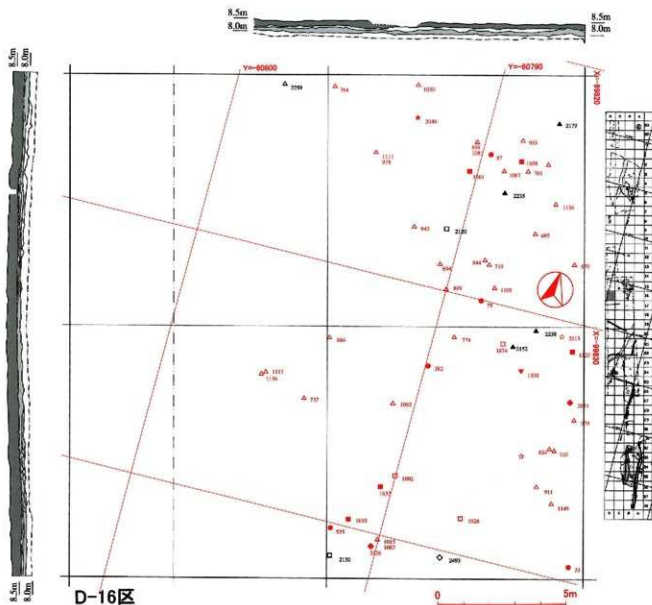
#### B-15区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.3mである。この範囲はⅠ層→Ⅲ層→Ⅳ層となっており、Ⅱ層がないことから、昭和40年代の耕地整理で、削平されたものと考えられる。

この範囲から、縄文時代のものと考えられる埋設土器2 (SJ119)・埋設土器1 (SJ124)、古代前半と考えられる焼土遺構2基 (SP6・7)、古代の土坑16基 (SK76・77・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・110・111・112・113)、古代のピット4 (SP116)・6 (SP122)・5 (SP123)を検出した。土坑やピットの埋土には、焼土粒や炭化粒が含まれている遺構もあった。すべてのピットに名称をつけた

わけではなく、遺物が出土したものや、特徴的な形状及び埋土堆積状況を示すものだけに遺構名をつけた。ピットもいくつか検出したが、並べられなかった。この範囲の遺物は、縄文時代の埋設土器の他に、土坑・ピット内部より、土師器・須恵器・轆の羽口等が出土した。

遺物の出土状況としては、石製土掘具・磨石・玉等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等が中心部に向かって弧を描くような形で大量に出土した。特に中心から周辺部に行くほど、遺物の量が多く濃密である。

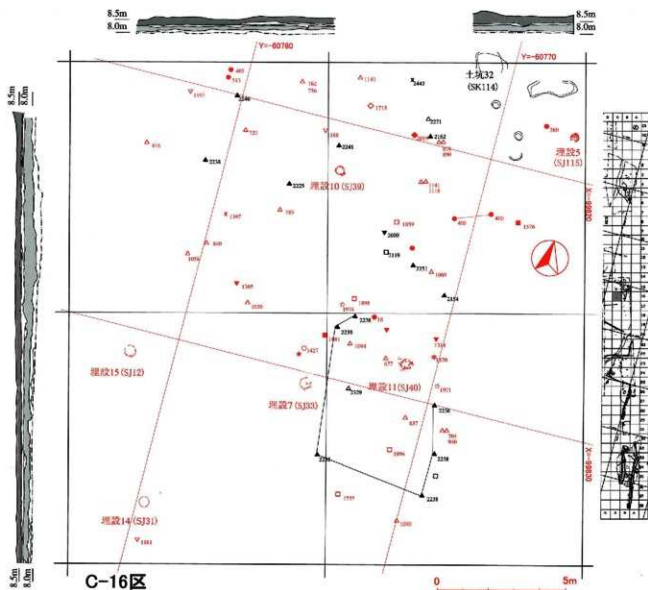


第52図 遺構検出及び遺物出土状況 (34) D-16区

#### D-16区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.04mである。北側壁面のⅡ層は、その堆積状況からⅡ・Ⅱb層とした。また、西側壁面では、Ⅱb層に炭化物が入ったものを確認したのでⅡb'層とし、Ⅲ層に暗灰褐色土でマンガン分が少量入ったややしまっている層を確認したので、これをⅢb層として分類した。

遺物の出土状況は、非常に濃密であり、特に石鏡が多く出土しており、またこの範囲の西側寄りに、縄文土器や須恵器等の多量の遺物が出土している。縄文土器は古手のものが多い。



第53図 遺構検出及び遺物出土状況 (35) C-16区

#### C-16区

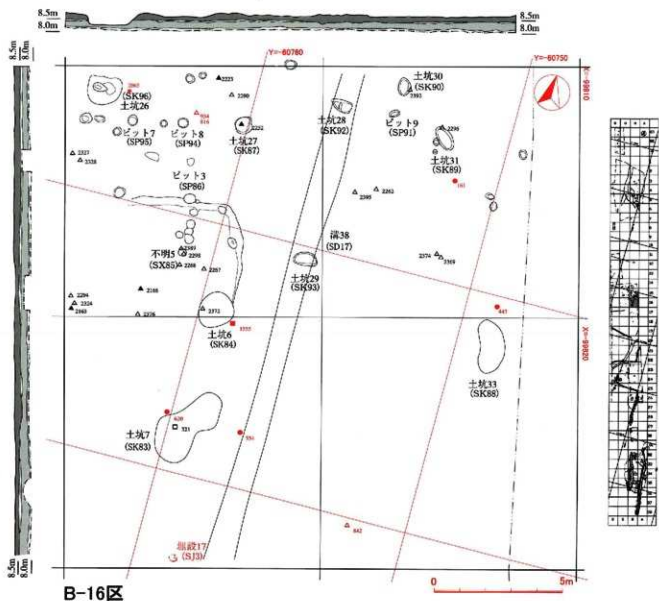
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.16mである。西側壁面のⅡ層及びⅣ層は、その堆積状況からⅡ・Ⅱb・Ⅱb'・Ⅱc、Ⅳ・Ⅳ'層とした。

この範囲からは、縄文時代後期のものと思われる埋設土器15 (SJ12)・14 (SJ31)・7 (SJ33)・10 (SJ39)・11 (SJ40)・5 (SJ115)を検出した。ある程度の間隔をおくことから並ぶかとも考えたが、確実な関係はつかめなかった。古代の遺構は北東隅に限られており、当時の主体的な生活空間の南西端にあたる様である。

遺物の出土状況は、凹石・磨石・石鏃等の石器類や、縄文土器・土師器・須恵器・土鏃等この範囲で

全般的に出土しており、濃密である。特に中心部に弧を描くような形で多く出土している。D-16区に続いて石鏃の点数が目立っている。





B-16区

第54図 遺構検出及び遺物出土状況 (36) B-16区

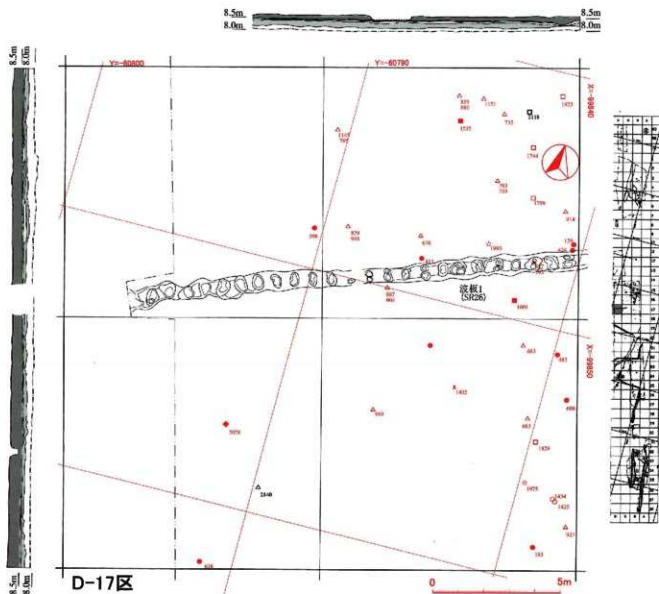
#### B-16区

北側壁面と西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.3mである。北側壁面の0.8m～2.8mの地点にかけて削平されていた。

この範囲からは、縄文時代後期のものと思われる埋設土器17 (SJ3)、古代のものと思われる土坑9基 (SK83・84・87・88・89・90・92・93・96)、古代のものと思われるピット3 (SP86)・9 (SP91)・8 (SP94)・7 (SP95)、古代のものと思われる不明遺構5 (SX85)、近世以降のものと思われる溝状遺構38 (SD17) を検出した。土坑やピットの埋土には、焼土粒や炭化粒が含まれているのもあった。この範囲の遺物は、縄文時代の埋設土器の他に、土坑・ピット内部から、土師質の土器、土師甕の口縁部と甕の

底部と考えられるもの、安山岩の礫、須恵器片等が出土した。溝状遺構38は表土除去後に精査したところ、この部分だけ筋状にサビ色をしていた。通常の遺構のつもりで掘り下げてみても、底面及び壁面ははっきり出てこなかった。おそらく上部に存在していたと考えられる溝状遺構の痕跡と判断した。ちょうど南北方向にあることから、条里型地割に関するものと考えられる。

遺物の出土状況としては、中心部からはあまり出土せず、北東・北西・南西より中心部に向かって弧を描くような形で、縄文土器や土師器・須恵器等が出土していた。南側では縄文時代及び古代以降ともに遺物の出土量が減ってきている。



第55図 遺構検出及び遺物出土状況 (37) D-17区

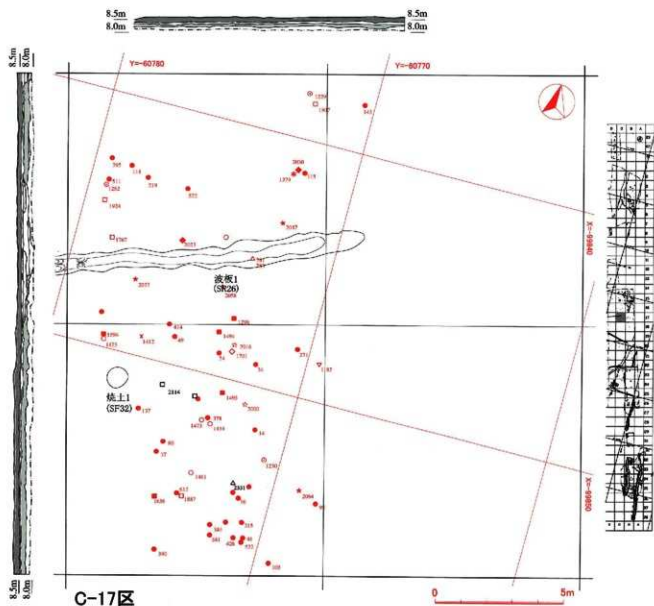
#### D-17区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で8.43m、低い所で8.2mである。北側壁面のⅡ層は、下部に白灰色の層を確認したのでⅡb層とした。また、西側壁面では、Ⅰ層の下部にⅠ層よりもややしまりがあり赤味がかっている層を確認したので、これをⅠb層とした。さらにⅡ層の中に炭澁じりの層を確認し、これをⅡb層とした。そしてⅡb層に似ているがⅡb層よりは粘性が強くしまりのある土の層を確認したので、これをⅡd層として分類した。

この範囲から、古代のものと思われる波板状凹凸面1 (SR26) を検出した。当初は遺構とはわからず、雨ががりにいつもこだけが筋状に早く乾くことから掘り下げたところ、底面が波板状となった。この

遺構から遺物は検出されなかった。

遺物の出土状況は非常に濃密であり、この範囲のより東側から石器類や縄文土器等の多量の遺物が出土している。また、D-16区の延長で石織の出土点数が目立つ。



C-17区

第56図 遺構検出及び遺物出土状況 (38) C-17区

#### C-17区

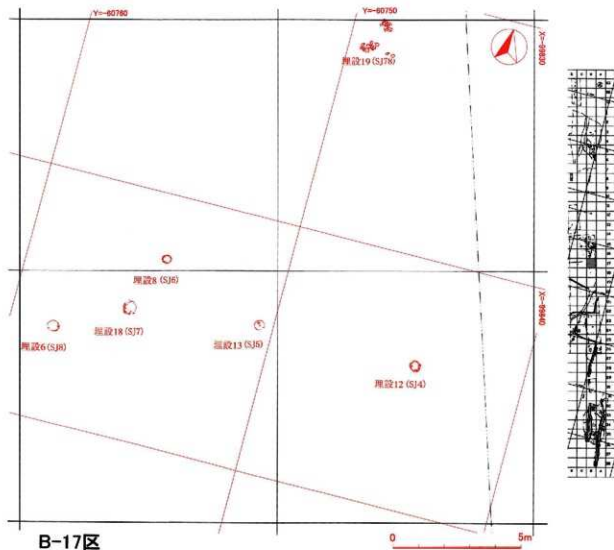
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.24mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb・Ⅱe・Ⅱf層とした。西側壁面の14.3m～15mの地点と19.6m～20m地点のⅡf層に、溝らしきものを認めたと、遺構としては判断しなかった。

この範囲では、西側壁面の12.2m～12.8mの地点のⅢ層上面で、幅60cm、厚さ約12cmの古代と考えられる波板状凹凸面1 (SR26) を検出した。波板状の凹凸がはっきりするのは西端のみであり、この区では単なる溝状遺構となって中央付近で消滅している。また、縄文時代の後期から晩期のものと思われる焼土1 (SF32) を検出した。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器・玉等が西

側の方から多量に出土しており、特に南西方向が濃密である。

東側は水路で寸断されているものの、縄文時代の遺物も見られず、波板状凹凸面1もこの付近で消滅していることから、後世に削平されたものと思われる。



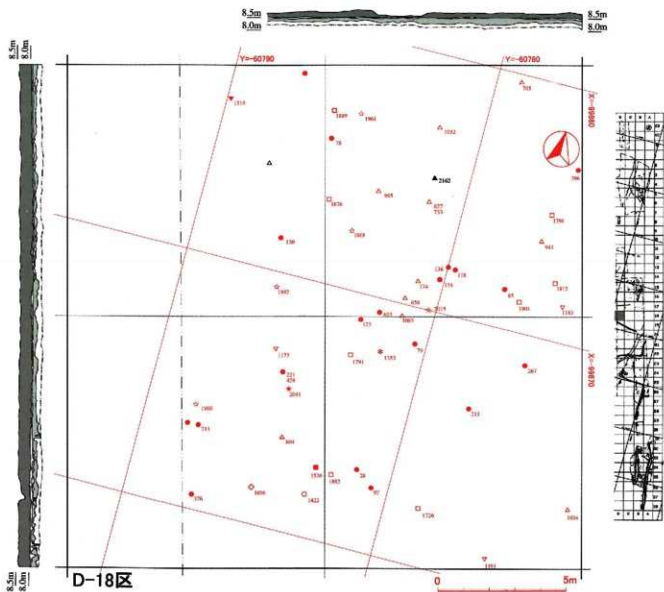
第57図 遺構検出及び遺物出土状況 (39) B-17区

#### B-17区

北側壁面については表土層直下がⅢ層の途中であり、西側壁面については水路によって削平されていたため、図化しなかった。

この範囲から、縄文時代後期後半から晩期のものと思われる埋設土器12 (SJ4)・13 (SJ5)・8 (SJ6)・18 (SJ7)・6 (SJ8)・19 (SJ78)を検出した。

埋設土器以外の遺構は検出されなかった。古代の遺構・遺物が全くなく、縄文時代の遺物の出土もなかった。さらに、埋設土器自体も半分より下部が辛うじて残っている状態であったことから、この範囲は後世に削平されたものと考えられる。

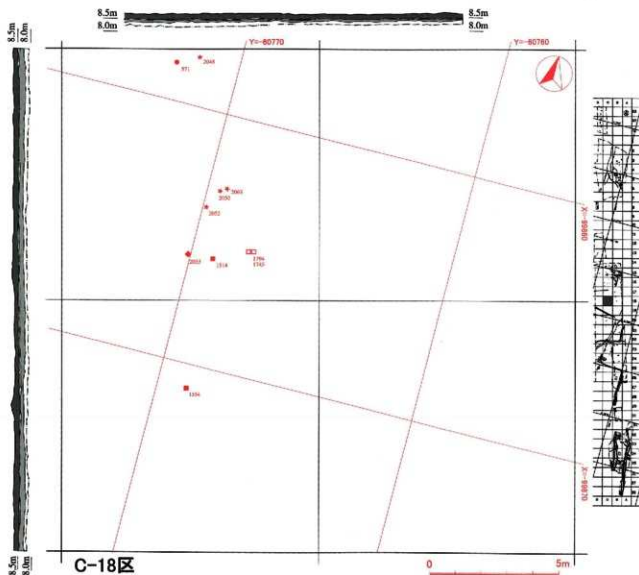


第58図 遺構検出及び遺物出土状況 (40) D-18区

#### D-18区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.42mである。北側壁面の11.8m～13.9mの地点にかけて1層が極端に薄くなるので、この部分は削平を受けていたことが考えられる。

この範囲から古代及び縄文時代の遺構は検出されなかった。古代の遺物はまばらであるが、縄文時代の遺物の出土状況は非常に濃密であり、この範囲の東西南北いたるところから石器類や縄文土器等の多量の遺物が出土している。特に、中心に向かって弧を描くように出土している。西側にも広がる様相がみられ、調査範囲外にも包含層が広がるとみられる。

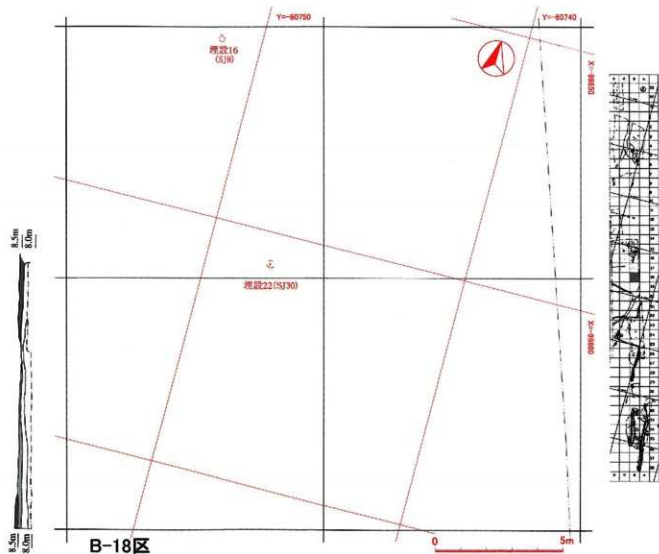


第59図 遺構検出及び遺物出土状況 (41) C-18区

#### C-18区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.4mである。北側壁面・西側壁面ともにⅡ層が薄い。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器等の遺物がやや西側に点在して出土している。玉類もこの区の北側までは出土しており、分布範囲が明らかである。東側は後世に削平されたものと考えられる。



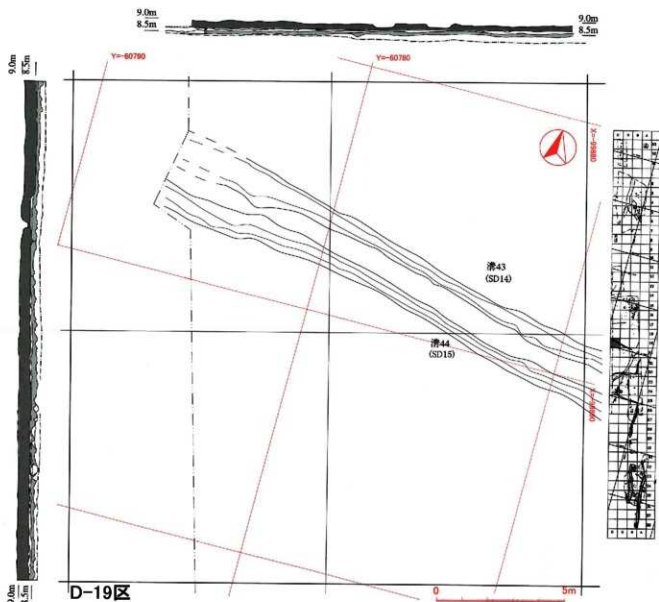
第60図 遺構検出及び遺物出土状況 (42) B-18区

#### B-18区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.4mである。この範囲の層位はⅠ層部分が、1.36mの地点～7.3mの地点まで無く、Ⅲ層上面が地表に現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。また、12mの地点から側溝工事のために深く掘られていた。

この範囲からは、縄文時代晩期のもと思われる埋設土器16 (SJ9)・22 (SJ30)を検出した。

埋設土器以外の遺物は検出されなかった。埋設土器も下半部しか出土しなかったことから、後世に削平を受けて辛うじて残ったものと考えられる。



第61図 遺構検出及び遺物出土状況 (43) D-19区

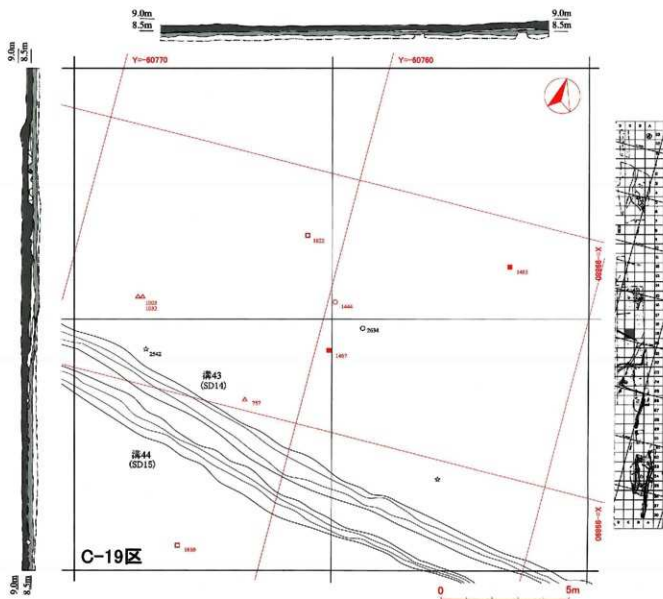
#### D-19区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.6m、低い所で8.3mである。北側壁面のⅠ層は、3.46m～4.5mの地点で削平を受けていたことが考えられる。Ⅱ層は、その堆積状況からⅡ・Ⅱb層とした。また、西側壁面のⅢ層はその堆積状況からⅢ・Ⅲ'層とした。西側壁面の0m～7.3mの地点では、Ⅱ層・Ⅱb層・Ⅱb'層・Ⅲ層・Ⅲ'層と細かく点在していることが確認された。

溝状遺構43 (SD14) と溝状遺構44 (SD15) が並行して東西方向に延びており、昭和40年代の地籍図に描かれた道跡と一致した。その他の遺物や遺構がないことから、後世に削平された部分ではないかと考えられる。条里型地割大区画の南東隅に位置するこ

とから、条里型地割の施工時期に旧地形の中では最も深く削平されたのではないかと考えられる。





第62図 遺構検出及び遺物出土状況 (44) C-19区

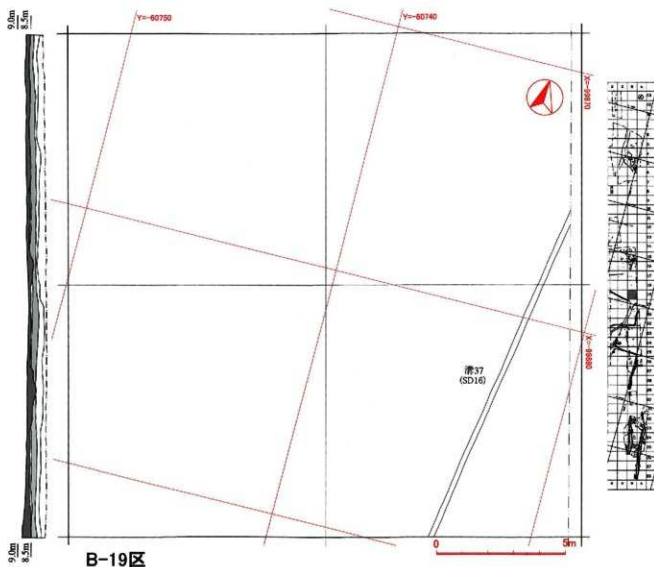
#### C-19区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.66m、低い所で8.46mである。北側壁面の3.24m～5mの地点にかけて、Ⅰ層とⅢ層の間に厚さ4cm程度の赤橙化した層が認められた。その堆積状況からⅠ層をⅠ・Ⅰb層（灰褐色土層：見人米遺跡で見られた溝の埋土に類似しており、乾燥すると灰白色になる）、Ⅱ層をⅡb・Ⅱe層（Ⅱb層よりマンガン分が多く、しまりが弱い暗灰褐色土）・Ⅱf層（Ⅱe層より粗く、マンガン分を含む黒灰褐色砂質土）とした。

南側には、近世～近代のものと考えられる、東西方向の溝状遺構43（SD14）・44（SD15）を検出した。これらの遺構の中から、近代陶磁器片や波瓦片、薩摩焼の摺鉢等が出土した。また、溝内には使用済み

の石炭が埋められており、駅周辺の利用状況が窺える。昭和40年代の地籍図に道路として表示されており、ちょうどこの部分であることがわかった。

遺物の出土状況は、石器類や縄土器・陶磁器類等が全般的な範囲から出土している。特に、南東方向から多く出土している。



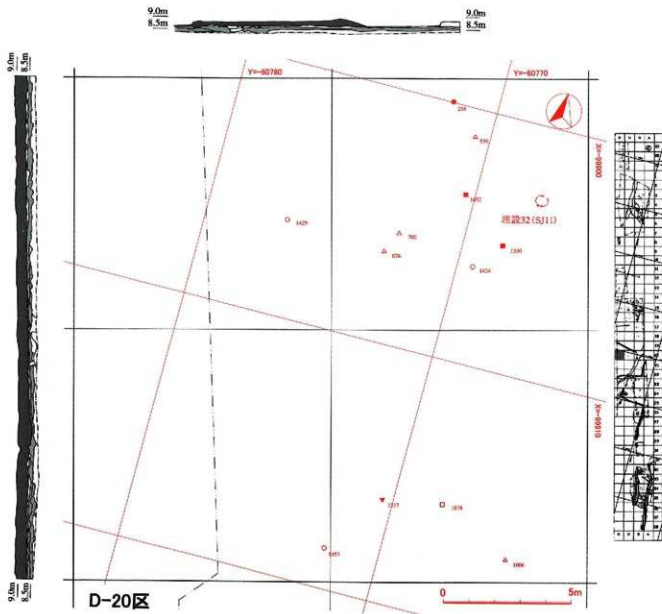
第63図 遺構検出及び遺物出土状況 (45) B-19区

#### B-19区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.44mである。Ⅲ層内部の特色から、これをⅢa・Ⅲb層と分けた。

この範囲からは、近世以降のものと思われる溝状遺構37 (SD16) が検出された。これは表土を剥がして精査した時点で、この部分だけが筋状にサビ色を呈していたので遺構名を付した。通常の遺構のつもりで掘ってみたものの、壁面も床面もつかむことができず、漸次層が変わっていった。したがって、この上部に何らかの施設があり、その痕跡として溝状に土質が変化した部分が検出されたのではないかと考えられる。条里型区画の延長上にあることと、磁北に合っていることから、関係があるものと想定される。昭和40年代の地籍図では、畦道と水路の様なものが描かれており、この水路の部分なのではなか

ろうか。他の遺構や遺物は検出されなかった。後世に削平されたものと考えられる。



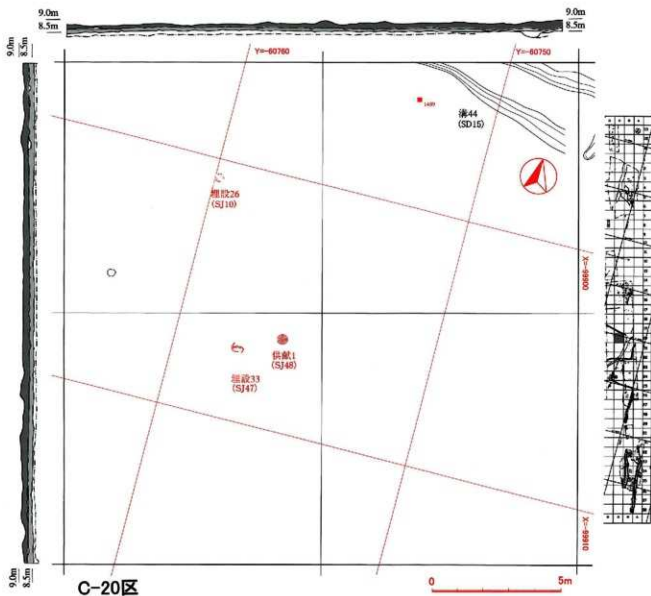
第64図 遺構検出及び遺物出土状況 (46) D-20区

#### D-20区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.64m、低い所で8.5mである。北側壁面のⅡ層は、その堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb・Ⅱb'層とした。また、西側壁面でもⅡ層の堆積状況からⅡ・Ⅱb層とし、Ⅲ層下部の層をⅢ'層とした。西側壁面の15.6mの地点～16.3mの地点にかけて、1層下部の層を1b層として分類した。

この範囲からは、縄文時代晩期のもと考えられる埋設土器32 (SJ11)を検出した。この区で出土する土器は黒川式土器が優位を占めている。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器等の遺物が東側から多量に出土している。



第65図 遺構検出及び遺物出土状況 (47) C-20区

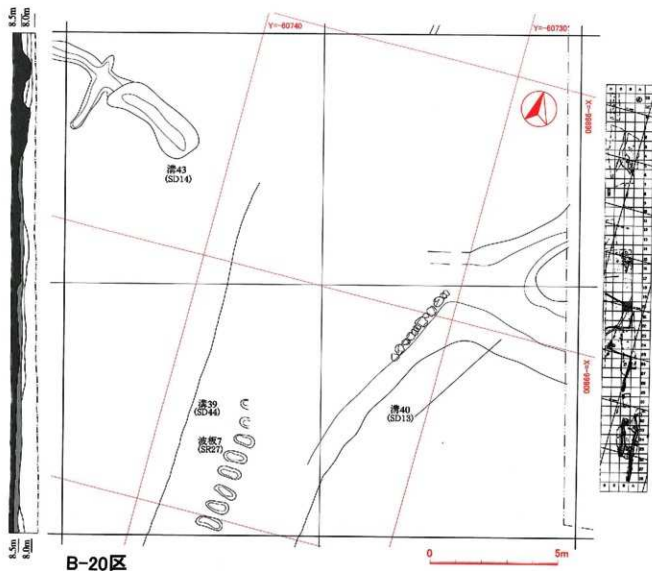
#### C-20区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.7m、低い所で8.53mである。Ⅰ層をその堆積状況からⅠ・Ⅰb層とした。北側壁面・西側壁面ともⅡ層は認められなかった。

この範囲からは、縄文時代晩期のもと思われる埋設土器26 (SJ10)・33 (SJ47)、供献土器1 (SJ48)を検出した。埋設土器26は表土を下げた時点で検出できたのであるが、埋設土器33及び供献土器1については、最終的な重機による掘り下げの際見つかったものである。この区での包含層はすでに削平され

ていたと考えられ、埋設された土器だけが確認できたといえる。近現代の道跡(溝状遺構43・44)は北東隅で確認された。

遺物の出土状況は、北側に点在する形で出土している。



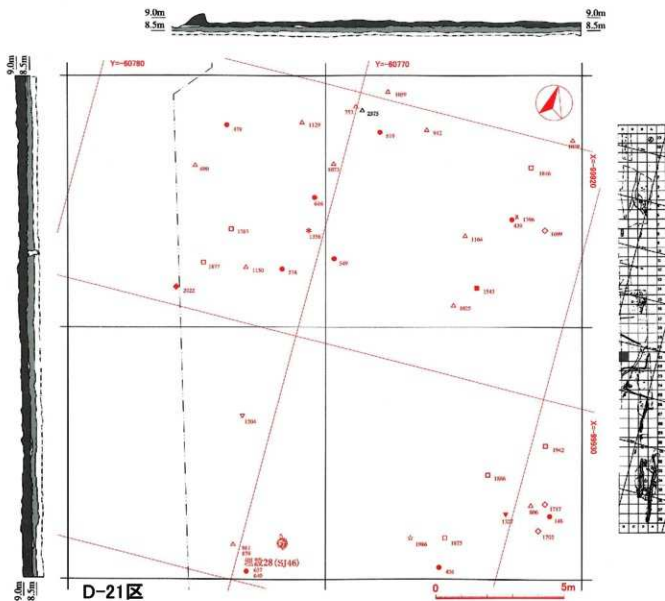
第66図 遺構検出及び遺物出土状況 (48) B-20区

#### B-20区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.6m、低い所で8.5mである。この範囲の層位はⅠ層→Ⅲ層→Ⅳ層→Ⅴ層となっていることから、昭和40年代の耕地整理の段階で削平を受けていることが考えられる。特にⅤ層が厚い。また、15m～20mの地点にかけてはⅠ層とⅤ層が厚く堆積している。

この範囲からは、中世のものと思われる波板状凹凸面7 (SR27)、近世以降のものと思われる溝状遺構40 (SD13)を検出した。遺物はスクレイパーや石製土掘具等の石器類が出土した。条里型地割の大区画

の交差点部分と考えられる地点であるが、ちょうど水路によって切られていたり、確認トレンチが入れられたためもあってか、はっきりした交差点を見出すことができなかった。南側へは昭和40年代までは川となっていた様であり、東側の一部を石列で護岸している。東側へは溝状の遺構が2つに分かれて延びていく様だったが、それ以上の追究は範囲外のためできなかった。昭和40年代の地籍図では、この部分で同様な田んぼ境が描かれている。これより北東側は山裾になるため、条里型には区画できなかったのではないかと推察される。

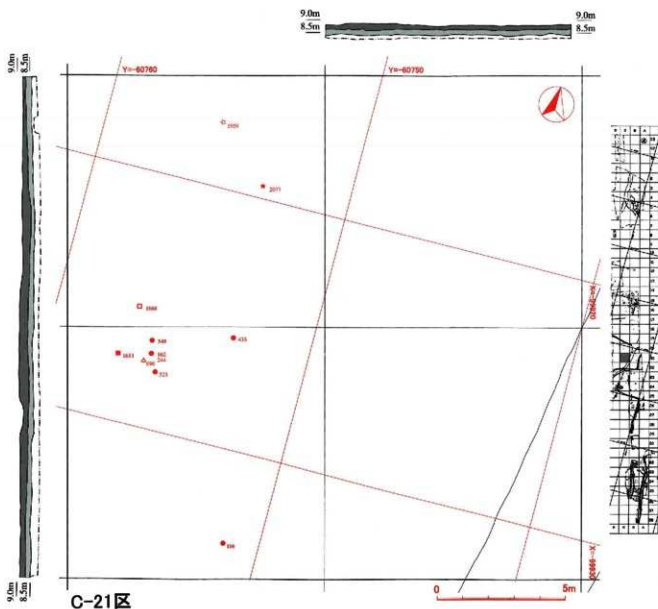


第67図 遺構検出及び遺物出土状況 (49) D-21区

#### D-21区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.66m、低い所で8.55mである。この範囲からは、縄文時代の埋設土器28 (SJ46)を検出した。上下の底部形態は異なるが、入缶式土器であると考えられる。この土器の数cm下から人頭大の礫も検出した。遺物の出土状況は濃密であり、大きくみると北側と南側に分かれる様である。縄文時代の遺物が多く出土しているが、円盤形石製品が4点とまとまりがある。

古代以降の遺構は全くみられず、遺物もごく少量であった。後世の削平によるものと考えられる。



第68図 遺構検出及び遺物出土状況 (50) C-21区

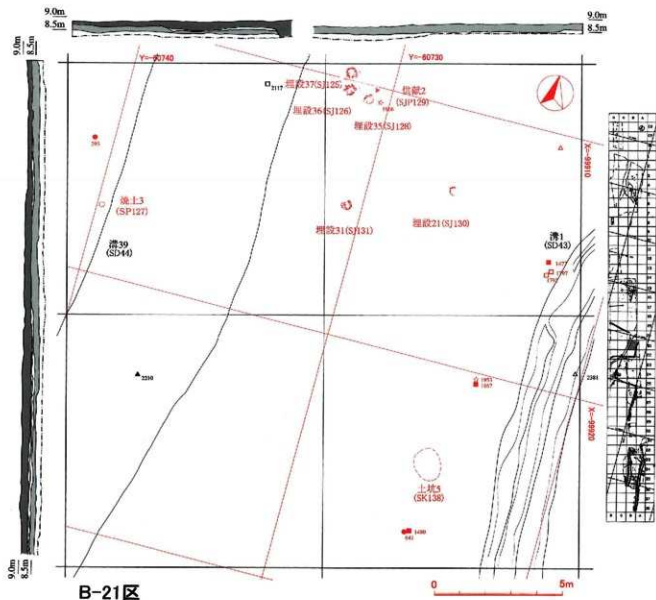
C-21区

削平のためだと思われる。

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.7m、低い所で8.5mである。南東隅に昭和40年代まで利用されていた溝状遺構39 (SD44)があるだけで、他の遺構は全くなかった。Ⅱ層がないことから、昭和40年代の耕地整理の際に削平を受けていたことが考えられる。

この範囲からは遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、西側から石製土器具・石織等の石器類や縄文土器が出土している。

古代以降の遺物がほとんどなかったのは、後世の



B-21区

第69図 遺構検出及び遺物出土状況 (51) B-21区

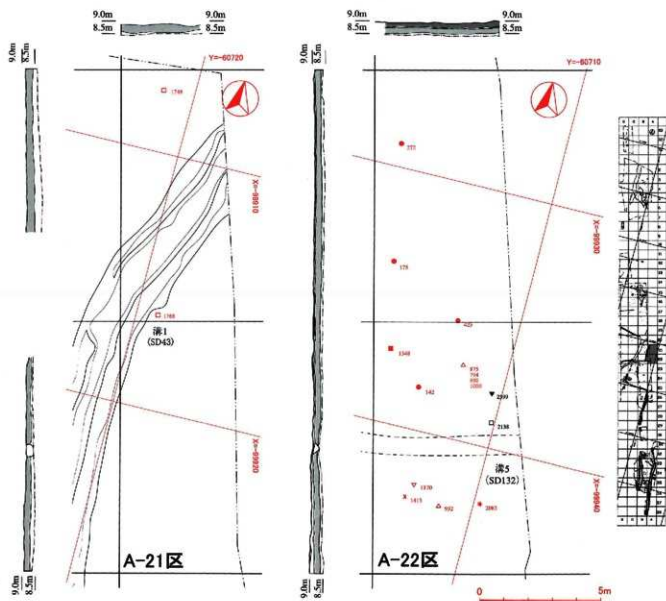
#### B-21区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.8m、低い所で8.5mである。北側壁面の8m～9.4mの地点の層で攪乱があった。溝状遺構39(SD44)が西側を占めていて、東側には溝状遺構1(SD43)が南北に走る。B-20区で検出した波板状凹凸面7(SR27)は、この区では検出できなかった。この範囲からは、縄文時代晩期の埋設土器37(SJ125)・36(SJ126)・35(SJ128)・21(SJ130)・31(SJ131)、供献土器2(SJP129)、縄文時代のピット1基、縄文時代の土坑5(SK138)を検出した。土坑からは小さな破片の土器が出土した。埋設土器は北東寄りに集中して検出されたが、若干の時期差がみられる。

遺物の出土状況は、石製土器・石製土器等の石器類

や縄文土器、須恵器・土師器等の遺物が中心より南東側の方から多く出土している。





第70図 遺構検出及び遺物出土状況 (52) A-21・22区

#### A-21区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で8.9m、低い所で8.8mである。北側壁面・西側壁面とも、表土除去後Ⅲ層上面から現れていることから、確認調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。B-21区から延びてきた溝状遺構1 (SD43) は、向きを東北に変えながら調査対象範囲外へ延びる。

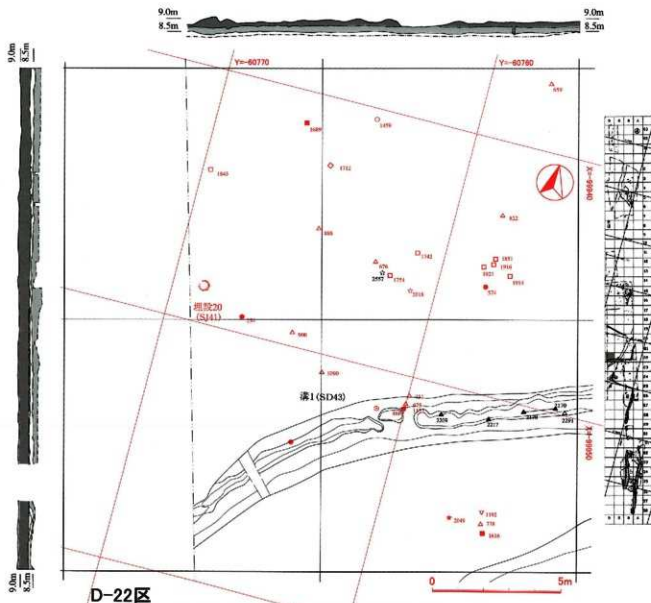
遺物はこの範囲の中にもまばらに点在する形で出土している。

#### A-22区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で9m、低い所で8.7mである。北側壁面・西側壁面とも、Ⅱ層上面から現れていることから、確認調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅢ層とⅣ層の間に、明灰色弱粘質土の土坑のような所が検出されたが、遺物は出土しなかった。

溝状遺構1 (SD43) から延びてきた溝状遺構5 (SD132) があったが、平面図は不手際により作成しなかった。写真及び土層断面と略図が頼りとなった。

遺物の出土状況は、石鎌・石核等の石器類や縄文土器等、この範囲全般から多く出土しており、遺物の量は比較的濃密である。



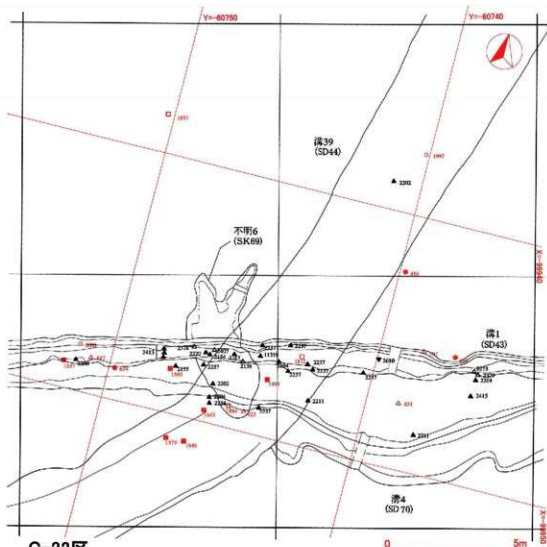
第71図 遺構検出及び遺物出土状況 (53) D-22区

#### D-22区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.66m、低い所で8.55mである。この範囲の西側壁面の2.7m～4.16mにかけて削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱb層とした。この範囲からは、縄文時代の埋設土器20 (SJ41)、古代の溝状遺構1 (SD43)を検出した。溝状遺構1からは、須恵器や土師器が出土した。南西側からややカーブしながら、山裾に向かって東へ走る。この範囲の遺物の出土状況は、石鏡・麻石・玉等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等の遺物が全般的な範囲で出土している。

9.0m  
8.5m

9.0m  
8.5m



C-22区

第72図 遺構検出及び遺物出土状況 (54) C-22区

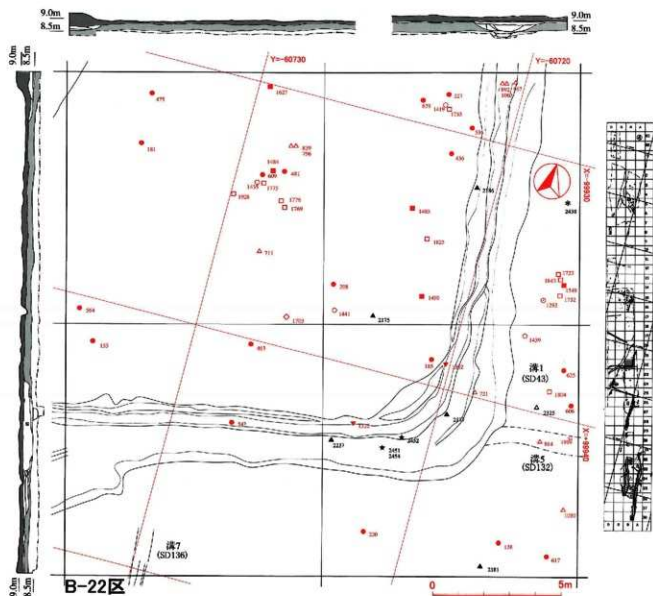
### C-22区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で8.8m、低い所で8.5mである。西側壁面のⅡ層下部の0m～1.2mの地点にかけて、厚さ約20cm程度の青灰褐色砂質土の層が堆積している。また、5.64m～6mの地点にかけて掘乱が認められた。北側壁面では15.1m～15.4mにかけて、厚さ約8cmの青灰色粘質土の層が認められた。北側壁面の16.1m～16.2mの地点に、幅10cm、深さ16cmの樹根が認められた。

溝状遺構1 (SD43) はこの区では、グリッドに沿った方向で東西に延びている。古代前半のものと思われる溝状遺構4 (SD70)、古代末～中世のものと思われる不明遺構6 (SK69) を検出した。溝状遺構4の埋土は、暗灰褐色粘質土である。不明遺構6から

は、須恵器片と土師器片の小破片が敷き詰められる形で出土した。古代前半の遺物は溝状遺構1の埋土及びその南側に集中しており、この周辺に当時の生活場所があったのではないかと考えられる。

遺物の出土状況は、石鏃・磨石等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等の遺物が全体的な範囲で多量に出土している。特に、南西側の方が濃密である。



第73図 遺構検出及び遺物出土状況 (55) B-22区

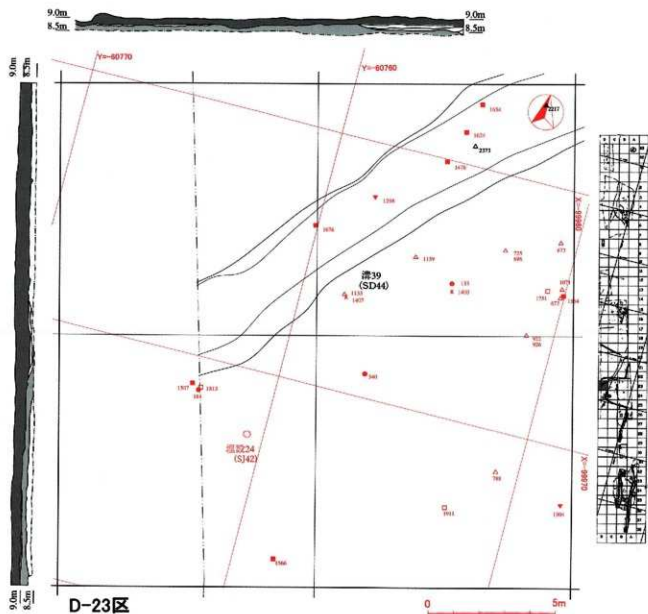
#### B-22区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.9m、低い所で8.56mである。北側壁面の11.2mの地点～12.64mの地点にかけて、削平されていた。北側壁面の15.84mの地点～18.4mの地点にかけて、Ⅱ層とⅢ層の間に黄灰褐色粘質土・暗灰色粘質土・褐色砂質土がレンズ状に堆積していた。溝状遺構1 (SD43) の埋土である。この遺構はこの区の南東側で、カーブを切りながらも直角に折れて北側へ向かう。

この範囲から、奈良時代～平安時代ものと思われる溝状遺構5 (SD132) を検出した。また、ここから須恵器片等が出土した。

遺物の出土状況は、閃石・石斧・石製土掘具・磨

石等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等の遺物が多量に出土している。特に中心部と、北西・東側から集中して出土している。



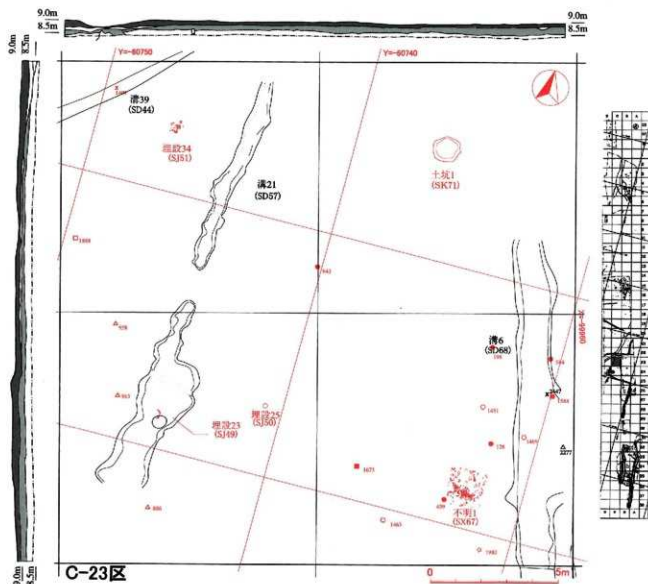
第74図 遺構検出及び遺物出土状況 (56) D-23区

#### D-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.71m、低い所で8.22mである。北側壁面のⅡ層はその堆積状況からⅡ・Ⅱa層とした。

この範囲から、縄文時代晩期のもと思われる埋設土器24 (SJ42)、近代のもと思われる溝状遺構39 (SD44) を検出した。

遺物の出土状況は、石製土器具・磨石・石鏃等の石器類や縄文土器、須恵器・土師器等の遺物がこの範囲全般的な部分で多く出土している。



第75図 遺構検出及び遺物出土状況 (57) C-23区

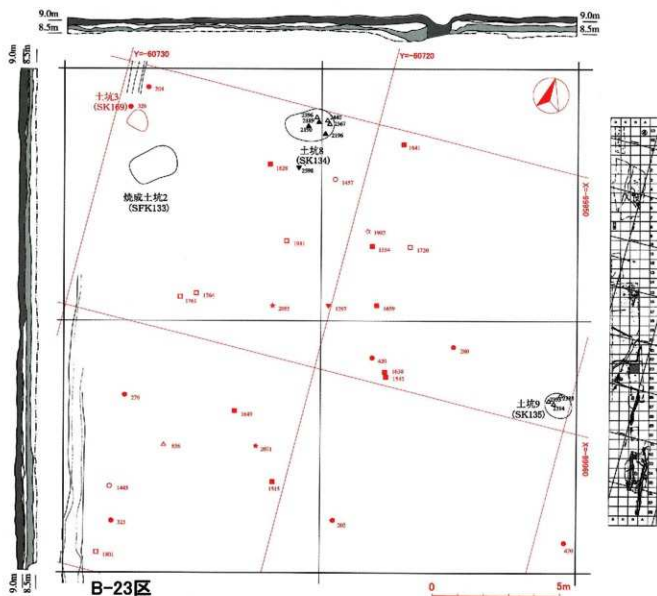
#### C-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.03m、低い所で8.56mである。Ⅱ層は西側壁面には存在せず、北側壁面の0.6m～3.9mの地点と、4.9m～5mの地点にしか存在しないことから、削平を受けていると考えられる。北側壁面のⅢ層の土質は灰褐色酸化鉄層で、Ⅳ層は灰褐色粘質土（酸化鉄変質）であることが確認された。北側壁面の西から18.48m～18.96mにⅢ層に落ち込んだ灰黄色粘質土があり、溝状遺構6（SD68）の延長とも考えられる。

この範囲からは、縄文時代晩期のものと思われる埋設土器23（SJ49）・25（SJ50）・34（SJ51）、不明遺構1（SX67）、縄文時代の土坑1（SK71）、古代末期～中世のものと思われる溝状遺構6を検出した。

これらの遺構から出土した遺物は、不明遺構1から縄文時代晩期の土器や人頭大の円錐、土坑1から縄文時代晩期の土器片、黒川式土器期に該当する浅鉢や深鉢が出土した。

遺物の出土状況は、石鏃・凹石等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等が南側から多く出土している。



第76図 遺構検出及び遺物出土状況 (58) B-23区

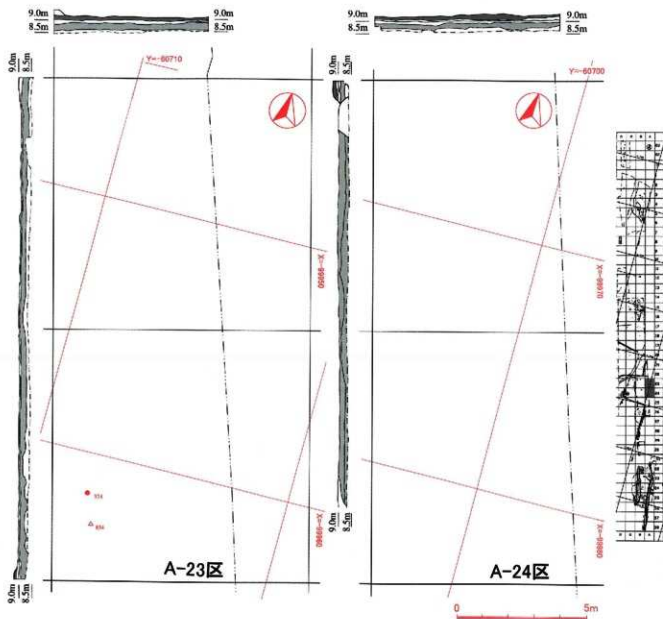
#### B-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.2m、低い所で8.5mである。北側壁面のⅡ層は、その堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。西側壁面はⅢ層から現れてきていることから、確認調査の時点で削平を受けていたことが考えられる。

この範囲から、縄文時代晩期と思われる土坑3 (SK169)、奈良時代～平安時代と思われる焼成土坑2 (SPK133)、奈良時代～平安時代と思われる土坑8 (SK134)・土坑9 (SK135)、平安時代以降のものと思われる溝状遺構7 (SD136)が検出された。溝状遺構7はグリッドに沿っており、確認トレンチ部分では削平されていた。これらの遺構の中からは、縄文土器の土器片や土師器等の遺物が出土した。

遺物の出土状況は、石製土器具・磨石・玉等の石器類や縄文土器等が、この範囲の中のいたる箇所で出土している。

古代の遺物は遺構内以外からはほとんど出土せず、包含層自体が削平されたものと考えられるが、この区から南側に当時の生活空間があったものと考えられる。



第77図 遺構検出及び遺物出土状況 (59) A-23・24区

#### A-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.96m、低い所で8.8mである。西側壁面はⅡ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。遺構は検出されなかった。

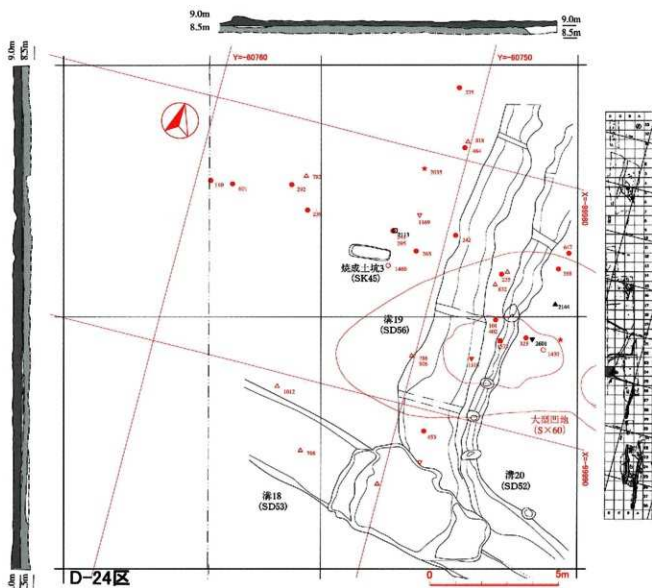
遺物の出土状況は、この範囲では縄文土器等が南側の方から多く出土している。

#### A-24区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.0m、低い所で8.8mである。西側壁面はⅢ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅢ層とⅣ層の間にオレンジが強い層があり、Ⅲ'層とした。西側壁面の18mの地点から、砂礫層が堆積している。

この範囲からは、遺構は検出されず、遺物は縄文土器が数点出土した。





第78図 遺構検出及び遺物出土状況(60) D-24区

#### D-24区

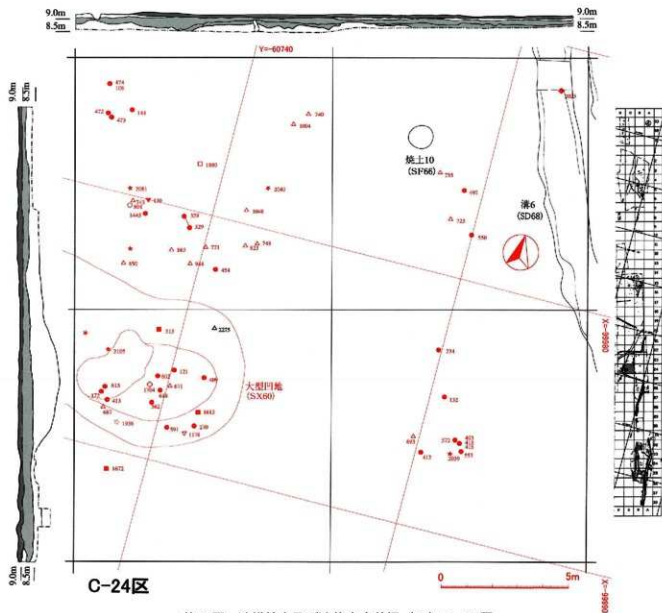
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.02m、低い所で8.64mである。北側壁面の17.9m～19.2mの地点Ⅲ層中に、幅1.3m、厚さ約12cmのⅢ層よりも柔らかく砂っぽい層を確認した。

この範囲から、縄文時代のものと思われる大型凹地(SX60)、古代～中世のものと思われる焼成土坑3(SK45)、中世のものと思われる溝状遺構20(SD52)・18(SD53)・19(SD56)を検出した。溝状遺構については埋土は存在せず、痕跡のみの検出であった。大型凹地の西側半分からは、土器や焼土塊、玉類等が出土したものの、東半分の量には及ばなかった。

この範囲の遺物の出土状況は、石製土掘具・石鏃・磨石等の石器類や縄文土器等が全般的な範囲で

出土しており、中でも南側から多量に出土している。

この区の南側に南北に延びる溝状遺構と東西に延びる溝状遺構との交点があることから、条里型地割の大区画の交差点であったと考えられる。



第79図 遺構検出及び遺物出土状況 (61) C-24区

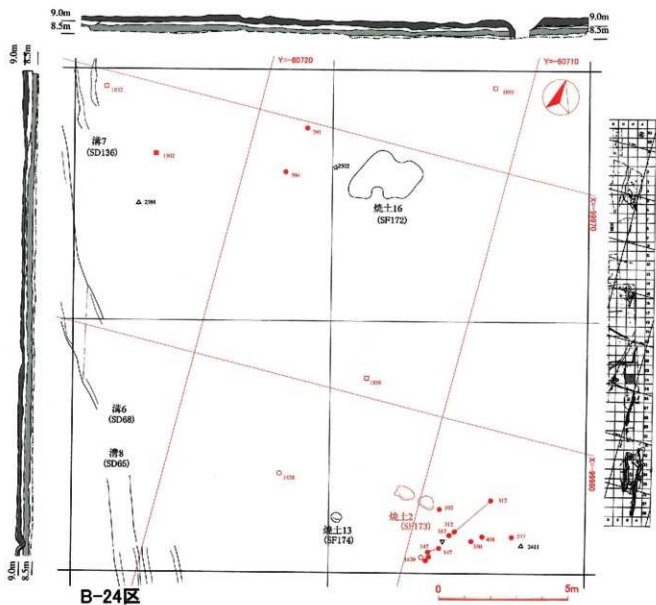
### C-24区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.7m、低い所で8.73mである。北側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.56m～0.96mにかけて、深さ24cmの排水溝があった。西側壁面のⅣ層下部の標高は8.48mであり、長さ2.9m～3.1mと11.1mの地点で炭化粒が混入している層を確認した。また、2.1mと11.9m～12.1mの地点では、どちらも直径約12.2cmの焼土の塊の層を確認した。土質はⅡ層が灰褐色粘土混じり、Ⅲ層が酸化鉄泥層、Ⅳ層が粘質で酸化鉄変質の層であった。

この範囲から、古代前半のものと思われるほぼ全面に赤く焼けている焼土遺構10(SF66)を検出した。この遺構では、焼土・炭及び灰白色の粒子が目立ち、

土師甕と考えられる破片が3点ほど出土した。溝状遺構6(SD68)は北側から東側へゆるくカーブしている。

遺物の出土状況は、磨石・石鏃等の石器類や縄文土器がこの範囲で全般的に出土している。中でも大型凹地(SX60)が位置する西側から多く出土しており、特に南西方向からの出土が濃密である。



第80図 遺構検出及び遺物出土状況 (62) B-24区

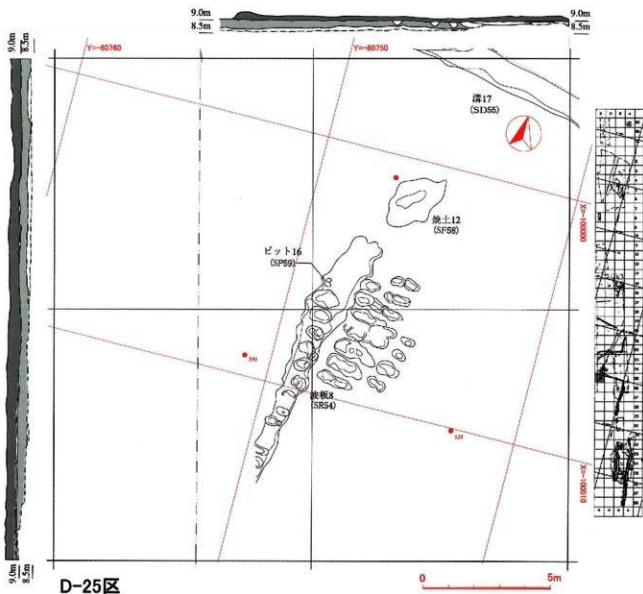
#### B-24区

北側壁面・西側壁面の皿層上面の標高は、高い所で8.9m、低い所で8.7mである。II層はその堆積状況から、IIa・IIc層とした。北側壁面の17mの地点～18mの地点にかけて、排水溝が通っていたため調査が実施できなかった。

この範囲からは、縄文時代のものと思われる焼土遺構2 (SF173)、平安時代のものと思われる焼土遺構16 (SF172)・13 (SF174)、古代末期～中世のものと思われる溝状遺構8 (SD65)を検出した。これらの遺構からの出土遺物は、焼土遺構13周辺からは縄文時代晩期の土器が出土した。その他の土坑からは、遺物は出土しなかった。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器等が中心の

南北を結ぶ線上に点在している。また、焼土遺構2  
近くの北東の端から集中して出土している。



第81図 遺構検出及び遺物出土状況 (63) D-25区

#### D-25区

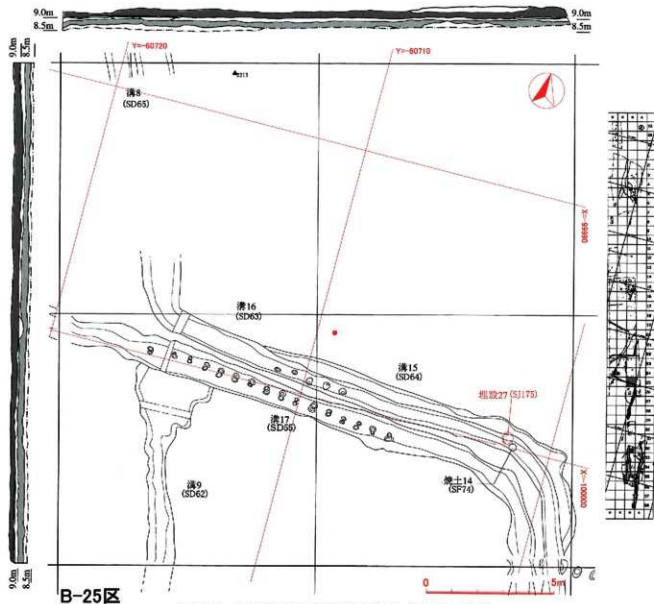
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.04m、低い所で8.62mである。北側壁面のⅢ層中13.1m～13.5m及び14.5m～14.9mの地点で、それぞれ厚さ約20cmの暗灰色粘質土を確認した。

この範囲から、古代のものと思われる焼土を伴う遺構12 (SP58)、同じく古代のものと思われるピット16 (SP59)、中世のものと思われる波板状凹凸面8 (SR54) を検出した。波板状凹凸面8は北側で次第に消えてゆき、南側は調査範囲外へ延びている。公共座標に沿っていることと、条里型地割の起点に向かっていていることから、条里型地割施行後の道跡であると考えられる。

遺物の出土状況は、縄文土器がこの範囲から点在

する形で出土している。また、この区から組織痕をもつ縄文土器も出土した。





B-25区

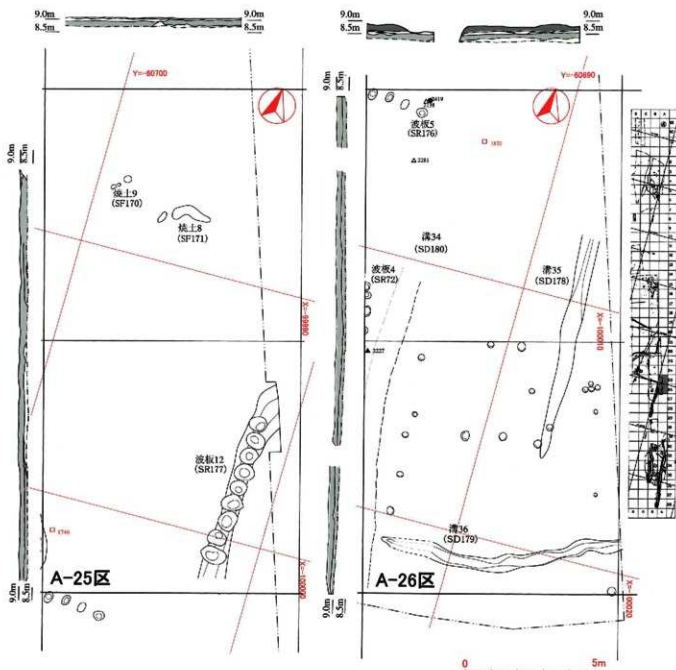
第83図 遺構検出及び遺物出土状況 (65) B-25区

#### B-25区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.0m、低い所で8.8mである。Ⅱ層では、その堆積状況からⅡa・Ⅱc層とした。北側壁面の13.5mの地点～18.3mの地点にかけて、客土がなされていた。

この範囲から、縄文時代晩期初頭の入佐式土器新段階と考えられる埋設土器27 (SJ175)、平安時代末から中世のものと思われる溝状遺構9 (SD62)・溝状遺構16 (SD63)・溝状遺構15 (SD64)を検出した。この区で3条の溝状遺構が交差しながら残存しているのは、条里型地割の変遷を考える上で重要である。すなわち、条里型地割施行前の溝状遺構9、施行途中の溝状遺構16、そして施行後使用された溝状遺構17 (SD66)が重なるのである。

遺物の出土状況は、まばらな形で点在している。



第84図 遺構検出及び遺物出土状況 (66) A-25・26区

#### A-25区

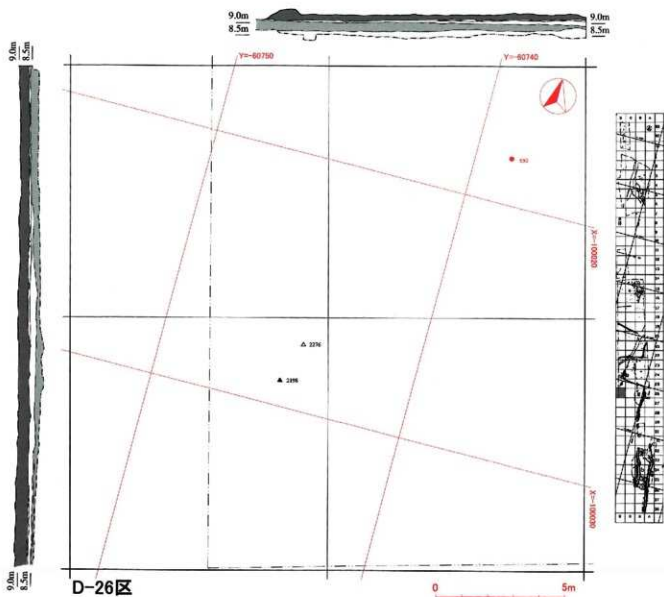
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.0m、低い所で8.9mである。北側壁面はⅡ層上面から、西側壁面はⅢ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面の北西隅16mの地点で、排水溝があったため調査はできなかった。

この範囲から、平安時代のもと考えられる焼土遺構9 (SF170)・8 (SF171)を、Ⅲ層から数cm掘り下げた時点で検出した。また、中世のもと考えら

れる波板状凹凸面12 (SR177)を検出した。埋土は灰白色細砂である。26区になると削平のため確認できなかった。

#### A-26区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で9.2m、低い所で8.9mである。北側壁面の2.6m～3.6mの地点は排水溝があったため調査はできなかった。西側壁面はⅢ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面



第85図 遺構検出及び遺物出土状況 (67) D-26区

のⅢ層とⅣ層の間に、オレンジ色の酸化鉄のような層が8cm～16cm堆積していることから、これをⅢ'層とした。北側壁面には、波板状凹凸面がⅡ層下位のⅡb層から落ち込んでいる。埋土は、暗灰色砂質土である。

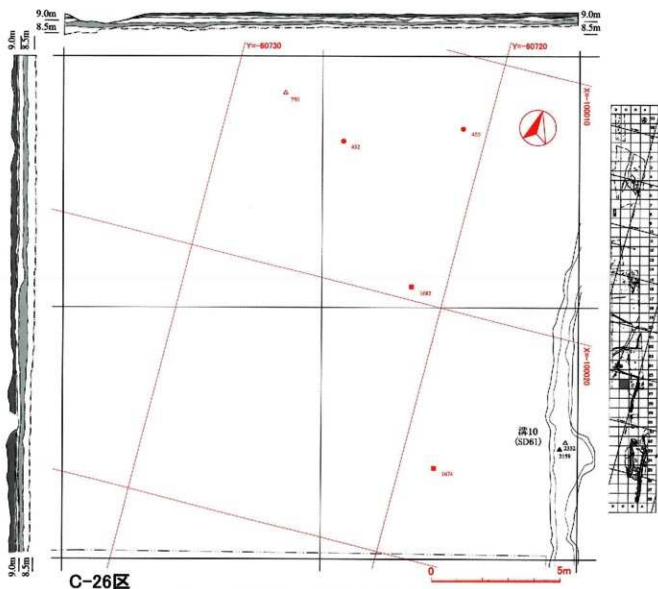
この範囲からは、中世のものと考えられる波板状凹凸面5 (SR176)・溝状遺構35 (SD178)・36 (SD179)・34 (SD180)を検出した。ピットも十数基検出されたが並べられなかった。

遺物の出土状況は北側と南側に集中して出土しており、中央部分からは、あまり出土しなかった。

#### D-26区

D区で最も南側に位置するグリッドである。遺構は全く確認されなかった。遺物もほとんど希薄となり、縄文土器・土師器ともに少なかった。





第86図 遺構検出及び遺物出土状況 (68) C-26区

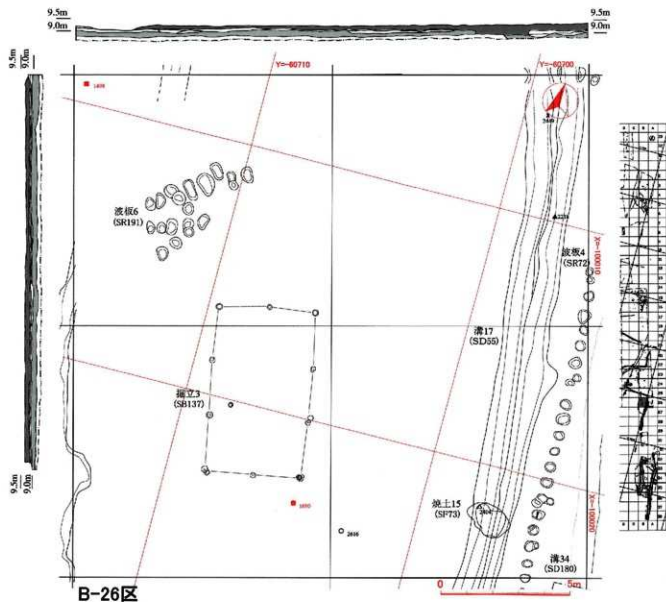
#### C-26区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.96m、低い所で8.8mである。北側壁面・西側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。また、西側壁面0.5m～3.56mの地点でⅡa層とⅢ層の間に、幅3.6m、厚さ約4cmの、Ⅲ層に比べて赤味の強い粘質土の堆積が認められたので、これをⅡd層とした。北側壁面では、11.7m～12.64m及び12.7m～13.5mの地点にかけて、厚さ約5cm～12cmの青灰色粘質土が堆積しているのが認められた。

この範囲からは、古代～中世のものと思われる溝状遺構10 (SD61) を検出した。埋土は灰白色の砂質土である。これらの遺構からは、須恵器や土師器片及び焼塩壺の破片が出土した。

遺物の出土状況は、この範囲にわずかに点在して

いる形で出土しており、特に遺構の周囲にあたる東側からの出土が多い傾向にある。縄文時代の遺物も中央より東側に寄っており、次第に分布が限られている。



第87図 遺構検出及び遺物出土状況 (69) B-26区

#### B-26区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.1m、低い所で8.9mである。Ⅱ層中に灰黄色粘質土及び青灰色粘質土の層が堆積していたので、Ⅱa・Ⅱc層とした。

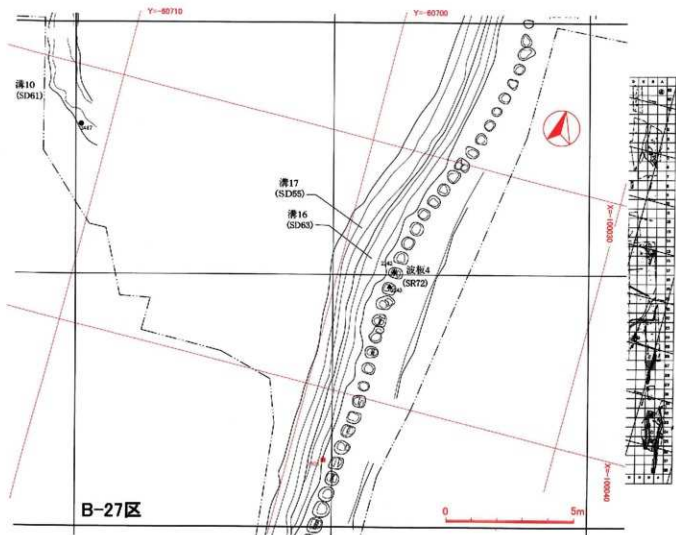
この範囲から、平安時代から鎌倉時代のもと思われる掘立柱建物跡3 (SB137)を中央付近で検出した。その北側には古代から中世のものと思われる波板状凹凸面6 (SR191)を検出した。ちょうど確認トレンチによって切られているので、波板状凹凸面6と溝状遺構10 (SD61)との関係を明らかにすることはできなかった。溝状遺構の埋土は白色の砂質土である。ここからは、須恵器片と考えられる土器片が出土した。東側には溝状遺構16 (SD63)・17 (SD55)

及び波板状凹凸面4 (SR72)が並行しながら、ほぼ南北に延びる。

遺物の出土状況は、この範囲の東側端から多く出土している。縄文時代の遺物は少なく、図示したのは石製土掘具の2点のみである。

#### B-27区

確認調査を基に予定された本調査対象区は26区以北であったが、溝状遺構10 (SD61)・16 (SD63)・17 (SD55)及び波板状凹凸面4 (SR72)が延びることから、協議の上最小限の範囲で調査を行った。溝状遺構10は確認トレンチで切られており、調査範囲内でそれ以上の追跡はできなかった。確認調査時点で認識できていないことから、確認トレンチに重な



第88図 遺構検出及び遺物出土状況 (70) B-27区

る方向に延びていた可能性もある。

溝状遺構16・17、それに波板状凹凸面4は並行しながら公共座標に沿って延びている。溝状遺構16と17は南端で合流して一つになる。当初予定していない発掘区域であったので、北側及び西側の断面図はとっていない。

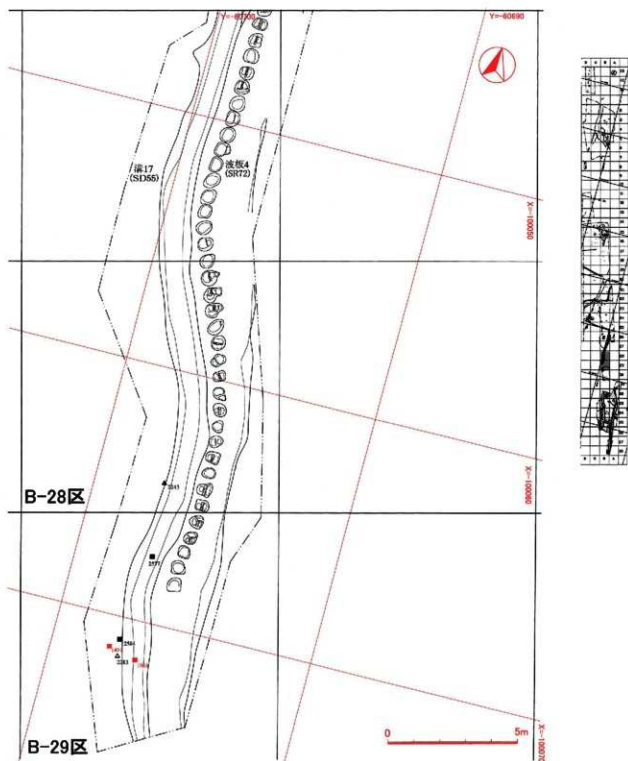
#### B-28区

B-27区から続く古代末期から中世にかけての波板状凹凸面4 (SR72) と溝状遺構17 (SD65) を追跡して最小の範囲で調査した。

遺物の出土状況は、この遺構に沿うような形で南北に点在して出土している。当初予定していなかった発掘区のため断面図はとっていない。

#### B-29区

本調査の対象区ではなかったけれども、溝状遺構16 (SD63)・17 (SD65) 及び波板状凹凸面4 (SR72) が続くと考えられたことから、協議の上最小限の範囲を調査することとなった。溝状遺構16と17は重複して1本となり、波板状凹凸面はそれに並行していたが、29区北側で次第に浅くなり消滅した。29区の中ほどには約2m幅の三面側溝があり、この部分まで調査したが、それより南側へも延びることがわかった。当初予定していなかった発掘区であるため、断面図はとっていない。

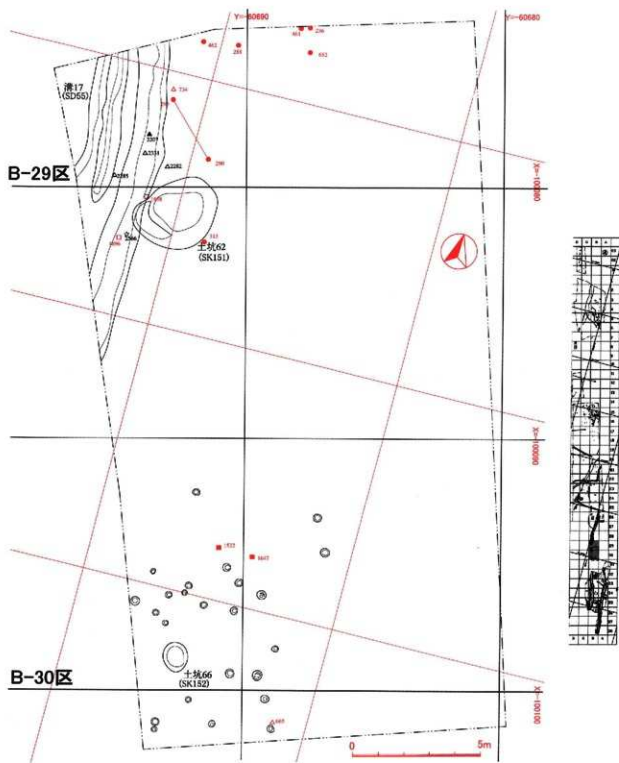


第89図 遺構検出及び遺物出土状況 (71) B-28・29区

**B-30区**

本調査対象区には入っていなかったけれども、溝状遺構17 (SD55) の延長が想定されたことから、再協議の上調査した地点である。アスファルトを剥が

して客土を除去した後、手掘りによる発掘を行った。東側の大半は深く攪乱を受けており、遺物包含層は残存しなかった。当初予定していない発掘区域であったことと、客土が厚かったことから、北側壁面及



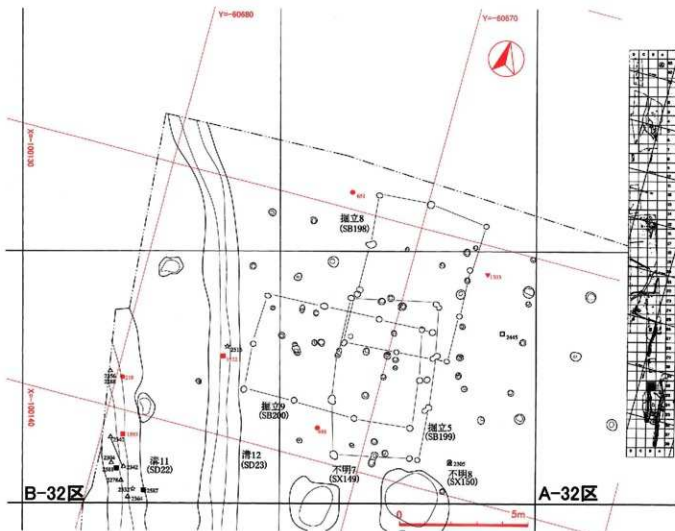
第90図 遺構検出及び遺物出土状況 (72) B-30区

び西側壁面の断面図はとっていない。

この範囲から、平安時代～鎌倉時代のものと思われる土坑62 (SK151)・66 (SK152)を検出した。この遺構から土師器片や須恵器片が出土した。土坑66の周辺には柱

穴が多数検出されたが、並べることはできなかった。最も南側にある柱穴は掘立柱建物跡の北面とも想定されたが、これ以上の追究は不可能であった。

遺物の出土状況は、この範囲のやや中心よりの南



第91図 遺構検出及び遺物出土状況(73) B-32区

側に集中して出土している。溝状遺構17はさらに西側へ延びていくが、工事が進行していたためこれ以上の追跡は不可能であった。

#### A-31区

工場敷地だった場所であり、アスファルトを削がしてからの掘り下げとなった。アスファルトの基礎や客土を除去すると、サビ色をしたⅢ層であり、特に東側は礫がゴロゴロしていた。西壁・北壁とも断面は実測していない。焼土17(SF204)は明確な塊はなく、深さも広がりも漸移的であった。溝状遺構22(SD146)から枝分かれした溝状遺構26(SD202)・27(SD205)・28(SD201)は次第にはっきりしなくなり消滅していった。

#### B-32区

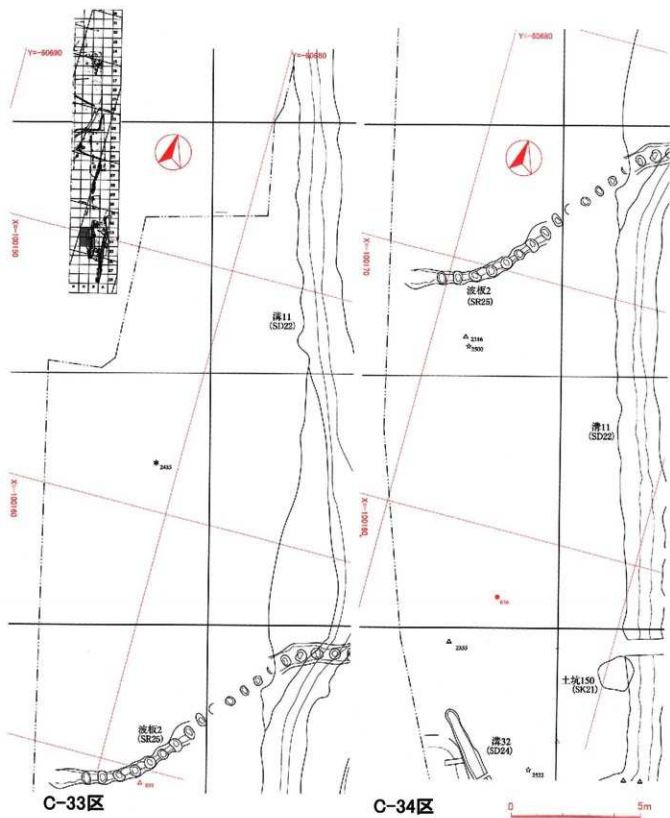
市道沖田2号線が通っていた場所であり、最後の調査区となった。市道のこの部分だけが、位置的にも方向的にも条里型地割の痕跡が存在することを予想して掘り下げたが、期待に反して全く予想外の結果となっ

た。多数の柱穴が集中して検出され、3棟分の掘立柱建物跡を把握することができた。同じ場所で建て替えられており、この地点が条里型地割の大区画に相当する場所ではなかったことが明らかとなった。掘立柱建物跡に接して不明遺構7(SX149)・8(SX150)がある。溝状遺構11(SD22)・12(SD23)はわずかに西側へ向きを変えていくが、これ以上の追究はできなかった。西壁・北壁とも断面は実測していない。

#### A-32区

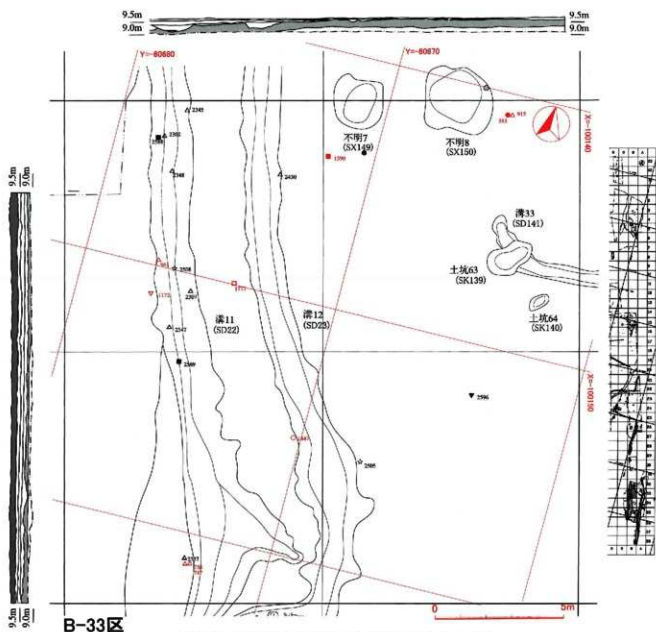
北側壁面・西側壁面・南側壁面の標高は、高い所で9.6m、低い所で9.54mである。北側壁面・西側壁面・南側壁面とも、Ⅱ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。南側壁面の6.2m～11.88mの地点にコンクリート壁が位置していたため、調査を実施することができなかった。北側壁面のⅢ層10cm～15cmの間には華大の礫がまっついていた。市道沖田2号線があった場所であり、発掘調査が最後になった地点である。市道は方向的にも距離





第93図 遺構検出及び遺物出土状況 (75) C-33・34区





第94図 遺構検出及び遺物出土状況 (76) B-33区

的にも条里型地割の大区域に相当しそうな地点であったが、それを示す様な遺構はみられなかった。

この範囲の遺構はA-33区から延びてきた溝状遺構22 (SD146) があり、その底面に波板状凹凸面が確認できた。さらに北側へは溝状遺構28 (SD201)・26 (SD202)・25 (SD203) が枝分かれしているのが明らかとなった。

直径40～55cm程度の土坑を10数基検出したものの、埋土が新しかったので遺構としては認定しなかった。遺物の出土状況は、中心部から弧を描くような形で出土している。

#### C-33区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所

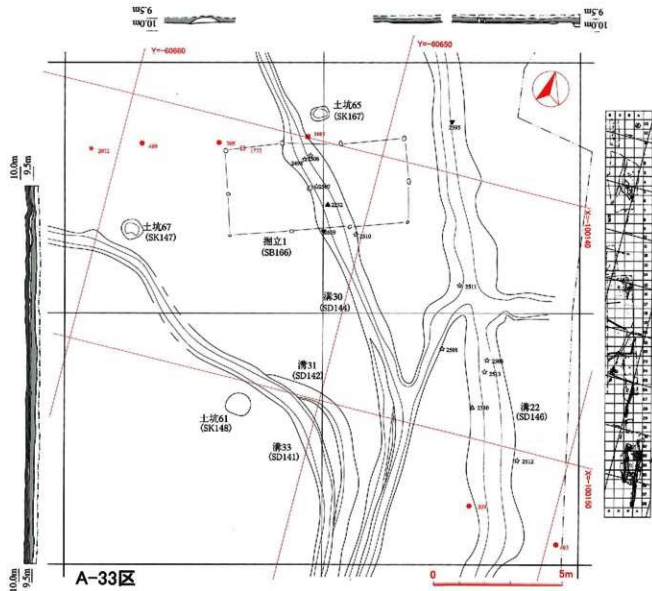
で9.5m、低い所で9.2mである。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、南東側から数点しか出土しなかった。

#### C-34区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.24m、低い所で9.2mである。西側は調査区域外であり、この範囲のⅢ層は北側壁面の17.4m～19.6mの地点だけしか確認できなかった。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb・Ⅱc層と分類した。

この範囲では、B-34区から続く古代末期から中世初期のものと思われる波板状凹凸面2 (SR25) を検出した。遺物の出土状況は、東側全般に広がって出土している。



第95図 遺構検出及び遺物出土状況 (77) A-33区

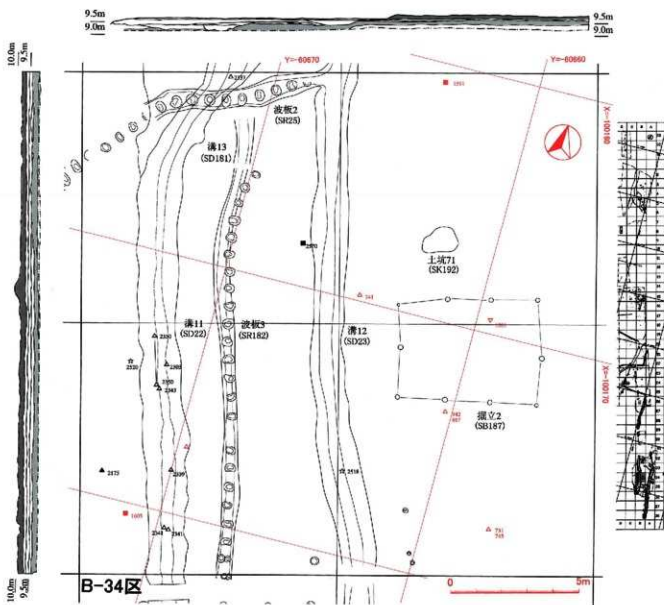
#### B-33区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.6m、低い所で9.0mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd層として分類した。北側壁面の3.2m～5mの地点のⅡb層とⅡc層の間には、暗灰褐色粘質土が堆積している層があり、また、その下には厚さ8cm、幅42cm程度の暗灰色砂質土で、5mm程度の砂利が混入している層がある。

この範囲からは、平安時代から鎌倉時代のものと思われる溝状遺構11 (SD22)・12 (SD23) を検出した。この遺構から、土師器・滑石製品・磁器が出土した。溝状遺構11は南側で大きく広がっており、東側へは登り口状のスロープもみられる。この張り出しに影

響されたせいか、溝状遺構12もこの地点で東側へ若干張り出している。また、土坑63 (SK139)・64 (SK140)、不明遺構7 (SX149)・8 (SX150) を検出した。土坑の埋土は灰色を呈する砂質土であり、不明遺構の埋土は黒灰色の粘質土である。不明遺構は、堆肥置き場または生活用水を一時貯めておくような、湿気の多い所 (スドボイ) が想定されたので土壌分析を行ったが、特別な物質は出てこなかった。これらの遺構からは遺物は出土しなかった。

遺物の出土状況は、この範囲から全般的に出土しているが、特に西側の方からの出土が多い。



第96図 遺構検出及び遺物出土状況 (78) B-34区

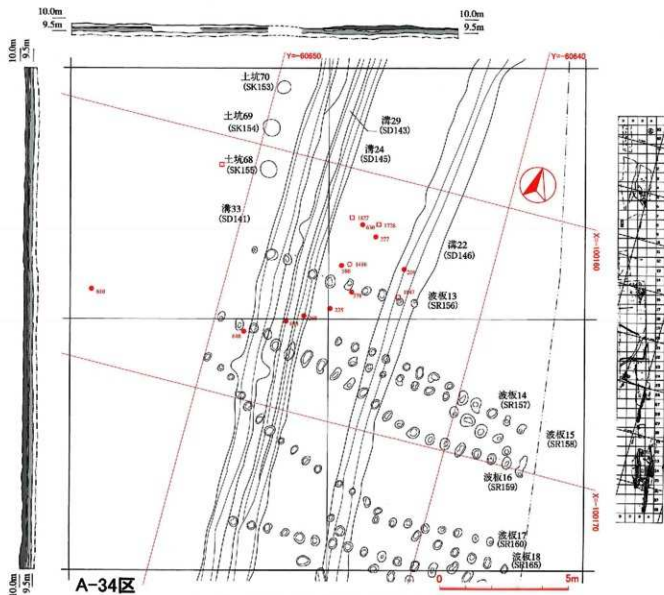
#### A-33区

西側壁面の標高は、高い所で9.64m、低い所で9.56mである。12.28mの地点で、IIa層の中に暗黄褐色粘質土が入っており、III層の中には暗灰黄色粘質土が入っている。西側壁面16.66mの地点～17.02mの地点にかけて、暗灰褐色弱粘質土が入り込んでいる。18.6mの地点からコンクリートの壁があったため、北側壁面の調査ができなかった。

この範囲からは、平安時代から鎌倉時代のものと思われる溝状遺構33 (SD141)・31 (SD142)・29 (SD143)・30 (SD144)・24 (SD145)・22 (SD146)、土坑67 (SK147)・61 (SK148)、竪立柱建物跡1 (SB166)が検出された。溝状遺構29は溝状遺構24と重なりながら延びて、溝状遺構30に吸収される。すべての溝

状遺構がこの地点で方向を変えたり分岐したりする様相がみられ、この区が条里型地割の何らかの変換点だったことが窺える。埋土は暗茶褐色粘質土である。36区の方から山裾に沿って、わずかに蛇行しながら延びてきた溝状遺構22は、埋土は黒茶褐色の粘質土であり、溝状遺構24と合流してA-32区に延びている。これらの溝状遺構の中からは、須恵器・土師器・滑石製品・玉縁の白磁等が出土した。土坑67・61は楕円形及びび円形の土坑で、埋土はIII層と同一の暗黄褐色土である。竪立柱建物跡1の埋土は黒茶褐色の粘質土である。

遺物の出土状況は、中心に向かって周辺部分で出土しており、特に南西方向から多く出土している。



第97図 遺構検出及び遺物出土状況 (79) A-34区

#### B-34区

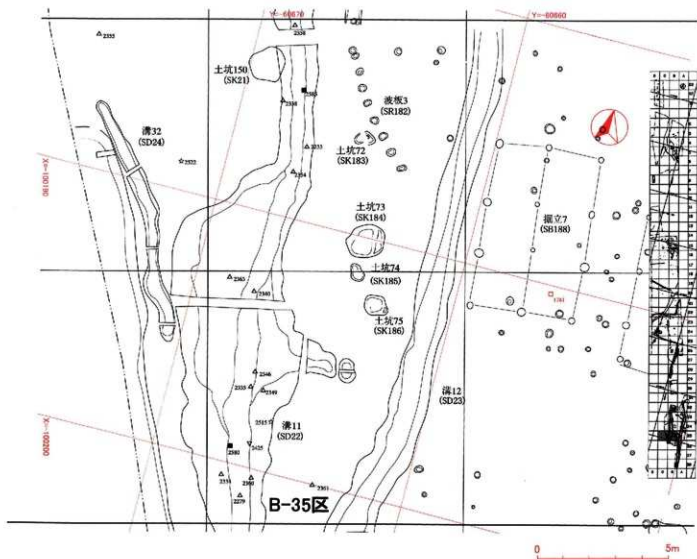
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.46m、低い所で9.04mである。北側壁面はⅡ層から現れていることから、昭和40年代の耕地整理で削平を受けていることが考えられる。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc層と分類した。北側壁面の6.5m～8.24mの地点のⅡ層とⅢ層の間に厚さ約8cm、幅1.5mの古代の耕作土と考えられる層が堆積していた。また、西側壁面の10m～14.04mの地点のⅡc層には、幅20cm～40cm、厚さ4cm～8cmの砂の塊の層が堆積しており、鋤痕ではないかと考えられる。上面は平坦に近く、下面は凸レンズ状となる。平面で広げてみたが、この層は確認できず、方向もわからなかった。

この範囲からは、古代末期から中世初頭のもの

と思われる溝状遺構13 (SD181)、波板状凸面2 (SR25)・3 (SR182)、掘立柱建物跡2 (SB187)、土坑71 (SK192)を検出した。溝状遺構と掘立柱建物跡は同じ向きをしている。

波板状凸面2の溝の中の埋土は灰褐色砂質土であり、床面の埋土は白色の細砂である。掘立柱建物跡2の埋土は暗茶褐色の粘質土、土坑71の埋土は炭化物の細粒を含んでいる黒茶褐色の粘質土である。

遺物の出土状況は、全般的に出土している。特に西側からの出土が多い。また、北から南に向かって、線状に出土している。



第98図 溝構検出及び遺物出土状況 (80) C・B-35区

A-34区

溝状遺構22 (SD146)・24 (SD145)・33 (SD141) が公共座標に沿って並行している。溝状遺構24 から分岐した溝状遺構29 (SD143) は、半分重なりながら並行する。土坑68 (SK155)・69 (SK154)・70 (SK153) も溝状遺構の方向で並んでおり、関連性が窺える。溝状遺構が完全に埋まった後、波板状凹面13 (SR156)・14 (SR157)・15 (SR158)・16 (SR159)・17 (SR160)・18 (SR165)・19 (SR161) が形成されている。東側の谷方向へ続いており、最も北にある波板状凹面13は東西の公共座標に沿っている。

C・B-35区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.62m、低い所で9.24mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd層と分類した。北側壁面では古代の耕作土と考えられる層があり、Ⅱd層とした。北側壁面のⅡ層とⅢ層の間の7.84mの地点～9.04mの地点にかけて、厚さ約30cm、幅1.2mにわたって砂礫層が堆積していた。西側壁面ではⅡc層の下に溝状遺構11 (SD22) の埋土が堆積している状況が認められた。

この範囲から、古代末期のものと思われる土坑72 (SK183)・73 (SK184)・74 (SK185)・75 (SK186)、中世のものと思われる土坑150 (SK21)、同じく中世のものと思われる掘立柱建物跡7 (SB188)、B-35区と36区の間で古